

外に成形時のヨコナデ痕が残る他、底部外面には切り離し時の回転糸切り痕がそのまま残存する。形態の特徴では、底部は平底無高台で、体部は斜外方へ内湾気味に大きく開き、口縁端部は軽く外反させて丸くおさめるものが多い。法量は完存するものが少ないが、計測可能なものは概ね口径12~14cm、器高3.5~4.5cm内に収まる数値を有する。1740~1745は赤彩土師器である。1740・1741は平底底部に内湾しながら開く体部を有し、基本形態は回転台土師器の杯に類似する。1741については底部外面に回転糸切り痕が残る。1742はやや大振りの法量の平底杯の底部で、やはり外面に回転糸切り痕が残る。1743・1744も底部の破片だが、体部の開く角度が浅く、皿の底部と考えられるものである。1745は平底無高台の皿で、体部は浅い角度で大きく開き、口縁部はさらに側方へ突出するように開いておさめる。外面には切り離し時の回転糸切り痕が残る。口径11.6cm、器高2.3cmの法量を有する。1746~1754は土師器長甕である。基本形態は砲弾形の丸底長胴の体部に、「く」字状に短く開く口縁部を有する。口縁端部の形態には、端部が外反して端面を丸くおさめるもの(1746・1747)、端部の内端を上方に軽くつまみ上げ、断面三角形を呈するもの(1749~1752・1754)、端面に外傾する平坦な面を有するもの(1753)がある。一方体部は上半部の内外にカキメがみられる。体部外面下半については残りの良い1752~1754では、縦方向のヘラ削りが施される。1754の内面では下半は斜方向のハケ調整を施している。完存するものがほとんどなく正確な法量をなかなか知ることができないが、唯一の完存例である1754では、口径20.5cm、体部最大径20.3cm、器高32.6cmを測る。1755~1762は素焼き焼成の土甕である。破損した小破片のものが多いが、樽型ないしは寸胴型の形態で、中央が竹輪状に抜かれている。外面には成形時の指頭痕が残るものもあるが、表面が使用により良く摩滅しているものが多い。最も残りの良い1760では幅3.6cm、長さ6.3cm、内径1.4cm、重さ66.02gを測る。1763~1778は土師器甕である。いずれも1746~1754と同様の長胴を有する長甕と考えられるが、口縁端部の形態が異なる。すなわち口縁端部が内側に肥厚するものが典型だが、それ以外にもいくつかの形態差が看取できる。1763~1770は口縁内端が内側に肥厚するが、それほど顕著ではない。断面で接合部分を観察できるものでは、単純口縁の内側に粘土を継ぎ足して肥厚部を成形したような痕跡を残すものが多い。1771~1775はこの肥厚部分が独立して突出したような形態で、横断面は「S」の字を上下両方から押しつぶしたような形状を呈する。1776・1777は逆に肥厚部分が薄く、あまり明瞭ではない。1778は逆に肥厚部分が糸状に内側に巻き込んでいる。これらは口縁部だけの破片で、体部以下が残存するものはみられないが、体部上半については、内外面ともカキメが施されているものが多い。1779~1783は土師器小型甕の底部破片と考えられる。底部は平底で、外面には回転糸切り痕がそのまま残る。内面は成形時のヨコナデ痕がそのまま残るが、外面は荒いヘラ削りを施している。1785も同形態、同手法であるが、こちらは法量が大型である。1784は1779~1783と同じ小型土師器甕だが、底部は丸底で回転糸切り痕もみられない。外面は荒くヘラ削りされる点は共通するが、内面はハケ調整が施されている。1786も丸底の底部破片だが、こちらは長胴型長甕の底部破片の可能性が高い。体部外面は縦方向に、内面は斜方向にハケ調整を施している。1787・1788は小型の土師器甕の完存する例である。法量や成形・調整に違いはあるが、基本的には同形態である。すなわち平底の底部に半球形の体部を有し、口縁部は受け口状に屈曲して立ち上がる。小型の1787は、内外面をナデで仕上げる。口径9.3cm、器高8.3cmの法量を測る。やや大型の1788は、体部外面上半はカキメ、下半は荒いヘラ削りを底部を含めて施す。内面は体部下半に荒いハケ調整の痕跡が残る。法量は口径13.5cm、器高11.7cmを測る。1789~1791は取手付き土師器甕である。1789・1790は取手部分のみの破片。1791は、長胴甕の底部を半載したような丸底半球形の体部の側面一カ所に、片取手が貼り付けさ

れている。取手の先端は欠失している。体部および取手部は全面ハケ調整されるが、体部はさらに内外を縦方向に荒いヘラ磨きを施している。口径15.6cm、器高11.7cmの法量を測る。1792は土師器焼成の製塩土器の体部破片である。体部の内外面には成形時の粘土の継ぎ目と指圧痕が顕著に残る。外面にはさらに荒いハケ調整の跡がみられる。1793・1794は使途不明の板状土製品である。平面形態は長方形だが、両端が折損しており、本来の形状は定かではない。横断面は楕円形に近い隅丸長方形を呈す。外面には部分的にハケ調整の痕跡が観察される。一応横長に図示したが、本来の上下左右かどうかは確信がない。穿穴住戸のカマドなどで使う上製支脚の一種とも考えられる。1795～1797は土師器甕である。口縁部のみ破片だが、逆「ハ」字状に屈曲して開く口縁部と、最大径が口径よりも小さくあまり胴の張らない体部を有する。1795は内外ともナデ仕上げ、1796・1797は外面はハケ調整、内面はハケ調整ないへら削りされている。1798は土師器鍋である。内湾して開く体部から口縁部が屈曲して短く直線的に外傾する。口縁端部は平坦で面をもつ。体部外面にはカキメが、内面の下半にはハケ調整がみられる。復元口径31.2cmを測る。

中世（図面289～291-1799～1943）

中世の遺物には中世土師器皿、珠洲、八尾、中国製青磁・白磁、瀬戸美濃などがある。

〈井戸〉

SE01（図面289-1802～1804）：1802・1803は土師器大皿で、森分類のD1類に相当する。形態は、径の小さな平坦な底部の底端を強く折り曲げ、体部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲する。端部は上方に丸くつまみあげる。後Ⅱ期に比定される。1804は珠洲播鉢の底部破片。平底の底部から体部が直線的に顔方に大きく開く形態と推定される。残存部位では播目は観察できない。

SE02（図面289-1807～1813）：1807～1809・1811・1812は土師器皿である。1807～1809・1812は森分類B4類の小皿である。形態は扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納めるもの（1809）と、鋭く仕上げるもの（1807・1808・1812）がある。前Ⅶ～Ⅷ期に比定される。1811は森分類A2類の土師器皿。形態は、器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾するもの。口縁端部は押しナデされ面を有する。本例についてはやや古く前Ⅴ～Ⅵ期に比定される。1810は八尾の甕で、口縁部破片である。復元口径は27.6cmで、ⅡA類に相当する。1813は中国陶磁で、龍泉窯系青磁の碗の体部破片である。内面に襷描きによる文様が一部認められる。大宰府分類のI-2～4類に相当する。

SE03（図面289-1814）：1814は土師器皿で、森分類B4類に該当する。形態は、扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は細く仕上げる。復元口径13.0cm、器高1.8cmの法量は、中・大皿相当のものであろう。前Ⅶ期～前Ⅷ期に比定される。

SE06（図面289-1805）：1805は珠洲播鉢で、直線的に開く体部に口縁端面が外傾し、口縁端部の外縁が側方にわずかに張り出す形態である。吉岡編年のⅣ2期に比定できる。

SE07（図面289-1801）：1801は回転台成形の土師器皿の底部破片。柱状高台に近い形態で、底部外面には回転糸切り痕が残る。底部破片のみの残存のため、時期不詳である。

SE08（図面289-1800）：1800は土師器大皿で、森分類のC2類に相当する。形態的特徴はシンプルなもので、丸底の底部から深みのある体部強く内湾して立ち上がる。口縁部は直立気味につまみあげ、端部は鋭く仕上げる。口径11.0cm、器高3.2cmの法量を測る。前Ⅶ～後Ⅰ期に比定される。

SE09（図面289-1806）：1806は土師器の小皿で、森分類のB1類に相当する。形態は、丸底ないしは

丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。前Ⅱ期～後Ⅰ期に比定できる。

SE10 (図面289-1799) : 1799は中国陶磁である。体部外面に蓮弁文を有する龍泉窯系青磁碗の小破片。大宰府分類のⅡ-b類 (ⅡI-5-b類) に相当する。

〈土坑〉

SK010 (図面289-1829) : 1829は土師器小皿である。森分類のB1類に相当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後Ⅰ期～後Ⅱ期に比定される。

SK012 (図面289-1826) : 1826は珠洲の壺の口縁部破片で、ロクロ成形のR種と考えられる。口縁部は逆「ハ」字状に大きく外反し、端部は肥厚させて玉縁状とする。頸部以下は欠失しており、本来の器形は窺い得ない。吉岡編年のⅡ期に比定される。

SK015 (図面289-1821) : 1821は土師器小皿で、森分類1B類に該当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後Ⅰ～後Ⅱ期に比定される。

SK038 (図面289-1833) : 1833は八尾壺の口縁部破片である。森分類のⅡa類に相当する。形態は、口縁部が受け口状に屈曲するが、受け口部は低く未発達である。外面の頸部も丸みを帯びてゆるやかに屈曲している。口縁部および頸部上半は内外ともヨコナデ仕上げされる。体部外面下半は縦方向のヘラ削りが残る。内面には粘上の巻き上げ単位で、接合痕が残る。また破口には漆継ぎの痕跡がみられ、破損後一度は補修されたことがわかる。

SK059 (図面289-1827) : 1827は珠洲播鉢底部破片である。平底の底部から体部が斜外方に開く形態である。内面は使用による摩滅が激しく、播目などは確認できない状態である。

SK064 (図面289-1824・1825) : 1824は中国陶磁で、同安窯系青磁碗の底部破片である。高台は削り出しの角高台で、高台畳付けおよび外底面は施釉せず、露胎とする。大宰府分類のⅠ-1-b類碗の底部と考えられる。1825は土師器の大皿で、森分類のC2類に分類される。形態は、丸底の底部から深みのある体部強く内湾して立ち上がる。口縁部は直立気味につまみあげ、端部は鋭く仕上げる。前Ⅲ期～後Ⅰ期に相当する。

SK067 (図面289-1828) : 1828は珠洲播鉢底部破片である。平底の底部で、内面には播目を密に施す。

SK075 (図面291-1882) : 1882は珠洲壺の底部に近い体部破片である。外面は底部と体部の粘土接合部を境に、上半部が叩き目、下半はヨコナデ仕上げされている。内面も同様に上半部は円形に窪んだ当具痕、下半はナデ仕上げされている。

SK114 (図面289-1815) : 1815は中国陶磁で、龍泉窯系青磁碗の体部破片と考えられる。外面には銘蓮弁がみられる。上田分類B-Ⅱ類に相当するもの考えられる。

SK117 (図面289-1830) : 1830は中国陶磁で、龍泉窯系青磁碗の口縁部破片である。体部外面にヘラ描きの雷文を施している。上田分類のC-Ⅱ類に該当する。

SK118 (図面289-1831・1832) : 1831・1832は土師器小皿である。共に森分類B1類に比定される。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後Ⅰ～後Ⅱ期に比定される。

SK122 (図面289-1823) : 1823は珠洲播鉢である。口縁部は、内端は角状に上方に摘み上げ、外端は側方に嘴状に突き出す。口縁の端面自体は外傾する。また口縁端面は外傾せず水平となる。吉岡編年

のIV期に比定される。

SK131 (図面289-1820) : 1820は土師器小皿で、森分類B1類に該当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後I～後II期に比定される。

SK135 (図面289-1816~1819・1822) : 1816~1819は土師器小皿である。すべて森分類B1類に該当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。1818のみやや古く前VII~前VIII期に比定される。他は後I～後II期の時期と考えられる。1822は珠洲の甕である。口縁部は短く外反する短頸、方頭の形態で、体部の外面は並行の叩き目が、内面には円形の当具痕の痕跡が残る。吉岡編年のIV2期に比定される。

〈溝〉

SD02 (図面290-1841~1867) : 1841は回転台成形の土師器皿である。底部は回転糸切りの平坦な切り高台で、口縁部は短く内湾気味にひきだす。底部の器壁はあまり厚くなく、柱状高台ではない。前V~VI期に比定される。1842~1844・1846~1856は手捏ね成形の上師器皿である。1847~1849は森分類B1類の小皿である。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後I～後II期に比定される。1844もB1類の小皿だが、こちらは前V~VI期に遡る古手のものと考えられる。同様に1855・1856も中・大皿相当のB1類で、この2点もまたやや古い前VII~VIII期に比定できる。1846は森分類B3類に比定される土師器小皿。形態は、体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は細く仕上げる。前VII期に比定される。1842は森分類のB4類に相当する土師器小皿である。形態は、扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。前VI期に比定される。1854は中・大皿相当の少量を有する土師器皿。森分類のC2類に相当する。形態は、丸底の底部から深みのある体部強く内湾して立ち上がる。口縁部は細く仕上げる。本例はC2類の中でも、口径に比べやや器高が低く扁平なものに相当する。時期は前VIII~後I期に位置づけられる。1850・1852は森分類Z5類に比定される土師器小皿である。形態は、底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は短く強く外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。後I～後II期に比定される。1853は森分類Z9類に比定される。丸底の底部から幅広い口縁部が大きく外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。後II期に比定される。1857~1859は、珠洲の底部破片で、1857が壺、1858・1859が播鉢の底部と考えられる。1864~1866は珠洲播鉢の口縁部破片である。1864は、幅の広い水平な口縁部端面を有し、僅かに外端が側方へ突出する。吉岡編年IV1期に比定される。1865は、鋭く外端が突き出る口縁部で、端面は水平かわずかに内傾する。播目を密に施す。口縁の端面に波状文を施している。器壁が薄手でシャープなつくりのもの。吉岡編年のV期に比定される。1866は、体部から口縁部が直線的に外傾する。口縁端部の形態では、口縁端部に面をつくり出し、内端を内側に軽くつまみ上げる。吉岡編年のII期に比定できる。本調査地出土の珠洲のなかでは古手に位置づけられる。1867は珠洲甕の口縁部破片である。口縁部の形状は円頭で短く「く」の字状に屈曲する。吉岡編年IV期に比定される。1860~1863は中国陶磁である。1860は、龍泉窯系青磁の坏で、浅く開く体部に受け口状の口縁部を有する。体部内面には蓮弁文を描く。大宰府分類・編年のIII-3-b類に相当する。1861は龍泉窯系青磁の碗である。体部は内湾ぎみに開き、口縁部は軽く外反する。外面にはへう描きで蓮弁文を施す。

大宰府分類・編年のII-b類(旧I-5-b類)に比定される。1862・1863は白磁皿の底部破片である。1862は内底面は蛇の日軸剥ぎにする。底部外面は露胎である。森田分類D群に相当する。1845は土師器小皿で、森分類ではB2類に該当する。扁平だが、丸底ないしは丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は丸く仕上げる。前V～VII期に比定される。

SD03 (図面289・290-1835～1837・1868) : 1835・1836は土師器小皿である。共に森分類B1類に比定される。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く直線的に開いた後、端部を鋭く仕上げる。後I～後II期に比定される。1837は龍泉窯系青磁の皿ないしは坏(盤)で、底部破片である。底部には削り出しの角高台がつく。内底面は蛇の日軸剥ぎされる。高台および外底面は施釉せず、露胎とする。1868は珠洲播鉢口縁部破片である。幅の広い水平な口縁部端面を有し、僅かに外端が側方へ突出する。吉岡編年のIV2期に比定される。

SD12 (図面290-1869～1877) : 1869は回転台成形土師器の底部破片である。外底面に回転系切り痕が残るが、小破片のため器形は不明。1870～1872は手捏ね成形の土師器皿である。1870は森分類のB1類に相当する。丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く浅く開く。端部は鋭く仕上げる。前VI期に比定される。1871は中・大皿相当の土師器皿で、森分類のB3類に相当する。丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は丸く仕上げる。前VI期に比定される。1872は森分類Z3類に相当する。径の小さな底部から体部が斜外方へ開き、口縁部は短く屈曲させ、端部は先細りに仕上げる。前VI期に比定される。1873は瀬戸美濃で、灰軸卸皿の底部破片である。内底面全体にへらで格子状に卸目を刻む。底部は平底の切り高台。藤澤分類・編年の古瀬戸後期に比定される。1874～1877は珠洲である。1874は播鉢の底部で、平底の底部から体部がわずかに内湾しながら開く。内面は隙間なく密に播目を施す。1875は播鉢の口縁部破片である。形態は、体部から口縁部が直線的に開き、口縁部の端面が大きく幅広に内傾する。端面には波状文を施文している。吉岡編年のVI期に比定される。1876は甕の口縁部破片である。口縁部は短頸で、円頭が短く「く」字状に屈曲する。体部外面にはヨコ方向の叩き目が、内面には当具痕の円形の窪みが観察される。吉岡編年のV期に比定される。1877はR種の壺の底部破片である。

SD16 (図面289-1838～1840) : 1838～1840は珠洲である。1838は珠洲播鉢の底部である。平底の底部から体部が斜外方へ開く形態である。内面は使用に伴う摩滅が著しいが、播目の痕跡がわずかに観察できる。1839は珠洲甕の底部破片である。1840は珠洲播鉢の口縁部破片である。体部から口縁部が直線的に開き、口縁部の端面が大きく幅広に内傾する。端面には波状文を施文されている。櫛描きの播目は内面全体に密に施す。吉岡編年のVI期に比定できる。

SD17 (図面290-1878) : 1878は中国陶磁で、龍泉窯系青磁碗の口縁部破片である。体部外面にへらで雷文を描く。上田分類のC-II類に比定される。

SD20 (図面289-1834) : 1834は土師器小皿である。森分類のB2類に相当する。形態は、扁平だが丸底ないしは丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く内湾し、端部は鋭く仕上げる。

SD24 (図面290-1879・1880) : 1879は土師器小皿である。森分類のZ3類に相当する。径の小さな底部から体部が斜外方へ開き、口縁部は短く「S」字状に屈曲させる。端部は先細りに鋭く仕上げる。

前VI期に比定される。1880は珠洲R種壺の体部破片である。体部外面には二段の波状文の痕跡が残る。

〈柱穴〉

SP176 (図面291-1881) : 1881は珠洲壺の底部破片である。平底底部から体部が軽く内湾気味に開く。体部外面はヘラ削りの後ナデが施される。内面には叩きの当具痕跡が残る。

〈包含層〉 (図面291-1883~1943)

1883~1913は手捏ねの土師器皿である。1883・1911は森分類のA1類に相当する。在地産のなかでも典型的な京都系横敷と考えられる特徴を有す。形態は、平底気味の平坦な底部から体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く外傾する。端部は押しナデにより面を有する。口縁部一段ナデ手法。1883が前IV~前V期に、1911が前V~前VI期にそれぞれ比定される。1884は森分類のA3類に相当する。平底気味の平坦な底部から体部・口縁部が屈曲・外反し、口縁端部は丸くおさめる。前IV期に比定される。1890~1896・1912は森分類B1類に相当する。丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して浅い角度で開く。底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く端部は鋭く仕上げる。時期は1894~1896が古手で前V期、次いで1890・1912が前VII~前VIII期に比定される。1899・1900は森分類のB2類に相当する。形態は、器高が低く扁平だが、丸底ないしは丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾するか、ないしは軽く外反する。端部は鋭く仕上げる。ともに前VI~前VIII期に比定される。1897・1898・1913は森分類のB3類に相当する。形態は、体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は丸く仕上げる。前VI~前VII期に比定される。1888・1889は森分類Z1類に相当する。形態は、器高は低く扁平・平底の底部で、体部はなく底端部から口縁部を短く折り曲げ上方つまみ上げる。端部は丸く仕上げる。前VI期に比定される。1905~1910は森分類のZ5類に相当する。底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は短く強く外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。後I~後II期に比定される。1901~1904は森分類のC3類に相当する。形態は、狭い丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部は浅く斜外方へ大きく開く。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。前VIII~後I期に比定される。1914~1917は回転台土師器である。1914は大皿法量の口縁部破片である。1915は柱状高台皿の底部で、降っても13世紀代まででおさまる資料と考えられる。1916は森分類でK類として一括されているもので、平底切り高台を有する小皿。底部外面には回転糸切り痕がそのまま残る。前VII期に比定される。1917は森分類のC6a類とされるもので、径の小さな平底の底部から体部が「S」字状に屈曲する。いわゆる「へそ皿」の横敷と考えられる器形。但し、成形手法は回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕が残る。この糸切り痕は通常ナデ消されるが、本例は残存している。後I期~後II期に比定される。1918~1924は中国陶磁である。1918は青白磁梅瓶の体部破片で、小破片であるが、体部外面に渦巻き状のヘラ描き文様のみられる。1919は白磁碗の底部破片で、内底面は蛇の目刺ぎされている。大宰府分類VIII類碗の底部と考えられる。1920も白磁碗の口縁部破片で、口縁端部は端反りで、見込みに沿って一条の圈線が巡る。大宰府分類のIV類と考えられる。1921~1923は龍泉窯系青磁で、1921・1923が碗の底部破片で、1922が坏?である。1921は大宰府分類IV類もしくは上田分類D-II類に、1922は大宰府分類IV類以降にそれぞれ比定される。1923はB地区SD12出土品と接合関係にある。1924は龍泉窯系青磁碗の底部破片である。内底面にスタンプで印刻文様を施すのが、モチーフは草花とみられる。大宰府分類IV類に比定される。1925は京都信楽系の灰釉碗の体部破片である。1926は瀬戸美濃の灰釉緑釉小皿である。1927は越中瀬戸の鉄釉蓋で、天井部には紐状のつまみが貼り付けされている。

1928は京都信楽系の灰軸碗の体部破片である。1929は瀬戸美濃灰釉深皿の口縁部破片である。口縁端部の形状は、受け口状を呈する。1930は八尾の甕の口縁部破片である。森分類のⅢc類に相当する。Ⅲc類は、幅広の口縁帯が形成され、断面形がNないしはT字状を呈するものをいう。口縁帯の上端と下端はそれぞれ丸くおさめる。1931～1942は珠洲である。1932は壺Ⅱ種の底部破片である。1933～1938はいずれも播鉢の底部である。1935～1939については、内面に播目が観察される。1939～1941は播鉢の口縁部破片である。1939は、口縁部の端面が大きく幅広に内傾するもの。端面には波状文を施文している。吉岡分類・編年のⅤ期に比定される。1940は口縁端部は単純房頭に近いが、口縁端部外端を側方に小さくつまみ出している。吉岡編年のⅣ1期に比定される。1941は、口縁部の外端は張り出さず、逆に内端側が突き出る形態で、幅の広い端面は内傾する。口縁の端面には波状文を施す。播目は密に施す。吉岡編年のⅤ期に比定される。1942は、体部が直線的に開き、口縁部は単純房頭を呈す。口縁端面は外傾し、端面の両端が角を落としたように丸みをもつ。播目は9条一単位の櫛描きで、一単位毎交互の間隔で、隙間をあげながら施す。吉岡編年のⅣ2期に比定される。1943は近世の土人形で、型作りで菅原公の人物像を表現している。

(9) B・C地区：(図面292～297-1944～2188)

古代 (図面292～294-1944～2049)

古代の出土遺物には土師器、須恵器、黒色土器、赤彩土師器などがある。

〈竪穴住居〉

SI01 (図面292・293-1962～1969・1976～1980)：1962～1964は、須恵器蓋である。丸みのある天井部から口縁端部を短く下方に折り曲げている。1965は平底無高台の須恵器杯である。平坦な底部から体部が強く屈曲して、外傾気味に立ち上がる形態である。口径11.2cm、器高3.1cmの法量を測る。1966～1969は土師器甕の口縁部破片である。「く」の字に開く口縁部を有し、口縁端部には平坦な面を有するもの(1966・1967)と、角が落ちたような丸みのあるもの(1968・1969)がある。いずれも長胴タイプの長甕の口縁部であろう。1976～1980は土師器の煮炊具である。1976～1978は甕の口縁部と考えられる小破片である。このうち1976・1977はほとんど体部と口縁部の境界がみられないもの、1978は逆「ハ」字状に口縁部が短く外反するものである。1979・1980は土師器鍋で、半球形状に開く体部はら口縁部が「く」字状に外反して開く。口縁端部は広い面を有し、下端は側方につまみ出されるため、断面は三角形形状を呈す。体部および口縁部の内外面にカキメの痕跡が残る。

SI02 (図面292-1954～1961)：1954～1961は土師器甕及び鍋である。1954～1957は単純「く」の字状口縁を有する。端部を丸くおさめるもの(1954)、端部に面を有し、一端ないしは両端が側方につまみ出されるもの(1955～1957)に二分される。後者は長胴タイプの長甕の口縁部であろう。1958は体部上半が内傾し、口縁部はそこから直立して上方へのびる。端部は丸くおさめる。体部の内外に荒いハケ状調整がみられる。1960は土師器鍋と考えられる器形である。斜外方へのびる体部と口縁部の境界はあまり明瞭でなく、口縁部全体が軽く外反してそれとわかる。外面は縦方向に短い単位でのハケ調整が、内面にも同様のハケ調整が横方向に施される。1961は同じ土師器鍋でも、口縁部がきれいに「く」の字状に屈曲し、口縁端部も幅の広くシャープな面を持つ。内外面にカキメの痕跡を残す。

SI03 (図面293-1970～1975)：1970～1974はいずれも土師器の煮炊具である。1970は小型甕で、球形丸底の体部に短く外反して開く口縁部が付く。口縁端部は細く仕上げる。内外面を手持ちでヘラ削りし、さらに外面についてはカキメが施されるが、器表面の二次被熱による剥離が著しい。口径12.0cm、

器高約8.5cmの法量を測る。1971はやや大振りの土師器甕で、体部も球形・丸底ながらやや胴長の形態である。口縁部は短く屈曲するが、僅かに内湾気味に開く。端部は丸くおさめる。体部の内外面に煤の付着が著しく、調整痕が判別し難いが、底部付近の外側にはへら削りの痕跡が残る。口径12.4cm、器高14.0cmの法量を測る。1972は甕の体部で、上半部を欠失する。底部は丸底気味の平底で、体部も球形ではなく胴長である。体部の内外面にはハケ調整が密に施される。1973・1974は土師器鍋である。内湾しながら開く体部から口縁部が「く」字状に短く屈曲する。口縁端部は広い面をもち、外端が側方に突出する形態である。体部上半および内面にはカキメが、外面下半にはへら削りが施されている。1975は長胴タイプの土師器長甕で、底部を欠失する。口縁部は「く」字状に短く直線的に開く。端部は面を有し、内端を軽く上方へつまみ上げている。外面は体部上半をカキメ、下半は縦方向のへら削りを加える。内面もカキメが施されるが、は半部にはさらにハケ調整の痕跡がみられる。

SI04 (図面292-1944~1951) : 1944・1945は須恵器蓋の口縁部破片である。いずれも口縁端部を下方に短く折り曲げている。1944はやや小振りの法量で、天井部から口縁部が「S」字状に屈曲する。1945はやや大振りで、天井部から口縁部が内湾する。1946~1951は土師器甕類である。1946は器壁が厚くずんぐりしており、口縁部の立ち上がりも短く、あまり大きく外反しない形態。内外にハケ調整の痕跡が残る。1947~1951は、法量に格差はあるが、口縁部の形態は共通する。いずれも、あまり胴が張らず垂下する体部から、口縁部が「く」字状に屈曲して直線的に外傾する。端部は平坦な面を有し、単純におさめる1947・1949と、上端ないしは下端をつまみ出す1948・1950がある。成形・調整技法では、1947・1950の内面にカキメの痕跡が残る他、1951では体部判別はおそらくカキメ調整、下半については叩きを施した後、外面は縦方向の荒いへら削りを、内面は細かなハケ調整を施している。小型法量の1947を除くと、これらの土師器甕は、基本的に長胴タイプの長甕に相当するものと考えられる。

SI05 (図面292-1952・1953・1994) : 1952は土師器の小型甕。胴部の張りがほとんどなく寸胴で、底部は丸底気味の平底。口縁部は短く直立しており、端部は細く仕上げる。内面は荒いハケ調整、外面にも一部ハケの痕跡が残るが、表面の剥離が著しく不明。口径12.5cm、器高9.2cmを測る。1953は土師器鍋である。半球形丸底の体部に、「く」字状に浅く開く口縁部が付く。口縁端部は面取りしている。体部上半部の内外面はカキメを施し、下半はさらに外面は荒い斜方向のへら削り、内面は横方向のハケ調整を施す。口径35.5cm、器高約19.5cmの法量を測る。1994は須恵器蓋の口縁部破片で、端部は下方に短く折り曲げ、断面は三角形を呈する。

SI06 (図面293-1981~1985・1987~1989) : 1981は須恵器の無高台杯の底部破片である。1982~1985は土師器小型甕である。このうち1982と1984は短く「く」の字状に外反する口縁部を、1983は屈曲がなくほぼ直立する口縁部を有す。1985は底部の破片で、底部は切り立った平高台となっている。球形体部の外面にはへら削りの痕跡が残る。1987~1989は、長胴タイプの土師器長甕の口縁部破片である。いずれもあまり張らずに垂下する体部から口縁部が「く」字状にシャープに外反する。口縁端部は面取りし、端面の上下どちらか一端を軽くつまみ出している。体部の内外面にカキメがみられる他、1989については体部下半にへら削り痕が観察される。

〈土坑〉

SK001 (図面293-1986) : 1986は口縁部が短く太く外反する甕。器壁は厚く、内外面に荒いハケ調整の痕跡が残る。

SK015 (図面294-1999) : 1999は須恵器高台付杯である。低く扁平な角高台が底端部の内側に貼り付

けされる。体部は外傾気味に斜外方へ直線的に開く。口径10.8cm、器高3.7cmの法量を測る。

SK017 (図面294-1995・1996)：1995は須恵器蓋の口縁部破片である。浅い角度で開く天井部の先端を下方に折り曲げ、口縁端部とする。1996は平底無高台の須恵器の杯である。切り高台に近い平坦な底部より体部が斜外方に大きく開き、端部は丸くおさめる。復元口径12.4cm、器高2.6cmを測る。

SK021 (図面294-1998)：1998は須恵器高台付杯の底部破片である。高台は低く扁平なものが底端より内側に貼り付けされる。

SK034 (図面294-2000)：2000は上師器小型甕で、底部を欠失する。球形の体部に、短く「く」字状に外反する口縁部が付く。口縁端部は丸くおさめる。体部外面は煤の付着および器表面の剥脱が観察される。内面にはヘラ削りの痕跡が残る。

〈包含層〉 (図面294-1990~1993・1997・2001~2049)

1990・1991は平底無高台の須恵器杯である。平底の底部より体部が強く屈曲して、外傾品柄立ち上がる。口縁端部は細く仕上げる。法量は1990が口径11.2cm、器高3.3cm、1991が口径12.0cm、器高3.3cmを測る。1992は厚手で口縁部がわずかに短く外傾する甕で、体部の内外面に短くランダムなハケ調整を施す。1993は須恵器長頸甕である。球形の体部から細首の頸部が上方にのび、口縁部は短く外反させるが、端部は欠失している。底部には「ハ」字状に大きく外方へ踏ん張る、高さのある貼り付け高台が付く。体部外面は間隔を開けて二条一単位の沈線帯を四段巡らす。頸部についても同様に三段の沈線帯が確認できる。1997は平底無高台の須恵器杯である。平坦な底部の外面には、回転ヘラ切り痕が残る。体部は斜外方へ直線的に開き、端部は丸くおさめる。口径12.2cm、器高3.5cmの法量を測る。2001は須恵器甕の口縁部小破片である。短く外反する口縁の端部は外傾する広い面を有する。2002~2018は須恵器蓋である。2002・2003は口縁端部の内面に短いカエリの付く蓋で、7世紀代に遡上する古手の須恵器である。2004・2006・2007・2014~2016は、やや丸みを持った天井部から口縁部が傘状に開き、端部を下方に短く折り曲げている。これに比べ2005は扁平で高さのない形態のもの。2008・2009は天井部と口縁部の境界に稜がつき、口縁端部に向かって「S」字状に屈曲する形態。2017・2018はさらに口縁端部も、内側に巻き込んだような丸いものとなっている。これらの蓋のうち、2005・2006・2008・2014については、天井部外面を回転ヘラ削りしている。2010~2013は、須恵器蓋の天井部中央につく宝珠状つまみのみ残存する破片である。2019は古墳時代タイプの須恵器杯の破片。口縁部の内端から立ち上がり内湾しながら短く伸びる。6世紀後半~末頃に位置づけられる。2020~2028は平底無高台の須恵器杯である。いずれも平坦な底部から体部が屈曲して斜外方に開く形態である。このなかで器壁が厚手で、底部から体部の屈曲がゆるやかな2020・2021がやや古手、底端部のエッジがシャープな2027・2028がやや新しめの時期に位置づけられる。概ね口径11cm~12.5cm、器高2.5cm~3.0cmにおさまる法量を有す。2029~2032は須恵器高台付杯である。いずれも底端部の内側に、低く扁平な高台が貼り付けられる。2032は角高台、他は「ハ」字状に外方に踏ん張り内端で接地する高台形態である。体部は底端部より屈曲し、斜外方へ外傾して伸びる。法量は口径10.5cm~12.5cm、器高3.5cm~5.0cmの範囲に概ねおさまっている。2033・2034は須恵器甕の口縁部破片である。2033は、口縁端部が水平の面を有し、端部の両端を側方につまみ出す形態である。2034も類似した口縁端部だが、端面は水平でなく外傾している。2035は赤彩土師器の蓋で、須恵器蓋に類似して口縁端部を下方に短く折り曲げている。2036~2038は土師器小型甕である。2036は球形体部から口縁部が短く逆「ハ」字状に開き、口縁端部は内端を上方へつまみ出す。体部下半および底部は欠失する。内外面は回転台を利用したヨコナデ調整を行っている。2037・2038は底部の破片。丸底の2037は外面にハ

ヶ調整、内面にへら削りの痕跡が残る。平底の2038は、外面下半にへら削りが施される他は、回転ヨコナデ調整されている。2039は法量の大きな回転台土師器の杯の底部破片。底部は平底無高台のもので、外底面には回転糸切り痕がそのまま残る。2040は黒色土器の杯で、内面はへら磨きした後、黒化処理を施す。2041～2045は土師器甕の口縁部破片である。2041は甕かに内傾して立ち上がる体部に、緩く屈曲して逆「ハ」字状に短く開く口縁部が付く。端部は単に丸くおさめる。体部の内外面に短い単位のハケ調整が観察できる。2042～2045は、口縁部が「く」字状に屈曲して開き、口縁端部はいずれも平坦な面を持つ。やや法量の小さな2042・2043と、法量の大きな2044・2045がある。後者については器表面にカキメの痕跡を残す。2046は回転台土師器杯の平底底部である。底部外面には回転糸切り痕が残る。2047は須恵器長頸壺の肩部の小破片と考えられる。2048は須恵器長頸壺の頸部破片である。細首の頸部外面には、二条一単位の沈線帯を一段分巡らせている。2049は土師器甕。器壁が厚くほぼ直立気味に立ち上がる体部に、その先端を2cmほどヨコナデするだけの、短い口縁部が付く。体部の内外面は縦方向に荒いへら磨き状の調整を施している。

中・近世（図面295～297-2050～2188）

中・近世の遺物には中世土器皿、珠洲、中国製青磁・白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、唐津、伊万里などが出土している。

〈井戸〉

SE01（図面295-2050）：2050は土師器小皿で、森分類のB3類に相当する。形態は、体部が明確でなく丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く。端部は鋭く仕上げる。前VI期に比定される。

SE03（図面297-2156～2158）：2156～2158は手捏ね土師器の小皿である。2157・2158は森分類のB1類に相当する。丸底気味の平坦な底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。法量は2157が口径8.5cm、器高1.5cm、2158が口径9.3cm、器高1.5cmを測る。前V～前VI期に比定される。2156は森分類のB2類に相当する。扁平だが丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は細く仕上げる。口径8.0cm、器高1.9cmの法量を測る。前V～前VI期に比定される。

〈土坑〉

SK048（図面295-2051）：2051は土師器小皿で、森分類のB2類に相当する。扁平だが、丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は鋭く仕上げる。前VI期に比定される。

SK049（図面295-2052）：2052は土師器小皿で、森分類のB3類に相当する。体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は鋭く仕上げる。前VI期に比定される。

SK051（図面295-2057）：2057は珠洲壺の口縁部破片である。口縁端部は玉縁状に肥厚するが、外端をさらに側方に突出させる。吉岡編年のV期に相当する。

SK078（図面295-2090）：2090は土師器中皿で、森分類のZ5類に相当する。底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は強く大きく外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。復元口径は10.8cmを測る。後I期に比定される。

SK080（図面295-2054）：2054は土師器皿で、森分類のB1類に相当する。形態は、丸底ないしは丸

底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。口径9.9cm、器高2.3cmの中皿的な法量を有す。後Ⅰ期に比定される。

SK094 (図面295-2055・2056) : 2055・2056は土師器皿である。法量に差はあるが、ともに森分類BⅠ類に相当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。2055は口径7.2cm、器高1.6cmで小皿相当の法量、2056は口径9.9cm、器高約2.5cmで、中皿的な法量である。ともに前Ⅵ～前Ⅶ期に相当する。

SK102 (図面295-2087) : 2087は中国陶磁である。龍泉窯系青磁香炉の底部破片で、粗製・小型法量の製品である。大宰府分類のⅣ期かそれ以降の明の時期に比定される

SK112 (図面295-2053) : 2053は土師器小皿で、森分類のCⅢ類に相当する。狭い丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部も浅く斜外方へ大きく開く。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。後Ⅰ～後Ⅱ期に比定される。

SK127 (図面297-2159) : 2159は回転土師器の無高台杯の底部破片である。平坦な切り高台の外面には回転糸切り痕が残る。古代に遡上する時期の所産と考えられる。

SK128 (図面297-2161) : 2161は土師器小皿で、森分類のAⅡ類に相当する。器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。口径8.4cm、器高1.6cmの法量を測る。

SK132 (図面295-2089) : 2089は土師器小皿で、森分類のBⅠ類に相当する。形態は、丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。口径7.4cm、器高1.5cmの法量を有す。前Ⅸ～後Ⅰ期に比定される。

〈溝〉

SD12 (図面295-1923・2095・2096) : 1923・2095は中国陶磁である。1923は龍泉窯系青磁碗の底部破片で、内面見込みに円形状の軸刺ぎがみられる。大宰府分類Ⅳ期以降に比定される。本破片はA地区の包含層出土品と接合関係にある。2095は龍泉窯系青磁の小型香炉である。柱状高台に筒型の体部を有し、底端部に沿って小さな三つ叉の支脚が貼り付けられる。精製品ではなく粗製の製品で、大宰府分類Ⅳ期以降に位置づけられ、明代まで降る可能性がある。2096は珠洲播鉢の口縁部破片である。幅の広い水平な口縁部端面を有し、外端が僅かに側方へ突出する。

SD13 (図面295-2058～2063) : 2058は越中瀬戸の灰軸小皿である。浅く開く体部と削り出しの輪高台を有す。灰軸は口縁部の内外面を漬け掛けする。外底面に墨書がみられるが判読できない。2059は瀬戸美濃の灰軸平碗の口縁部破片である。体部は斜外方へ直線的のび、口縁部は短くわずかに外反する。施釉は内面および外面中位より上半にみられる。体部外面下半は回転へう削り痕が残る。2060は珠洲播鉢の底部破片である。内面にへう刻みの播目が1条施されている。2061は珠洲T種壺の底部破片と考えられる。外面の下半には一部叩き目が残る。また底部外面は静止糸切りされる。2062・2063は越中瀬戸の灰軸小皿である。2062は内湾気味に浅く開く体部に、削り出しの三角高台が付く。2063も小皿だが、こちらは体部と口縁部の境界に稜が入り、口縁部は外反して開く形態である。底部には削り出しの低い三角高台が付く。内面の見込みに沿って、重ね焼きの痕跡が残る。また見込みの中央には菊花のスタンプ文が施文されている。

SD19 (図面297-2164～2166・2168) : 2164～2166は手捏ね成形の土師器小皿である。2164は森分類のAⅡ類に相当する。器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。

口縁端部は押しナデされ面を有する。復元口径8.3cmを測る。前V期に比定される。2165は森分類のB1類に相当する。丸底気味の平坦な底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。前V～前VI期に比定される。復元口径9.0cmを測る。2166は、口縁部が幅広く外反し、端部は丸く納める。復元口径8.9cmを測る。前VI～前VII期に比定される。2168は瓦質土器の火鉢で、外面には菊花文がスタンプされている。復元口径は40.5cmである。

SD21 (図面295-2097～2102) : 2097～2100は土師器皿である。2098・2099は小皿で、森分類のB2類に相当する。形態は、扁平だが丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は細く仕上げる。法量は、2098が口径7.4cm、器高1.1cm、2099が口径8.0cm、器高1.3cmを測る。前IV～前V期に比定される。2100は大皿で、森分類のB3類に相当する。形態は、丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に直線的に開く形態。端部は細く仕上げる。口径12.0cm、器高3.2cmの法量を有す。前IV～前V期に比定される。2097は小皿で、森分類のZ1類に相当する。器高が低く扁平で、平底の底部の底端部から口縁部を短く折り曲げ上方につまみ上げる。端部は鋭く仕上げる。前IV～前V期に比定される。2101は中国陶磁である。龍泉窯系青磁碗の底部破片である。大宰府分類のI-2～4類に比定される。2102は珠洲壺の口縁部破片である。短く逆「ハ」の字に開く口縁部は、嘴頭状を呈する。吉岡編年のII期に比定される。

SD23 (図面297-2162～2163・2167) : 2162・2163は手捏ね成形の土師器小皿である。2163は森分類のB1類に相当する。丸底気味の平坦な底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。復元口径11.2cmの法量を測る。前VI期に比定される。2162は森分類のB2類に相当する。扁平だが丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は細く仕上げる。復元口径7.9cmの法量を測る。2167は中国陶磁で、青白磁の合子蓋である。天井部には花文が施される。

SD24 (図面297-2160) : 2160は土師器小皿で、森分類のB4類に相当する。扁平な底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は細く仕上げる。前VI期に比定される。

SD26 (図面295-2064～2066) : 2064は土師器小皿で、森分類のB4類に相当する。扁平な底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸くおさめる。前V～前VI期に比定される。2065は回転台成形の土師器で、柱状高台の底部破片である。底部外面には回転糸切り痕が残る。2066は珠洲播鉢の底部破片。静止糸切り痕の残る平底底部から、体部が内湾しながら開く形態である。内面の残存部分では播目は確認できない。吉岡分類・編年のI期からII期にかけての古手の播鉢にあたる。

SD27 (図面295-2086) : 2086は珠洲播鉢の口縁部破片である。口縁部は軽く内湾しながら立ち上がり、口縁端部はほぼ水平の面を持ち、端部の両端が軽く側方につまみ出されている。小型法量の播鉢で、残存部位には播目はみられない。吉岡編年のII期に比定される。

SD28 (図面295-2067～2085) : 2067～2084は土師器皿である。2067は口縁部が短く内湾するもので、端部は鋭く仕上げる。底部を欠失するが、手捏ねではなく回転台成形の可能性が高い。前VII期に比定される。2074は手捏ね成形の小皿で、森分類のA2類に相当する。器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。前VI期に比定される。2077・2078・2082・2083は小皿と大皿で、森分類のB1類に相当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を丸くないしは細く仕上げる。前VI～前VII期に比定される。2084は大皿で、森分類のB2類

に相当する。扁平で丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は丸く仕上げる。口径12.6cm、器高3.0cmの法量を有す。前V～前VI期に比定される。2075・2076は小皿で、森分類のB3類に相当する。体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は鋭く仕上げる。2075が口径7.0cm、器高1.3cm、2076が口径7.8cm、器高1.4cmの法量をとる。前VI～前VII期に比定される。2070・2071は小皿で、森分類のB4類に相当する。扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。2070が口径8.6cm、器高1.5cm、2071が口径8.4cmの法量となる。前VI～VII期に比定される。2072・2073は小皿で、森分類Z1類に相当する。器高は低く扁平・平底の底部で、体部はなく底端部から口縁部を短く折り曲げ上方につまみ上げる。端部は鋭く仕上げる。2072は口径8.6cm、器高1.2cm、2073は口径9.2cmの法量を有す。前VI～VII期に比定される。2069は小皿で、森分類のZ2類に相当する。やや丸みを帯びた平坦な底部から、体部が強く屈曲して立ち上がり、口縁部は軽く外反する形態である。口縁部は幅広く端部は丸くおさめる。器壁も薄いつくりである。口径8.0cm、器高1.5cmの法量を有す。前VI～前VII期に比定される。2079・2080は中・大皿相当の法量で、森分類のZ4類に相当する。深身の器形で、体部が屈曲して口縁部にかけて軽く内湾気味に立ち上がる。端部は短く外反させる。前VI期に比定される。2068は小皿で、森分類のZ5類に相当する。底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は強く大きく外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。口径8.8cm、器高1.6cmの法量を有す。前VII期に比定される。2081は大皿で、森分類のZ6類に相当する。口縁部は直線的に外傾する。体部と口縁部の境界付近が最も肥厚し、端部に向かって鋭く仕上げる。前VIII期に比定される。2085は珠洲播鉢の口縁部破片である。口縁部は軽く内湾しながら立ち上がり、口縁端部はほぼ水平の面を持ち、端部の両端が軽く側方につまみ出されている。小型法量の播鉢で、残存部位には播目はみられない。吉岡編年のIII期に比定される。以上のSD28州土資料については数量も多く、時期的にもまとまりがある。概ね13世紀中～末頃の時期幅で捉えられる良好な土器資料と考えられる。

SD36 (図面295-2091・2092) : 2091・2092は中国陶磁である。2091は白磁の皿で、大宰府分類の白磁IX類に比定される。2092は龍泉窯系青磁碗の口縁部破片で、外面に銘蓮弁を有す。大宰府分類のII-b類(旧I-5-b類)に相当する。

SD39 (図面295-2093) : 2093は唐津の皿である。内面を波状にハケで模様を描く、いわゆる三島手の皿である。2094は越中瀬戸の鉄釉碗の底部破片である。

〈柱穴〉

SP21 (図面295-2088) : 2088は土師器小皿で、森分類のB1類に相当する。形態は、丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明瞭でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。口径6.9cm、器高1.5cmの法量を有す。前IX～後I期に比定される。

〈包含層〉 (図面296・297-2103～2188)

2103～2118は手捏ねの土師器皿である。2103・2107～2111は、森分類のB1類に相当する。丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明瞭でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は小皿の2103・2107・2108で、口径6.8cm～8.4cm、器高1.1cm～1.5cm、大皿の2109～2111で口径10.8cm～11.6cm、器高2.4cm～2.9cmを測る。2103・2107・2108が前VI～前VII期に、2109～2111は前V期に比定される。2104・2116は、森分類のB2類に相当する。形態は扁平だが、丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部は短く外傾する。端部は鋭く仕上げる。

小皿の2104は口径8.0cm、器高1.4cmの法量を測る。前V～前VI期に比定される。大皿の2116は復元口径13.6cmを測る。前VI期に比定される。2114・2115は大皿で、森分類のB3類に相当する。形態は、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は細く仕上げ上げる。法量は2114が口径12.9cm、器高2.8cm、2115が口径11.8cm、器高3.0cmを測る。時期は2114がやや古く前IV期に、2115がやや新しい前V期に比定される。2105・2106・2117は土師器小・大皿で、森分類のB4類に相当する。扁平な平底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。小皿の2105・2106は、口径7.3cm～8.0cm、器高1.1cmの法量を測る。大皿の2117は復元口径14.1cmを測る。2105が前VI期、2106が前VI～前VII期に比定される。2113・2118は中・大皿法量の上師器皿である。森分類のZ3類に相当する。径の小さな平底気味の底部から体部が斜外方へ開き、口縁部がS字を描くように屈曲する。とくに2113にこの傾向が顕著である。また口縁端部は面取り状のナデにより、断面三角形を呈している。器形に在地色が強いZ類のなかでもとくに型式的特徴が顕著である。ともに前V～前VI期に比定できる。2112は森分類のZ4類に相当する。底部から体部が屈曲して口縁部にかけて軽く内湾気味に立ち上がる。端部は丸く収める。復元口径11.4cmを測る。前VI～前VII期に比定される。2119～2123は中国陶磁である。2119は白磁の皿で、内湾する体部から口縁部が短く屈曲・外反する。端部は鋭く仕上げ上げる。残存部分は全面施釉される。大宰府分類IX類に比定される。2120は白磁皿の底部破片で、体部に削りだし角高台を有する。森田分類のD群に比定される。2121は白磁碗の底部破片である。大宰府分類白磁IV～VI類に相当する。2122も白磁碗の底部破片で、こちらは大宰府分類白磁VIII類碗の底部に比定される。2123は龍泉窯系青磁碗か皿の口縁部破片で、上田分類D-II類以降の製品と考えられる。2124は土師器柱状高台皿の底部で、厚みのある中実高台の底部外面には、回転糸切り痕が残る。2125～2128は越中瀬戸である。2125は灰釉緑糸皿。「S」字状に屈曲する口縁部の先端は、受け口状に上方に短く折り曲げられる。体部外面下半は露胎とする。2126は鉄釉向付で、斜外方に開く体部の中央から口縁部が屈曲して垂直に立ち上がる。底部は低い三角高台が削り出される。2127、2128は鉄釉小皿の底部破片である。2129は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗の底部である。藤澤編年の後期IV(新)に相当する。2135は越中瀬戸の鉄釉天目茶碗で、口縁部の破片である。2140は越中瀬戸の鉄釉丸碗で、口縁部を欠失する。2130～2133は唐津(内野山)の銅緑釉の皿底部である。内面は見込みに沿って蛇の目釉剥ぎされる。底部には断面逆台形の削りだし高台が付く。2134は皿口縁部の破片。2136は越中丸山の鉄釉筒型碗の口縁部破片である。2137は京焼風唐津の筒型碗。削りだし角高台を有する底部より、体部が屈曲・内湾し、口縁部は垂直に立ち上がる。内外面に淡い雑釉の灰釉が掛かる。口径10.4cm、器高7.1cmの法量を測る。2138は伊万里の磁器染付の皿。形の大きな三角高台を有する底部から、体部が内湾しながら短く開く。体部の内面を草花文、外面を呉須で唐草文で飾る。江戸後期の波佐見窯の製品と考えられる。2139も伊万里の磁器染付の碗。蓋の付かない丸型の碗で、いわゆるくわんか手の製品と考えられる。体部外面には呉須で格子文・草花文を描く。2141は鉄釉が施釉された陶甗で、越中瀬戸の製品と考えられる。形態は寸胴型だが、破損しており重量は不明。2142～2150は全て珠洲播鉢の破片である。2142は口縁部のみ的小片。口縁端面が水平な方頭で、口縁端部の両端がわずかに擠み出される。吉岡編年のIII期に比定される。内面の播目は7条一単位のもの。2143・2144も口縁部の破片で、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は幅の狭い面を持ち、内端を軽く擠み出すようにおさめる。内面に播目はみられない。吉岡編年のII期に比定される。2145～2149はいずれも播鉢の底部で、平坦な平底底部の外面には、静止糸切り痕が残る。2148・2149については内面に播目がみられる。2150は播鉢の口縁部破片で、体部は直線的に外

傾し、口縁端部は内傾する幅の広い端面を有する。内面には播目を限無く連続的に施す。吉岡編年のV期に相当する。2153は畿内からの搬入品と考えられる瓦質土器。風炉の体部破片で、外面に凸帯の痕跡が残る。器表面は細かくヘラ磨きされる。同様の風炉は隣接する道場I遺跡でも出土している。2154は唐津の鉄釉播鉢の口縁部破片である。口縁端部は玉縁状に肥厚し、「S」字状を呈する。内面は限無く縦方向の播目を施す。2155は珠洲甕の口縁部破片である。短頸方頭「く」字状の口縁部を有す。吉岡編年のV期に比定される。2169~2180は手握ね成形の土師器皿である。2177は大皿で、森分類のA1類に相当する。形態は、平底気味の平坦な底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く外傾する。端部は押しナデにより面を有する。口縁部一段ナデ手法。復元口径11.0cmの法量を測る。前VI~前VII期に比定される。2169・2170・2174・2175は森分類のA2類に相当する。器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。2169・2170が前V~前VI期、2174・2175が前VI期にそれぞれ比定される。2171・2178・2179は森分類のB1類に相当する。丸底気味の平坦な底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。小皿の2171が前VI~前VII期に、大皿の2178・2179が前VII~前VIII期に、それぞれ比定される。2172・2176は森分類のB4類に相当する。扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は細く仕上げる。前VI期に比定される。2173は森分類のZ1類に相当する。器高は低く扁平で、平底の底部に体部はなく、底端部から口縁部を短く折り曲げ上方につまみ上げる。端部は鋭く仕上げる。復元口径8.0cmの法量を測る。前IV期に比定される。2180は森分類のZ2類に相当する。形態は、平坦な底部から体部が強く屈曲して立ち上がり、軽く外反する形態である。口縁部のヨコナデは幅広く、端部は丸く納める。復元口径11.4cmの法量を有す。前VII期に比定される。2181は回転台成形土師器の底部破片で、柱状高台の形態を有する。2182は珠洲播鉢の口縁部破片で、単純方頭の口縁部形態である。吉岡編年のIV期に比定される。2183は珠洲甕の口縁部破片で、端部が噴状に下方にお辞儀している。吉岡編年のI~II期に比定される。2184は瀬戸美濃灰釉鉢皿。平底の切り高台から体部が浅い角度で直線的に開き、口縁端部の内側に短いカエリ状の突起を有す。灰釉の施釉は口縁部と体部の内外面に潰け掛けされる。卸目はヘラ刻みで、「十」字状に交差させる。内面に煤が付着する。口径10.7cm、器高2.2cmの法量を測る。藤澤編年の後期IV(古)に相当する。2185は瀬戸美濃?灰釉の甕の体部破片で、外面に櫛掻き波状文の痕跡が残る。2186・2187は中国陶磁である。2186は口禿げの白磁の皿である。大宰府分類白磁IX類に比定される。2187は龍泉窯系青磁碗の破片で、外面に鎊蓮弁が施される。大宰府分類II-b類(旧I-5-b類)に比定される。2188は古代の須恵器壺で、扁平で高さのない天井部を有す。口縁端部は短く下方に折り曲げ、先端は細く仕上げる。

B 木製品 (図面298~365)

中名V・VI遺跡では木製品の出土も多くみられる。木製品は、一般に乾燥や腐食に弱い性質がある。遺構から出土する場合は、井戸や溝などの保水性・滞水性の高い遺構からの出土が多い傾向にある。中名V・VI遺跡の場合は井戸内からの出土が最も多く、次いで旧河道内から出土している。井戸から出土した木製品には、井戸枠材に使われた棧や縦板の類が多い。また生活関係の製品では、各種の漆器、曲物桶、箸、下駄、柄杓、櫛などがみられる。柱穴からは柱根、杭などの建築部材が出土した。以下に各地区・各遺構ごとに記述していく。

(1) A1地区(図面298~302-001~060)

〈井戸〉

SE01(図面298-001~007):001は漆碗である。胴部が緩いカーブを描くもので、全体に黒漆が施されており、高台裏に赤漆で「二」と書かれており、樹種はケヤキである。002~006は箸である。002~004は片側の先端部分を欠損している。005・006は完形品で、箸の両端を細く削り出す両口箸である。007は曲物で、井戸の底に設置されていたものである。径50.8cm、高さ11.0cmで、底板は抜かれており残存しない。樹種はスギである。

〈土坑〉

SK31(図面298-008):008は上方を欠損する柱根である。断面円形を呈し、底面が側面から削り込まれ平坦面を成す。樹種はクリである。

SK59(図面298-009):009は上方を欠損する柱である。断面円形の芯持ち材である。底面が側面から削り込まれ平坦面を成す。樹種はクリである。

〈溝〉

SD02(図面298~300-010~029・033):010・011・018は折敷の底板である。011は方形の四隅を切り落とした八角形を呈すると考えられるもので、011は長方形のものである。018は角の一部と考えられる。012・013は板材で012は長さ52.6cm、幅8.7cm、厚さ1.2cmを測る。013長さ51.6cm、幅7.3cm、厚さ2.9cmで、両端付近に2箇所ずつ穿孔が施される。014・015・017は板状木製品で、014には上端に穿孔が認められる。016は長方形の板状木製品の残存部分である。板の中央付近に2箇所穿孔が認められる。019は黒漆塗りの横櫓である。断面は楔形を呈し、歯数は粗く、背が馬の背状にカーブを描く。樹種はザイブリクである。020は外面に黒漆、内面に赤漆を塗る漆碗である。更に外面には赤漆で五弁花の文様を描く、高台は低く、樹種はトチノキである。021は杓子型木器である。身の内面および柄に赤漆が塗られる。身の先端は欠損し、柄は身から真っ直ぐ上方へと伸びる。樹種はハンノキである。022~029・033は加工木である。024は角材の一部で、他は板材である。023の側面には木釘の孔が3カ所認められる。028・029の上端には孔が1カ所穿孔されている。033の上方に方形の孔があり、孔の周囲には表裏共に焼けて炭化した部分が認められる。

SD03(図面300-030・031・034・035):030は漆碗である。漆は大半が剝離しており、痕跡から内面赤漆、外面黒漆を施し、外面の文様が赤漆で描かれていたと考えられる。碗の口縁部および高台が欠損しており、樹種はブナである。031は杓子型木器である。身の内面および柄に赤漆が塗られる。身の先端は欠損し、柄は身から真っ直ぐ上方へと伸びる。樹種はトチノキである。034は板状木製品である。中央および両端には方形の孔があり、断面は長方形を呈す。035は棒状の木製品である。長辺方向に沿って加工されており、先端は尖る。

SD07(図面300-032):032は炭化した製品の残欠である。

SD14(図面301-036~042):036~039は両端を細く削り出す両口箸である。全長19.8~21.1cmであり、036・037は断面方形、038・039は楕円形を呈す。040~042は加工木で、042が棒状、他のものが板状を呈す。

SD18(図面301-043~045):043・044は円形板で、曲物などの容器の底板であろう。両者とも側板との結合痕を残さないもので、径21.4cm、厚さ0.6~0.7cmで、樹種は両者ともヒノキである。045は板状木製品である。

SD19 (図面301~302-046~054) : 046~054は板状の木製品である。

〈包含層〉 (図面302-055~060)

055は黒漆塗りの漆器椀で、外面の剥離が著しい。赤漆で文様が描かれているが、剥離が激しく内容は不明である。高台は低く、樹種はブナである。056は円形板で、容器の底板と考えられる。2/3は欠損しており、欠損部の断面上に補修用とみられる木釘が2カ所認められる。側板との結合痕は認められない。057は円形板の残欠である。058~060は加工木である。060は棒状、他は板状を呈す。058には長辺に沿って穿孔があり、焼け跡が認められる。060は下端が丸く仕上げられ、上端は段差がでるように削られる。

(2) B5地区 (図面303~305-061~076)

〈井戸〉

SE01 (図面303-063・064) : 063・064は内外面に黒漆を塗る椀の破片である。063は高台部の残欠で、内面見込みに赤漆で文様が描かれる。064は底部の破片で、高台が低く、061と同様の形態を取るものと考えられる。内面見込みに赤漆で扇文が描かれる。樹種は両者ともブナである。

〈土坑〉

SK03 (図面303-067) : 067は板状および棒状の木製品である。長さは36cm前後である。

〈溝〉

SD02 (図面303-066・068) : 066は組み合わせ式の木箱で、木釘により固定されている。側面には線刻された三角形の枠内に、「十」字状の記号が刻まれる。樹種はヒノキ科である。068は板状および棒状の木製品である。方形の角材の両端を削っており、何かにめ込んでいたものと考えられる。

〈その他の遺構〉

SX03 (図面303~305-061・062・065・069~072) : 061・062は内外面に黒漆を塗る椀で061がハンノキ、062がブナである。061は高台が低く、高台脇から胴部にかけて直線的で胴部から上が緩やかなカーブを描くものである。外面には赤漆で扇文が描かれる。065・069は角材である。065は上端を折損しており、下端を凸状に加工し、礎板(071)のホゾ孔と、それぞれ雌雄として組み合わさった状態で出土した。出土状況から柱根と考えられる。070・071はSX03の底面に掘えられていたもので、大型の礎板と考えられる。070は長方形を呈し、長辺89.4cm、短辺54.9cm、厚さ15.0cmで、長方形のホゾ孔をもつ。表にはコの字状の撃痕が顕著である。071は長方形を呈し、長辺106.5cm、短辺52.1cm、厚さ17.4cmで、方形のホゾ孔をもつ。072は方形の板材の一長辺中央をコの字状に抉るものであり、一部焼けている。

〈包含層〉 (図面305-073~076)

073は板状の木製品である。やや円弧を描くように加工されている。074は短冊形の木札で榫目取りである。樹種はスギで、表面に墨書がみられるが判読できない。075は黒漆塗りの横櫛である。断面は楔形を呈し、歯数は粗く、背が馬の背状にカーブを描く。樹種はイスノキである。076は木像である。顔の目・口、胴部と腕の付根までが確認できる。高さ13.0cm、幅6.2cmと小型のもで、表面は丁寧に加工されるが、裏面は平坦で加工痕は殆ど認められない。顔の形状から人よりもむしろ動物に近い形状である。樹種はヒノキ科である。

(3) D1・D2・D4地区(図面305~309-077~148)

〈井戸〉

SE01(図面305-077・078):077は曲物とみられる板状木製品である。078は曲物で、側板を補強するためのタガが下方に残る。内面ケビキの刻目は縦方向である。樹種はスギである。

SE02(図面307-113~122):113~115は木枠組井戸の隅柱である。上端を丸く仕上げるために加工し、下端は掘わりを良くするために平坦に仕上げていることが出土状況から窺えた。柱の中央とやや下方に方形の孔が互い違いに2カ所穿孔されており、横棧との結合部になる。樹種はスギである。116は井戸の用材の一部と考えられる板材で、樹種はスギである。117は一端を欠損した箸である。先端を細く削り出しており、樹種はスギである。118~122は木枠組井戸の横棧となる棒状木製品である。118、119両者ともスギ材で、同一部材と考えられ、断面は方形となる。118は長さ41.3cm、119は長さ51.5cmで、合わせて1m弱となり、両端を凸状に加工する。120~122は断面長方形で、両端を凸状に加工する。樹種はすべてスギである。

SE03(図面307・308-123~137):123・124は木枠組井戸の隅柱である。上端を丸く仕上げるために加工し、下端は掘わりを良くするために平坦に仕上げる。柱の下端から25cm前後の高さのところには方形の孔が、L字状に穿孔されており、横棧との結合部となる。樹種は両者ともサワラである。125・126・127は井戸枠の用材と考えられるもので125は棒状、126は板状を呈する。127は角柱状を呈し、下端から高さ25cm前後の所に挟りがあり、123・124と同等の機能を有していたものと考えられる。樹種はすべてスギである。128~135は木枠組井戸の縦板と考えられる。136・137は木枠組井戸の横棧となる棒状木製品である。両端を凸状に加工し、樹種は136がスギ、137がサワラである。

〈溝〉

SD01(図面306-088~095):088は厚板状木製品である。表面には長辺に沿って面取りした加工痕が窺え、一条の刻みがある。089~094は箸である。完形の091・093・094は両端を細く削り出す両口箸である。完形のものでは18.2cm~20.9cmのものがあり、樹種ではスギやヒノキ亜科が認められる。095は両口箸のように両端を細く削り出す棒状木製品である。

SD06(図面306-111):111は一本鐮である。刃先の形状は平鐮で、鉄製のU字形刃先を装着していたものと考えられる。柄は途中で折れており、接合しないが、柄の長さは推定で約75.0cmである。刃の装着部の身幅は11.4cmである。樹種はクスギ節のものである。

SD07(図面305・306-079~085・097・098・101):079~081は長方形の板状木製品である。079は下端が欠損し、材のやや上方に直径1.3cmの円形孔をもつ。080は表面が黒変し、線状痕が多い。082は漆碗の残欠である。内外面赤漆が塗られており、樹種はブナである。083は漆碗の蓋と考えられるもので、内外面黒漆を施し、犬井部に赤漆が塗られ、黒漆の剥離が著しい。084・085は杓子型木器の身であり、柄部分は欠損する。身の上面に赤漆が塗られ、084はハンノキ、085はダケカンパである。097・098・101は箸である。完形の097・098は両端を細く削り出す両口箸である。

SD16(図面306-099):099は両端を細く削り出す両口箸である。

SD17(図面306-096・100・103・104・107・109・110):096・100は箸である。096は完形で、両端を細く削り出す両口箸である。096の樹種はヒノキである。103・104・107は漆器の碗・皿である。すべて内外面黒漆が塗られる。103は高台脇から緩く湾曲しながら立ち上がり、樹種はトチノキである。104は胴部を薄く仕上げた皿形態のもので、口縁部が肥厚するものである。107は高台脇から直線的に

胴部が延びるもので、口縁部が欠損する。109・110は円形板の一部と考えられる板材である。表面に線状痕が顕著に認められる。

SD19 (図面308-138) : 138は両端を細く削って仕上げた両口箸である。長さは18.5cmで、樹種はスギである。

SD20 (図面308・309-139~148) : 139~145は箸である。完形のものすべて両端を細く削り出す両口箸である。樹種はスギである。146は棒状の加工木である。両端を互い違いに薄く平坦に仕上げる。樹種はスギである。147は折敷の底板である。外周縁に小孔が3カ所みられる。両面に線状痕が認められ、特に片面には顕著に頰え、まな板に転用されたものと考えられる。樹種はスギである。148は円形板で、樹種はスギである。曲げ物などの容器の底板と考えられるが、側板との結合痕は認められない。

〈包含層〉 (図面305・306-086・087・102・105・106・108・112)

086は木栓で、樽などの栓と考えられる。下端が直径1.8cm、上端が3.2cmの円柱状で、樹種はスギである。087は内外面黒漆塗りの椀である。口縁部および高台端部は欠損しており、高台内側に赤漆の塗膜の一部が残る。樹種はブナである。身の先端は欠損し、柄は身から真っ直ぐ上方へとのびる。112は板状木製品である。

(4) D3地区 (図面309~315-149~315)

〈井戸〉

SE01 (図面309-151・152) : 151・152は箸である。両者とも一端を折損しており、残存部の先端は細く削りだして仕上げている。

SE02 (図面309-150) : 150は厚板状の木製品である。全体の4/5呈を凸状に段を付けて細く仕上げられている。樹種はコナラ節である。

SE03 (図面309-154) : 154は木枠組井戸の底に設置された曲物で、上端および底板を欠失する。径56.0cm、残存高29.4cm。側板の綴じ代と、結束に使用した桜材が残存する。内面ケビキの刻目は縦方向で、補強用にタガが下方に巻かれる。

SE04 (図面311-181) : 181は曲物の側板の残欠で、底板をとめるための穿孔が残る。綴じ代と結束用の桜材が一部残存する。

SE05 (図面309-149・153) : 149は曲物の側板の残欠、153は両口箸である。

〈土坑〉

SK01 (図面312-186・187) : 186・187は板状の木製品である。187は下端が斜めに断ち切られる。

SK22 (図面312-190) : 190は柱根の残欠で、芯持ち材である。

SK24 (図面312-194) : 194は柱根で、芯持ち材である。

SK25 (図面312-189) : 189は柱根の残欠で、芯持ち材である。

SK50 (図面309~311-155~180) : 155~179は方形・長方形を基調とする板状のもの。このうち157・165・166・172・173・177は円弧を描くよう加工を施す。桶の側板と考えられる。180は円形板で、4枚の板を木釘で結合して作っており、桶の底板と考えられる。

SK80 (図面311-184) : 184は棒状の角材で、中央に円形の抉りが入る。恐らく継手として利用されたものであろう。

SK85 (図面312-188) : 188は板状の木製品で、表面に線状痕が若干残る。

SK86 (図面313~315-195~223) : 195~198は曲物の底板で、側板との結合痕を残さないものである。195は5枚の板を結合してつくられており、木釘によって結合されている。198も結合用の木釘の孔が2カ所穿たれている。198は柄杓の底板である。199は柄杓の底部である。200~223は長方形を基調とする板状の木製品で、桶の側板と考えられる。長さ31.9~53.0cm、幅6.8cm~9.4cmまでのものがあり、下端から上方10cmまでに顕著な撃痕が残るものがある。222は板の中央に直径10cm大の円形の抉りが入る。

〈柱穴〉

SP11 (図面312-191) : 191は掘立柱建物SB03の柱根の残欠であり、芯持ち材である。

SP17 (図面312-192) : 192は柱根で、芯持ち材である。

SP18 (図面312-193) : 193は柱根である。下端が尖るように加工しており、撃痕が顕著である。芯持ち材である。

SP19 (図面311-185) : 185は角材の残欠で、柱根と考えられる。芯を中央にもつ芯持ち材である。

〈溝〉

SD01 (図面315-225) : 225は曲物の側板の残欠である。底板との結合用の小孔が穿たれる。

SD06 (図面315-226・227) : 226は両口箸である。227は台形状を呈し、中央下端には内側へ緩いカーブが、上端には方形の抉りが入る。樹種はクリである。

SD17 (図面315-228) : 228は上端が欠損した連歯下駄である。前壺はほぼ中央に、後壺は後壺よりも前方に穿たれる。小判形を呈するものと考えられ、筒は台と同じ幅で縦断面が方形を呈する。

SD41 (図面315-224) : 224は継手である。直径8.0cm大の円形の孔がT字状に穿たれる。水周り遺構(SX01)の竹と竹の接合部分に設置されていた。

〈包含層〉 (図面311・315-182・183・229)

182は漆皿、183は漆碗である。両者とも内面および体部外面に黒漆が塗られ、高台の内側には塗られていない。両者とも樹種はケヤキである。229は漆器の碗の体部残欠である。内外面赤漆塗りで、外面黒漆および金で文様を描く。

(5) E1・E2地区 (図面316~324-230~352)

〈井戸〉

SE01 (図面319-271・275) : 271は箸である。下端を細く削りだしており、上端を欠損する。275は石組井戸の底に設置されていた曲物で、側板と補強用のタガが下縁に巻き付いた状態で出土した。側板内面には斜め方向にケビキがみられ、底板と結合するための木釘の孔が認められる。樹種はヒノキである。

SE03 (図面316-231) : 231は漆器皿である。内外面黒漆塗りで、内面見込みに扇文が赤漆で描かれ、樹種はブナである。

SE04 (図面316・317-232・245) : 232は漆器碗である。内外面黒漆塗りで、内面見込みに赤漆で文様が描かれる。樹種はブナである。245は呪符木筒の上側残欠である。上端が山形に削られており、表裏ともに2~3文字が墨書されている。樹種はヒノキである。

SE05 (図面320-291) : 291は漆器の碗である。内外面黒漆を施し、内面見込みに赤漆で扇文が描かれている。

SE07 (図面317-246) : 246は板状の木製品であり、曲物の側板と考えられる。

SE08 (図面317~319・247・266~270) : 247・266は曲物の側板の一部で、側板の結束部には綴り皮がみられる。267~269は円形板で、曲物や柄杓の底板と考えられる。267の樹種はヒノキである。270は両口箸で、樹種はヒノキである。

SE09 (図面316-233) : 233は漆器碗である。内外面黒漆塗り、内面見込みに赤漆で文様が描かれている。

SE11 (図面317-244) : 244は板状の木製品である。

SE12 (図面316~318・230・234~243・248~262・264) : 230は漆器の碗である。内面赤漆で、外面は黒漆で塗られ、赤漆で文様を描く、多数の小破片で出土したことから文様は不明。234~243・248~257・259~261は、石組井戸の底に設置されていた桶の側板である。全ての側板の下端にタガによる結束痕が残る。258は弓状に湾曲した木材で、先端の一部に加工痕が認められる。樹種はカヤである。259の上端と260の下端に円孔を穿っている。樹種にはヒノキやスギが使われている。262は芯持ち材の横筋であり、樹種はイタヤカエドである。264は角柱状の芯持ち材である。材の中央に長方形の孔が穿たれている。

SE14 (図面320・321-287・290・293・294) : 287は漆器の碗の胴部である。内面には赤漆で文様が描かれる。290は漆器碗である。内外面黒漆を施し、内外面に赤漆で草花文を描き樹種はブナである。293は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板を欠失する。側板補強のためのタガが上下3段あり、綴り皮で結合される。側板内面には縦方向のケビキが認められ、樹種はスギである。294は曲物の側板である。

SE15 (図面321-296・297) : 296は棒状木製品である。表裏には黒漆?が塗られており、両端が斜方向に削られている。また、側面には半円形の抉りが認められる。297は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板を欠失する。側板は二重に巻かれ、綴り皮によって合計9カ所で留められている。

〈土坑〉

SK07 (図面319-277) : 277は角材である。下端は欠損しており、更に延長したようである。また側面中央には方形の孔が穿たれる。

SK18 (図面319-272・273) : 272は器形から漆器の豆子と考えられる。内面に赤漆、外面に黒漆が施される。樹種はブナである。273は加工木で、何かの栓と考えられ、上方の肥厚部中央に円形の孔が貫通する。樹種はスギである。

SK45 (図面318-265) : 265は板状木製品である。表面に加工痕が認められる。

SK63 (図面321-300) : 300は板状木製品である。樹種はヒノキである。

SK66 (図面321-303) : 303は円形板の残欠であり、曲物などの容器の底板と考えられる。

SK69 (図面321-298) : 298は板状木製品である。断面長方形を呈し、表面に加工痕が認められる。

SK70 (図面321-305) : 305は板状木製品で、両端が欠損している。

SK74 (図面322-310) : 310は円形板である。容器類の底と考えられ、縁のやや内側に外周に沿って円形の小孔が穿たれる。

SK76 (図面323-329・338) : 329は柄杓である。曲物を身としたもので、側板は柄の握り部側に方形孔、柄の先端側に円形孔が確認できる。側板の本綴りは1列で、方形孔の周りに補強用の皮綴りが別に認められる。樹種はヒノキ亜科である。338は板状木製品である。

SK79 (図面321-301・306) : 301は棒状木製品である。やや厚みのある角柱状を呈し、表面に線状痕が顕著にみられる。306は漆器の碗である。内外面黒漆塗り、赤漆で内面見込みに草花文と外面に

文様が赤漆で描かれる。樹種はトチノキである。

〈柱穴〉

SP52 (図面318-263) : 263は板状木製品である。樹種はコナラ垂属。

SP53 (図面321-307) : 307は棒状木製品である。下端は平に仕上げられている。

〈溝〉

SD06 (図面322・323-323・339) : 323は円形板で、曲物などの容器の底である。339は棒状木製品で、断面は円形を呈す。横木取りで芯材を用いず、両端を削って丸く収めている。

SD10 (図面319・322-278・312~319・322・324~326) : 278は棒状木製品で箸と考えられる。断面は円形を呈し、先端は細く削り出さず平坦に仕上げられる。樹種はヒノキである。312~317は漆器の椀である。内外面に黒漆を施し、赤漆で文様を描く。312・315・316の内面見込みには角立て井筒文、313・314の外面に木の葉とみられる文様が、317の外面に扇文がそれぞれ描かれる。また312・317には2.0cm以上の高台が付く。樹種は全てブナである。318は背にやや丸をもつ椀である。断面は楔形を呈し、樹種はツゲである。319は上端を丸く仕上げ、下方に段差を設けた木製品である。芯材を利用しており、樹種はフジキである。何らかの栓として利用されたものか。324・325は板状木製品である。片方の先端を尖らすように加工したもので、樹種は前者がサワラ、後者がヒノキである。326は芯持ち材の杭で、先端を尖るように加工する。腐棄時に燃やしたのか上端が焦げている。

SD15 (図面319・322-279・321) : 279は板状木製品の残欠である。加工痕が顕著であるが用途不明。321は漆器椀の胴部破片である。内外面黒漆を施し、内面に赤漆で文様を描く。

SD20 (図面319-274) : 274は板状の木製品である。

SD24 (図面319-276) : 276は柄杓の底である。側板との結合に利用された木釘の孔が向かい合わせに2カ所穿たれている。樹種はヒノキである。

SD25 (図面320-280~283・288・289) : 280は曲物の側板の残欠である。282・283は円形板の一部で曲物などの底板と考えられ、283はスギである。281は漆器の椀で、内外面黒漆で、外面に赤漆で文様が描かれる。樹種はトチノキである。288・289は棒状木製品で、断面形態は288が楕円形、289が方形を呈す。また両者の側面には挟りがあり、288は下端に半円状、289は中央に長方形の挟りが認められる。

SD26 (図面320-284~286・292) : 284~286は漆器の椀である。284は高台が高く、胴部から口縁へ閉気味に立ち上がるものである。286は高台が2cm以下で、高台脇から緩く湾曲しながら立ち上がるもの。3者とも樹種はブナで、内外面とも黒漆を施し、赤漆で文様を描く。286は外面に赤漆で「扇」と「二」の文字が書かれる。292は板状木製品である。裏面下端には撃による加工痕が顕著に窺え、表には多方向の線状痕が多数みられる。

SD28 (図面323-327・328・330~336) : 327は板状木製品で上方を欠く、厚さ0.7cmで下端を細く削り出す。328は柄杓である。円形曲物を身としたもので、側板には円形孔があり、柄の先端が突き抜けていたものである。綴じ皮が残存しており、側板の本綴じは1列である。樹種はヒノキである。330は長方形の板状木製品である。短辺方向の両端が更に延長するものと考えられ、長辺の片側に沿って、ほぼ等間隔に円孔が穿たれている。331~333は漆器椀である。331は内外面黒漆に赤漆で文様を描くものである。332・333は外面黒漆、内面赤漆を施す。331・332は高台脇から胴部が緩やかに内湾し、胴部は比較的直線的に立ち上がるもの、333は底部から口縁部にかけて浅く直線的に開く器形である。また口縁部外面に1条の沈線が巡り、底部は漆を施さず、「上」の線刻がみられる。樹種は331・333がブナである。334・336は板状木製品、335は柄杓の底板で、樹種はヒノキ亜科である。

- SD29 (図面323-337) : 337は棒状木製品で、断面長方形を呈す。
- SD30 (図面322-320) : 320は漆器碗の底部破片である。内外面黒漆を施し、内面見込みに赤漆で草花文を描く。
- SD35 (図面324-340~344) : 340~342は板状木製品である。340の片側側面に円形孔が2カ所穿たれている。341・342は桶の側板で、樹種はヒノキである。341の長辺側、両側面には木釘用の円形孔が片側2カ所の合計4カ所穿孔されている。343は芯取り材を用いた独楽で、樹種はカヤである。344は棒状木製品で、断面長方形である。厚みは1.7cmを測り、中央の上下2カ所に方形の孔が穿孔されている。
- SD36 (図面321-304) : 304は棒状木製品である。
- SD38 (図面321-299) : 299は横槌で、芯持ち材である。樹種は二葉松類である。

〈その他の遺構〉

- SX01 (図面321・322-308・309・311) : 308は台と歯を一木からつくる連歯下駄である。平面系は隅丸方形を呈し、上端が欠損する。309は円形板である。曲物などの容器の底板と考えられ、外周縁に側板と結語するための小孔が2カ所みられる。311は連歯下駄である。平面形態は隅丸方形を呈し、前歯はやや左よりに穿たれる。歯は摩耗が激しく台の厚みとほぼ同様となる。
- SX02 (図面321-295・302) : 295は加工木の残欠で、上方に更に延びる。裏面は鑿痕の加工痕が顕著である。302は両端を細く削り出す両口箸で、樹種はヒノキである。

〈包含層〉 (図面324-345~352)

345・350~352は板状木製品である。350の中央上方には直径約4.0cmの円形孔が穿たれる。346は円柱状の木製品で、下円が上円よりも小さい。横取り材を用いており、樽などの栓と考えられる。樹種はスギである。347・348は漆器の碗で、347は底部、348は胴部の破片である。両者とも内外面黒漆を施し、347の内面見込みに赤漆で文様が描かれる。349は円形板で曲物などの容器の底である。側板との結合痕は窺えない。

(6) F2・3地区 (図面325-353~366)

〈井戸〉

SE01 (図面325-360) : 360は板状木製品である。表裏とも鑿による加工痕が顕著に窺える。

〈土坑〉

- SK01 (図面325-361) : 361は板状木製品である。板の片側側面には円形孔が穿たれる。
- SK05 (図面325-362~366) : 362~366は掘立柱建物SB07に付属するSK005内部の水溜用の木枠の部材である。木枠は長方形に組まれ、362が南、363が北、364・366が東、365が西側に位置する。362の両端には段差の付いたホゾをもち、下方中央に直径約3.0cmの円形孔が穿たれる。363は上端に段差の付いたホゾをもち、下端は欠損する。364~366の片側および両側には方形または長方形の袈りが認められる。樹種は362・365がヒノキ亜科、363・364・366はスギである。
- SK20 (図面325-353・354) : 353・354は両端を細く削り出した両口箸で、354の樹種はスギである。
- SK27 (図面325-355) : 355は連歯下駄である。平面形態は長方形を呈し、前歯は中央に、後歯は後歯より前方に穿たれる。歯のつくりは、台と同じ幅の方形を呈す。樹種はモミである。
- SK36 (図面325-358) : 358は黒漆塗りの横槌である。断面は楔形を呈し、歯数は粗く、背が馬の背状にカーブを描く。
- SK59 (図面325-359) : 359は円柱状の継手と考えられる。円形の孔が、L字状に穿孔されており、横

材との結合部となる。樹種はスギと考えられる。

〈柱穴〉

SP66 (図面325-356) : 356は柱根である。心材を利用しており、下端は丸く仕上げられている。

〈包含層〉 (図面325-357)

357は漆器の椀である。内外面に黒漆を施す。

(7) A地区 (図面326~356-367~707)

〈井戸〉

SE01 (図面327-397) : 397は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板は欠失する。側板に補強用のタガを一段巻き付けられ、側板の下端には直径約2.0cmの円形孔が周囲に空けられる。内面には縦方向のケビキがみられ、樹種はスギである。

SE02 (図面327~335・341-400~469・471・473・480・532~535・537~546・559・564) : 400~419・422~461・467~469・471は井戸枠の縦板に使われた板材で樹種はすべてスギである。420は板材で中央に円形孔が穿たれる。樹種はスギ、421は円形板で容器の底板と考えられる。462は棒状木製品で、断面方形を呈す。両端を細く削り、先端を丸く仕上げている。463~466は井戸枠の横板に使われた棒状木製品で、463・464は両端を凸状に、465・466は凹状に加工し、それぞれを雄雌として方形に組み合わせるもので、樹種はスギである。473は棒状木製品で杭と考えられる。胴部には樹皮が残存し、両端に加工痕および切断痕がみられる。樹種はエゴノキ属である。480は折敷の底板と考えられる。外周縁に沿って2つの小孔が5カ所認められ、表裏ともに線状痕が多くみられ、まな板などへの転用も考えられる。532~535・537~546・559・564は両口箸である。樹種は543・561はヒノキで、他はすべてスギである。

SE03 (図面334~341-470・475~479・481~531・536・547~558・560) : 470は木組井戸の底に天地逆に設置された曲物で、底板は欠失する。側板と補強用のタガで2重に巻かれ上端は欠損し、底板との結合痕と考えられる円孔が穿たれている。側板内面に縦方向のケビキがみられる。樹種はスギである。479・498・515・524は断面方形の棒状木製品で、井戸枠の横板と考えられる。樹種はスギ、ヒノキ、ネズコ、サワラである。476・477・481~497・499~514・516~523・525~527は井戸枠の縦板に使われた板材である。樹種はスギが中心でネズコもみられる。475・478は棒状木製品で、井戸の隅柱など井戸枠の部材として利用されたものであろう。樹種はヒノキ・スギである。528~531は板状木製品の残欠、樹種はスギで井戸枠の破片である。536・547~558・560は両口箸で、555はヒノキ、558はサワラで他はすべてスギである。

SE04 (図面327・341-399・561~563・565) : 399は井戸底に設置されていた曲物で、底板は欠失する。側板と補強用のタガが3段巻き付けられている。側板内面には縦方向のケビキがみられる。樹種はスギである。561~563・565は両口箸で、樹種はすべてスギである。

SE05 (図面326・327-370~379・387・390~392・396) : 370~379は両口箸で、樹種は全てスギである。387・390・391は漆器椀で、全て内外面黒漆を施し、赤漆で文様を描く。387は底部残欠、390は杯形態のもので胴部外面が面取りされる。387は見込みに三つ巴文が3個描かれ、390は底部が木肌のままである。391は内面見込みに鶴文を描く。392は棒状木製品で円柱状を呈し、表裏の中央横方向に深い溝状の抉りが入る。糸などを巻いて利用したものと考えられる。396は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板は欠失する。側板に補強用のタガを3段巻き付けており、側板内面には縦方向の

ケビキがみられる。樹種はスギである。

SE06 (図面326・327-380~383・398) : 380~383は両口箸である。樹種は383がスギで他はヒノキである。398は石組井戸の底に設置された曲物である。側板と補強用のタガが一段巻き付けられており、樹種はスギである。

SE07 (図面326-395) : 395は石組井戸の底に設置されていた曲物である。側板および補強用のタガが3段巻かれており、側板内面にはケビキの刻み目が縦方向に入る。最下段のタガには直径1.5cmの円形孔が空けられる。

SE08 (図面326-389・394) : 389は漆器碗の胴部破片である。内外面に黒漆を施し、文様は認められない。394は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板を欠失する。側板の円周を巡るように直径約1.0cmの円形孔が下方に空けられる。樹種はスギである。

SE09 (図面326-388) : 388は漆器の碗の底部破片である。内外面に黒漆を施し、内面見込みに朱漆で文様は施される。樹種はブナ属である。

SE10 (図面326-367~369・393) : 367~369は両端を細く削りだす両口箸で、樹種は全てサワラである。393は石組井戸の底に設置されていた曲物で、底板を欠失する。径33.4cm、高さ20.8cmを測る。樹種はスギである。

SE11 (図面326-384~386・474) : 384~386は両口箸で、386は下端を欠損している。樹種は384がスギ、他はサワラである。474は折敷の底板である。表裏共に多数の線状痕が認められ、まな板に転用されたものであろう。樹種はスギである。

〈土坑〉

SK010 (図面344・345-588・589・592~598) : 588・589は両端を細く削りだした両口箸で、樹種はサワラである。592~598は板状木製品である。595・597・598の軸線上に、それぞれ小孔が一カ所穿たれている。樹種はすべてスギである。

SK015 (図面342-569) : 569は棒状木製品で、断面方形を呈す。両端が欠損しており、一部削痕が認められる。樹種はサワラである。

SK016 (図面344-590) : 590は箸の残欠で、上端を欠失する。樹種はサワラである。

SK063 (図面342-567) : 567は漆器碗の小片である。内外面黒漆を施し、文様は認められない。樹種はケヤキである。

SK068 (図面343-577) : 577は礎板と考えられる。台状に加工されており、樹種はスギである。

SK070 (図面344-584) : 584は長さ19.5cm、幅12.5cm、厚さ4.5cmを測る長方形の礎板である。樹種はスギである。

SK081 (図面342-566) : 566は連歯下駄である。平面形態は小判形を呈し、歯は台裏を挟り込んだもので、前歯はほぼ中央に、後歯は後歯よりも前方に穿たれる。裏面の磨滅状況から左足用と考えられる。樹種はヒノキである。

SK115 (図面344-583) : 583は柱根である。断面方形を呈し、下端を尖り気味に加工する。樹種はクリである。

SK121 (図面342-572) : 572は連歯下駄である。平面形態は小判形で、前歯はほぼ中央に、後歯は後歯よりも前方に穿たれる。歯は台と同じ幅で、縦断面は方形を呈する。裏面の磨滅状況から左足用と考えられる。樹種はスギである。

SK132 (図面342-568) : 568は円形板で、曲物などの容器の底板で、樹種はヒノキである。

SK133 (図面342-570・571) : 570・571は連歯下駄のである。570は前方向半分が欠損しており、ほぼ全面が炭化している。571は表面の片側が炭化しており、両者とも廃棄されたものであろう。平面形態は小判形で、歯は台と同じ幅で、縦断面は方形を呈す。樹種は両者ともスギである。

SK134 (図面345-599・600) : 599は棒状木製品で、断面円形で、両端に加工痕が顕著にみられる。樹種はクリである。600はへら状を呈する板状木製品で、樹種はサワラである。

〈柱穴〉

SP025 (図面344-585) : SP025はSB05の柱穴で、585はその柱根である。断面方形の角材で、樹種はスギである。

SP035 (図面344-586) : SP035はSB06の柱穴で、586はその柱根である。断面円形を呈し、下端を平に加工している。樹種はサワラである。

SP040 (図面344-591) : SP040はSB08の柱穴で、591は礎板と考えられる。長さ17.7cm、幅13.9cm、厚さ4.7cmの直方体で、樹種はスギである。

SP128 (図面343-575) : SP128はSB22・27の柱穴である。575は柱根で、下端は平に加工されている。樹種はヒノキである。

SP141 (図面343-582) : SP141はSB24・28の柱穴で、582は柱根である。断面は円形を呈し、下端加工痕もしくは切断痕が顕著である。樹種はクリである。

SP163 (図面343-578) : SP163はSB29の柱穴で、578は柱根である。樹種はウルシ属である。

SP197 (図面356-705) : 705は板状木製品で、樹種はサワラである。

SP198 (図面343-579) : 579は柱根で、下端を平に加工している。樹種はクリである。

SP199 (図面343-573) : 573は柱根で、下端を平に加工している。樹種はトネリコである。

SP201 (図面344-587) : 587は柱根で、断面円形を呈す。下端は平に加工されており、樹種はクリである。

SP202 (図面343-574) : 574は柱根で、樹種はスギである。

SP203 (図面343-576) : 576は柱根で、樹種はハンノキ属ハンノキ節である。

SP204 (図面343-581) : 581は柱根で、断面方形を呈す。下端は平に加工されており樹種はハンノキ属ハンノキ節である。

SP205 (図面343-580) : 580は柱根で、樹種はヒノキである。

〈溝〉

SD01 (図面356-706) : 706は棒状木製品であり、樹種はクリである。

SD02 (図面334・346・347-472・601~615・617・618) : 472は棒状木製品で、樹種はスギである。601~607は両口箸である。607はヒノキで、他はすべてスギである。608は皿である。漆は認められない。609・610は漆器碗である。609は胴部内外面黒漆を施し、高台内は木肌のままである。内面見込みには赤漆で草花文を描く。610は内外面黒漆を施し、赤漆で内外面に文様を描き、内面見込みには鶴亀の文様が描かれる。樹種は608がサクラ属、609がトチノキ、610がブナ属である。611~613・615は板状木製品である。611は部材の残欠で、下半が欠損しているため詳細は不明だが、表面中央に直径約2.5cmの円形孔が穿たれ、その約1.0cm上方に段がつくられている。また上端を両側から斜めに削り込み、先端を方形の突起状に仕上げられており、他の部材と組み合わせて利用したものと考えられる。614の中央上方には、楕円形の孔が穿たれる。樹種ではサワラ、スギ、クリ、ヒノキがある。617は棒状木製品で全体に摩耗・腐食が著しい。樹種はツガ属である。618は板状木製品である。長さ167.6cm、

最大幅26.3cmを測る。下半は欠損しており、長さは更に延びる。上部は裝飾加工されており、他は平坦部となる。裝飾部分の厚さは10.6cm、平坦部は4.5cmを測る。樹種はヒノキで、裝飾性をもった何らかの建築部材と考えられる。

SD03 (図面346-616) : 616は棒状木製品である。断面円形で下端を鋭く削りだしている。樹種はヒノキ科である。

〈その他の遺構〉

SX01 (図面348-356-619-704) : SX01は治水・利水関係の構築物で、以下その構築物について記述する。619-649・670-672・700は板状木製品で、樹種はスギを中心にヒノキ・サワラがみられる。625の下端は凹形に加工され、626の下端および中央に円形孔が、636の下端には方形の小孔が穿たれる。645には板材の縁に沿って方形ないし円形の孔がみられる。これらの板材の小孔については部材の転用の痕跡か、あるいは他の部材との結束用のために空けられたものであろう。650-669・673-699・701-704は棒状木製品であり、断面円形や方形の杭や角材などが確認できる。樹種ではスギを中心にサワラ・ヒノキ・クリ・コナラ属クスギ節・クロモジ属がみられる。

〈包含層〉 (図面356-707)

707は一部炭化している。また木釘の孔と考えられる小孔が板材の外縁に沿って2カ所あり、表面に線状痕が顕著に認められる。

(8) B・C地区 (図面357-365-708-709)

〈井戸〉

SE01 (図面357-360-708-754) : 708・710は曲物で、井戸底に設置されていたものである。底板は欠失しており、樹種はスギである。709は差歯下駄で、平面形態は小判形である。台裏に溝を切り、ホゾが台表に露出する。ホゾ孔は方形で、前歯に2カ所、後歯に1カ所みられる。台はヒノキ、歯はスギで作られる。711は木釘とホゾを合わせて結合し方形に組む形である。樹種はスギである。712-747は板状木製品で、井戸枠の梁板に使われた板材である。樹種はスギが中心でサワラもみられる。748-754は棒状木製品で、井戸枠の横棧である。750・754は両端を凹形に、751・752は両端を凸形に加工し、それぞれを雄雌として方形に組み合わせるもので、それらには方形の抉りがみられる。

SE03 (図面365-818-825) : 818-821は井戸枠の隅柱である。断面方形の角材で、両端は平らに加工される。樹種はスギである。822-825は井戸枠の横棧である。822・823は両端を凸形に824・825は両端を凹形に加工し、それぞれを雄雌として方形に組み合わせるもので、樹種はスギである。

〈土坑〉

SK051 (図面362-765) : 765は連歯下駄で、平面形態は隅丸方形を呈す。前歯は欠失しており、後歯は後歯よりも前方に穿たれる。歯は台と同じ幅で、縦断面は方形を呈する。樹種はスギである。

SK073 (図面361-761) : 761は柱根で、樹種はクリである。

SK105 (図面361-760) : 760は柱根で、樹種はミズキ属である。

SK126 (図面365-817) : 817は樽などの栓と考えられ、樹種はサワラである。

〈柱穴〉

SP06 (図面361-763) : 763は柱根で、樹種はクリである。

SP25 (図面361-762) : 762は柱根で、樹種はクリである。

SP56 (図面361-759) : 759は柱根で、樹種はツガ属である。

SP58 (図面361-758) : 758は柱根で、樹種はスギである。

〈溝〉

SD01 (図面362-764) : 764は連歯下駄である。平面形態は小判形で、前壺はほぼ中央に、後壺は後歯よりも前方に穿たれる。歯は台と同じ幅で、縦断面は方形を呈する。後歯は斜めに取り付けられる。樹種はスギである。

SD13 (図面362~364-769~773・790~792・798~802・809) : 769~773は漆器碗である。769は表面の塗膜片から外面黒漆・内面赤漆を施し、体部外面の文様を赤漆で描いたと判断できる。770は胴部内外面赤漆で、底部高台内に黒漆を施す。771は外面黒漆、内面赤漆を施す。772は内外面黒漆を施す。樹種は769・770がトチノキ、771・772がブナ属である。773は内外面黒漆を施し、文様を赤漆で仕上げる。790・798~800は棒状木製品である。下端を凸状に加工しており、断面は790が円形、他が方形を呈する。樹種は800がスギ、他はヒノキである。791・792は板状木製品である。790の下端は凸状に加工される。791は中央よりやや下半に直径0.6cmの円孔が、792は上下端に直径0.4cmの円孔が穿たれ、裏面に線状痕が顕著に認められる。樹種は全てヒノキである。801・802・809は円形板の残欠で、曲物などの容器の底板である。809の側面には木釘の小孔が2カ所認められ、複数の板を結合して底板としたようである。樹種は809がヒノキ、他がサワラである。

SD19 (図面365-814~816) : 814・815は漆碗である。内外面黒漆を施し、814は内面見込みに赤漆で、文様が描かれる。文様は丸文のみ確認可能で、内側の文様は不明。樹種はブナ属である。816は連歯下駄である。平面形態は小判形で、歯の摩耗が著しく台の厚みとほぼ同様となる。樹種はブナ属である。

SD21 (図面361~364-755~757・766~768・777~780・782~789・793~797・804~808・810~812) : 755~757は板状木製品である。757の表裏には線状痕が顕著にみとめられ、まな板として利用された可能性がある。樹種は756はヒノキ科、他はスギである。766・767は連歯下駄の残欠である。平面形態は766は隅丸方形、767は小判形を呈す。両者とも前壺はほぼ中央に、後壺は後歯よりも前方に穿たれる。歯は台と同じ幅で、縦断面は方形を呈する。樹種は766はスギ、767はケヤキである。768は漆器の碗の底部残欠で、内外面に黒漆を施す。777~780・782~786はすべてスギの箸である。783・786は完形で、両端を細く削り出す両口箸である。787~789は棒状木製品の残欠で、788・789は片端が残存しており、平に仕上げられている。樹種はスギである。793~795は板状木製品で樹種はスギである。796・797は棒状木製品で、断面方形の角材である。樹種はスギである。804は円形板である。外周縁にそって、斜めに面取りされている。樹種はスギである。805・806は呪符である。805の上端には梵字(パーン)が墨書される。樹種はスギである。807・808は板状木製品で、折敷の底板の残欠と考えられる。片側の隅が斜めに加工されており、樹種はスギである。810・812は板状木製品である。用途は不明で、樹種は810がヒノキ、812がスギである。811は小円を3個縦に並べたように加工されている加工木で、両端が折取り、あるいは折損している。樹種はヒノキである。

SD39 (図面362~364-774~776・781・803) : 774は連歯下駄の残欠で、歯は摩耗が激しく台の厚みとほぼ同様となる。樹種はヒノキである。775は両口箸、776・781は箸の残欠である。樹種はヒノキである。803は円形板であり、縁に沿って、一段低く削られて平坦面成す。樹種はヒノキである。

〈包含層〉 (図面365-813)

813は径の小さな円形を呈する底板の破片である。復元口径10.0cm、厚さ0.55cmである。

C 金属製品 (図面366~371)

金属製品の出土は、土器・陶磁器類と比較して著しく少ない。金属製品のうち図示したものは193点で、銅銭・煙管・簪以外はすべて鉄製品である。種類が判別できるものとしては銅銭、釘、刀子、ヤス、鍵、包丁、煙管、簪がある。出土量で最も多いのが、釘であり、次に刀子があげられる。判別できないものは、その形状から棒状、板状、環状などとした。以下にまず銅銭のみを一括提示し、次いで各地区ごとに遺構別に記述をしていく。

(1) 銅銭 (図面366-001~017)

宋銭を含む17枚が出土している。これらの内、遺存状態が良好で判読できるものは15点あった。内訳は、皇宋通寶2点、元豊通寶2点、紹聖元寶、洪武通寶の宋銭と永樂通寶3点、寛永通宝6点が出土しており、寛永通宝が最も多い。宋銭では行書(002・003・005)と篆書(001・004)の字体のものがある。また寛永通宝では真鍮四文銭のもの(017)を含み、背面には11波の波文が施される。

B 5 地区SD02 (図面366-001・015・016) : SD02から出土した銅銭は3点である。001は皇宋通寶(北宋、初鑄1038年)で、篆書体である。015・016は判読することが困難なもので、015の下部の文字が篆書で「元」と書かれている。

B 5 地区SX01 (図面366-012) : 012はSX01から出土の寛永通寶である。書体から古寛永と考えられる。

B 5 地区包含層 (図面366-014・017) : 寛永通寶が2点出土している。014は書体から新寛永と考えられる。017は他の寛永通宝よりも一回り大きく背面には波文が11波施されており、真鍮製の四文銭と考えられる。

D1・D2・D4 地区包含層 (図面366-007・011) : 007は永樂通寶、011は寛永通寶である。

D3 地区包含層 (図面366-003・004) : 003・004は元豊通寶(北宋、初鑄1078年)であり、前者が行書、後者が篆書である。

E 地区SD27 (図面366-008) : 008はSD27から出土した永樂通寶である。

E 地区包含層 (図面366-009) : 009は永樂通寶と判読できる。

A 地区SK015 (図面366-006) : 006はSK015から出土したもので、006は洪武通寶(北宋、初鑄1368年)と判読できる。背面は無紋。

(2) A1 地区 (図面366-018~022)

〈包含層〉 (図面366-018・020~022)

018は煙管の雁首である。長さ4.2cm、径1.0cmを測る。020は錠前である。長さ8.5cm、幅3.3cm、厚さ1.5cmを測る。021・022は棒状の鉄製品で、021は鑿と考えられる。長さ9.7cm、幅1.4cm、重さ74.3gである。022は断面四角形の和釘とみられる。

(3) B5 地区 (図面366-019)

〈溝〉

SD01 (図面366-019) : 019はSD001から出土したもので、煙管の雁首である。板を曲げて円筒をつくり、先端を垂直に上向きに屈曲させ火皿となる。長さ3.6cm、径1.6cmを測る。

(4) D1・D2・D4地区(図面366-023~028)

〈土坑〉

SK15(図面366-026):026はほぼ完形の刀子である。鋒は直線的で基部とは段をもって分かれる。長さ10.5cmで刃部の幅2.2cm、厚さ1.0cmを測る。

SK24(図面366-024):024は刀子の刃部の一部である。残存長3.5cm、幅1.1cm、厚さ0.9を測る。

〈柱穴〉

SP09(図面366-025):025は掘立柱建物SB001の柱穴から出土した用途不明の棒状鉄製品である。板状のものを円盤状のものに通した状態で出土している。板状のもの長さ7.0cm、幅3.8cmである。

〈溝〉

SD17(図面366-023):023はヤスである。穂先が三つに分かれており、先端は残存しないためカエリが付くかどうかは判別できない。柄に装着する基部も折損しているが、残存部位の先端は中空ではなく中実となっている。残存する部分の長さ16.7cmで、穂先部分の長さ13.8cmを測る。左右穂先間の幅8.5cmで、穂先の横断面は楕円形で径0.6~0.8cm、基部の横断面も楕円形で径1.2~1.8cmを測る。富山県内における出土例は5例が知られている。

〈包含層〉(図面366-027・028)

027は釘であり、全長5.8cmを測る。横断面は円形を呈し、近代以降のものと考えられる。028は鉄滓である。重量は40.1gを量る。

(5) D3地区(図面367~370-029~097)

〈土坑〉

SK31(図面367・368・370-029~033・035・037~040・042~051・054~056・093):SK31からは多量の鉄滓が出土し、図示できるもので23点を数える。図示したものの重量は8.6g~246.6gのものが認められる。093は板状鉄製品である。残存長10.0cm、幅3.8cm、厚さ2.1cmのもので、重量64.5gを量る。

SK32(図面367-034):034は鉄滓である。重量143.5gを量る。いわゆる碗型滓である。

SK34(図面367~370-041・052・057~081・083~085・087):SK034からは多量の鉄滓が出土し、図示できるもので31点を数える。図示したものの重量は12.3g~311.8gのものが認められSK031と比較して大型のものが多く含まれる。047・062・078・080・081・087はいわゆる碗型滓である。

SK37(図面370-086):086は鉄滓である。重量は83.5gを量る。

SK42(図面368-053):053は鉄滓である。重量111.1gを量る。

SK44(図面367-036):036は鉄滓である。重量20.1gを量る。

SK64(図面370-092):092は棒状鉄製品である。上下両端は更に延長するものと考えられる。残存長21.5cm、厚さ1.5cmを測り、断面は円形を呈す。

〈柱穴〉

SP01(図面369-82):082は鉄滓である。重量は39.2gを量る。

〈溝〉

SD26(図面370-089~091):いずれも鉄滓である。重量は089が28.2g、090が122.7g、091が230.2gを量り、090・091はいわゆる碗型滓である。

SD28(図面370-088):088は鉄滓である。重量は209.6gを量り、碗型を呈する。

〈包含層〉（図面370-094～097）

094～097はD3地区の包含層から出土した金属製品である。094は簪の完形品である。全長13.8cm、幅0.4cm、厚さ0.2cmを測り、簪の一端には耳かきが付く。095は棒状鉄製品であり、両端は更に延長する。残存長7.9cm、幅1.4cm、厚さ1.2cmを測る。断面は方形を呈す。096は板を曲げて円筒にした煙管の吸い口である。残存長9.3cm、最大径1.0cmのものである。097は板状鉄製品である。一端は更に延長し、他方は鉤爪状に屈曲する。残存長は8.4cm、幅1.9cm、厚さ0.6cmを測り、断面は長方形を呈する。種別・用途などは不明である。

(6) E1・E2地区（図面370・371-098～106）

〈土坑〉

SK10（図面370-098）：098は板状鉄製品で半円形の円盤状を呈し、一端が更に延長する。残存長5.5cm、幅8.3cm、厚さ1.2cmを測る。種別・用途などは不明である。

〈溝〉

SD10（図面370-100）：100は包丁と考えられる。先端および刃先が折損しており、残存長は17.7cm、茎部の幅1.5cm、刃部の幅3.8cm、厚さ0.6cmを測る。

SD25（図面370-099）：099は板状鉄製品で、一端が更に延長する。残存長9.6cm、幅2.9cm、厚さ2.2cmを測る。形状から延長部がU字状に延びることが考えられ、蹄鉄となる可能性がある。

SD29（図面371-102）：102は鉄滓で、重量71.6gを量る。いわゆる碗型滓である。

〈包含層〉（図面370・371-101・103～106）

101は簪の完形品である。全長17.4cm、幅0.7cm、厚さ0.1cmを測る。断面は長方形で、簪の先端には耳かきが付き、5弁の花が意匠されている。103は著しく変形した釘である。104・105は煙管である。104は吸い口で、残存長5.0cm、径0.9cmである。105雁首で、残存長4.4cm、径1.0cmを測る。両者とも板を曲げて円筒に仕上げたものである。106は簪の先端部分であり、凝った意匠が施されている。残存長5.3cm、最大幅2.0cm、厚さ0.4cmを測る。

(7) F2・F3地区（図面371-107～111）

〈土坑〉

SK15（図面371-107）：107は鉄滓である。重量35.7gを量る。

SK33（図面371-108）：108は鉄滓である。重量47.4gを量る。

SK50（図面371-109）：109は断面方形の角釘である。頭部を折り返した折頭を呈し、下方は更に延長する。残存長4.4cm、幅1.0cm、厚さ0.7cmを量る。

〈包含層〉（図面371-110～112）

110は煙管の雁首の首部である。111・112は断面方形の角釘である。111は先端部で幅0.8cm、112は胴部で、幅1.3cmを量る。

(8) A地区（図面371-113・116・125）

〈井戸〉

SE02（図面371-113）：113は鉄滓である。重量66.5gを量る。

〈溝〉

SD23 (図面371-116) : 116は煙管の吸い口である。残存長7.5cm、最大径1.4cmを量る。板を曲げて円筒に仕上げたもので、胸部が押し潰されたように変形している。

〈包含層〉 (図面371-125)

125は断面長方形の板状鉄製品である。頭部を折損しており、先端に向かって細くなる。残存長9.9cm、幅2.0cm、厚さ0.5cmを測る。形状から馬鍔の刃と考えられる。

(9) B・C地区 (図面371-114・115・117~125・126)

〈土坑〉

SK94 (図面371-118) : 118は鉄滓である。重量74.3gを量る。

〈柱穴〉

SP33 (図面371-115) : SP033は掘立柱建物SB06の柱穴である。115は鉄滓で重量15.1gを量る。

〈溝〉

SD39 (図面371-119) : 119は板状鉄製品で、頭部がやや広がり先端に向かって細くなる形状で、断面長方形を呈す。残存長16.6cm、幅1.6cm、厚さ0.5cmを測る。形状から馬鍔の刃と考えられる。

〈包含層〉 (図面371-114・117・120~124・126)

114・117は鉄滓で、いわゆる碗型滓である。114は重量181.2g、117は重量176.8gを量る。120~124・126は中名VI遺跡の各地区の包含層から出土した金属製品である。120は断面長方形の板状鉄製品である。120は頭部が広がっており、直線的に下方へ延びる。全長9.5cm、幅2.0cm、厚さ0.9cmを測る。121は角釘の胸部の一部である。122は幅広のリング状を呈する金属製品である。直径3.0cm、穴の直径0.9cm、厚さ0.8cmを測る。種別・用途は不明。123・124は鉄滓である。重量は123が79.2g、124が72.1gを測る。123はいわゆる碗型滓である。126は丸釘で、近代以降のものと考えられる。

D 石製品 (図面372~378)

石製品は土器・陶磁器類に比べ、著しく出土量が少ない。出土した石製品をみると、古代の遺構・包含層からの出土は少なく、どちらかという中・近世の時期のものが多い傾向にある。図示したものは91点で、そのうち器種別で最も多いのは砥石で、石製品の約半分を占めている。次に多いのが石臼で、他に茶臼、石硯、石鉢、五輪塔、板碑、紡錘車、石鏟、鋤型、凹石などが出土している。以下に各地区ごとに記述を進める。

(1) A1地区 (図面372-01~06)

〈溝〉

SD01 (図面372-04) : 04は五輪塔の地輪である。現存で長さ25.0cm、幅20.5cm、厚さ20.5cmを測る。石材は安山岩である。

SD02 (図面372-02) : 02は凝灰岩製の砥石である。現存で長さ、4.3cm、幅1.2cm、厚さ1.0cmを測る。

SD12 (図面372-01・03) : 01は濃飛流紋岩製の棒状石製品である。現存で、長さ15.4cm、幅8.9cm、厚さ4.5cm、重さ1kgを測る。03は棒状の安山岩である。表面に平坦面が形成される。長さ28.0cm、幅22.0cm、厚さ11.2cmを測る。

SD17 (図面372-06) : 06は石臼である。主として粉挽きに用いるいわゆる「粉挽き臼」で、これは下臼(雄臼)の方である。摺り面はやや凸型で、径16.0cm、厚さ8.7cmを測る。石材は安山岩である。

〈包含層〉(図面372-05)

05は中名V遺跡A1地区の包含層出土遺物である。005は五輪塔の地輪である。長さ29.5cm、幅25.0cm、厚さ21.5cmを測る。

(2) B5地区(図面372-07)

〈溝〉

SD02(図面372-07):07は石鉢の片口鉢である。体部外面には粗い長方形のノミ跡が顕著に残る。口径34.0cm、器高14.4cmで、長さ4.8cmの片口が付く。底面から口縁部への立ち上がり角度は50度となる。

(3) D1・D2・D4地区(図面372-08~13)

〈鑿穴住居〉

SI02(図面372-13):13は円盤状を呈す。平坦面には摩擦による摺り面が形成されている。長径12.5cm、短径11.5、厚み4.5cmで、石材は花崗斑岩である。

SI03(図面372-11):11は長方形の砥石である。表・裏面が使用に伴い中央の厚みが減じている。幅3.5cm、厚さ2.6cmで、石材は凝灰岩である。

SI04(図面372-12):12は棒状石製品である。石の両端には叩打時に形成されたような使用痕が若干認められる。全長14.3cm、幅5.6cm、厚さ4.9cmを測り、石材は砂岩で、叩石のように利用されたものであろう。

〈溝〉

SD17(図面372-08):08は茶臼の上臼である。直径22.0cm、高さ11.7cmである。目のパターンは8分画と考えられ、10本の副溝がある。口の側面には打込孔が認められ、孔の周囲を菱形模様で裝飾されている。石材は安山岩である。

〈包含層〉(図面372-09・10)

09・10は砥石である。両者とも上下端を欠失する。09は幅2.9cm、厚さ0.7cmで、断面長方形の板状を呈し、石材は泥岩である。10は幅2.5cm、厚さ2.3cmで、断面方形の角柱状を呈す。石材は凝灰岩で、両者とも中砥・仕上砥に利用されたものである。

(4) D3地区(図面373・374-14~29)

〈土坑〉

SK05(図面373-17):17は円盤状の礫である。直径12.2cm、厚さ5.5cmの円形で、片面中央に摺り面を形成した窪みがある。石材は花崗閃緑岩である。

SK57(図面373-18):18は砥石で、断面長方形を呈する。側面が著しく摺れており、使用に伴い中央の厚みが減じている。長さ11.0cm、幅6.2cm、厚さ4.0cmを測り、石材は凝灰岩である。

SK64(図面373-16):16は角柱状の砥石で、上下端を欠失する。幅3.9cm、厚さ3.2cmで、石材は凝灰岩で、中砥・仕上砥と考えられる。

〈溝〉

SD03(図面373-15):15は円盤状の礫である。楕円形で、片面中央に摺り面を形成した窪みがある。長径10.6cm、短径12.3cm、厚さ4.6cmで、石材は安山岩である。この円盤状石製品は今回報告する中名

V・VI遺跡から合計4点確認されている。時期は概ね中世から近世に帰属するもので、用途は不明である。

SD20 (図面373-19) : 19は摺り面が一部しか確認できないが、板状の砥石と考えられる。上下端を欠失しており、幅5.0cm、厚さ1.6cmを測り、石材は凝灰質泥岩である。

SD26 (図面373-14) : 14は角柱状の砥石で、上下端を欠失する。幅5.9cm、厚さ6.0cmを測る。石材は安山岩である。

〈包含層〉 (図面373・374-20~29)

20~29は中名V遺跡D3地区の包含層出土遺物である。20は砥石の残欠である。幅約5.6cm、厚さ1.9cmを測る板状のもので、石材は凝灰岩である。21は鋳型を砥石に転用したものである。鋳型の形状から錠前の鋳型と考えられる。残存長10.5cm、幅3.6cm、厚み3.1cmを測る。石材は砂質凝灰岩である。22~24は石臼である。主として粉挽きに用いるいわゆる「粉挽き臼」で、22は直径24cm、高さ8.7cm、23は直径30.0cm、高さ8.9cm、24は直径34.0cm、厚さ9.0cmを測る。22・23は上臼で、24は下臼であり、全て安山岩で作られている。24の目のパターンは10分画で、14本の割溝をもつ。25は円盤状の礎である。長径13.0cm、短径11.4cm、厚さ4.9cmの楕円形で、片面中央に摺り面を形成した窪みがある。石材は安山岩である。26・27は硯である。26は、長さ13.6cm (約4.5寸)、幅7.4cm (約2.4寸) の長方硯で縁帯が剥離しており、裏面が平坦である。27は硯の頭部分である。幅7.5cm (約2.5寸) で、裏面が平坦で、海部を直角に削って作り出したものである。石材はいずれも泥岩である。28・29は角柱状の砥石であり、いずれも凝灰岩である。

(5) E1・E2地区 (図面374~376-30~57・64)

〈井戸〉

SE12 (図面374-30・31) : 30・31は砥石の残欠である。31は断面長方形の角柱状を呈す。石材は両者とも凝灰岩である。

〈土坑〉

SK60 (図面376-64) : 64は石臼の上臼である。側面に1箇所、長方形の孔があり、横打込み式の挽き木を使用したものと考えられる。直径31.2cm、高さ9.4cmで、石材は安山岩である。

〈溝〉

SD10 (図面375-47~52) : 47・48は角柱状の砥石である。47は上下端が使用により減じており、石材は凝灰岩である。48は長さ9.7cm、幅4.5cm、厚み6.0cmで、石材は流紋岩である。49は炭などを入れて使用する手あぶり型の暖房具と考えられる。内面にはノミ跡が顕著に残り、石材は安山岩である。50・51は五輪塔の火輪である。50は一辺23.5cm、高さ18.0cmで、石材は凝灰岩である。空風輪との接着面で窪み、器高が高い。51は一辺25.0cm、器高13.0cmで石材は安山岩である。52は方形の形態を呈し、長さ27cm、高さ17.6cmを測る。石材は安山岩である。石鉢か。

SD19 (図面374-32) : 32は角柱状の砥石であり、下端を欠失する。長さ7.4cm、幅4.1cm、厚み3.1cm、石材は凝灰岩である。

SD26 (図面374-33~35) : 33は板状の砥石で、上下端を欠失する。幅4.8cm、厚み1.6cmで、石材は凝灰岩である。34は石臼の下臼である。直径約32cm、高さ9.8cmで、凝灰岩で作られており、劣化が著しく摺り面の詳細は不明。35は五輪塔の火輪である。一辺26.8cm、高さ18.5cmで、空風輪との接着面で窪み、器高が高いのが特徴的である。

SD26 (図面374-36~38) : 36は石臼の下臼である。直径30.2cm、高さ12.6cmで、摺り面がやや凸面となっており、石材は凝灰岩である。37は円柱状で、摺り面が八面形成されている砥石である。上端は欠失しており、1/2呈が残存する。胴部が使用により減じており、石材は安山岩である。38は茶臼の下臼である。目のパターンは8分画で副溝が9本ある。受け部が丁寧に磨かれており、石材は凝灰岩である。

SD28 (図面375・376-53・55・56) : 53は角柱状の砥石であり、上下端を欠失する。幅は7.2cmで、石材は凝灰岩である。55は円盤状の碾である。長径12.36cm、短径9.4cm、厚さ3.5cmの楕円形で、片面中央に摺り面を形成した窪みがある。石材は安山岩である。56は板碑である。形態は厚みのある角柱状でシンプルな形状。頂部の山形と身部(軸部)とは線刻区画されず、高さのない三角錐状の山形を頭頂部に作り出す。身部表面には図像にかわる種子として梵字を刻む。梵字は大日如来を表す「バン」の字が一字、軸部やや上側に陰刻される。法量は現存で長さ55.6cm、幅21.4cm、厚さ15.0cm。石材は安山岩である。

SD35 (図面376-57) : 57は五輪塔の火輪である。一辺29.6cm、高さ24.8cmで、石材は凝灰岩である。空風輪との接着面で窪み、器高が高い。

〈その他の遺構〉

SX03 (図面375-54) : 54は石臼の下臼で、1/2が残存する。目のパターンは8分画で副溝が10本と考えられる。直径30.0cm、高さ8.2cmで、石材は安山岩である。

〈包含層〉 (図面375-39~46)

39・40は石臼の上臼で、両者とも安山岩である。40の側面には長方形の孔があり、挽き木は横打込み式である。41~45は砥石の残欠である。45以外は板状を呈し、41が凝灰質泥岩、43は泥岩で、他は凝灰岩である。45はL字状を呈す。46は火鉢である。底部には長方形の低い脚が隅に付き、やや斜め上方に立ち上がる。

(6) F1地区 (図面376-58・59)

〈包含層〉 (図面376-58・59)

58・59は板状の砥石で、上下端を折損する。58は幅2.0cm、厚さ1.1cmで、石材は凝灰岩、59は幅5.0cm、厚さ0.7cmで、石材は凝灰質泥岩である。

(7) F2・F3地区 (図面376-60~63・65~74)

〈土坑〉

SK01 (図面376-60) : 60は板状の砥石である。長さ10.5cm、幅3.8cm、厚さ1.1cm。石材は凝灰質泥岩である。

SK05 (図面376-63) : 63は板状の砥石で、下端を欠失する。幅6.0cm、厚さ2.1cmで、石材は凝灰岩である。

〈柱穴〉

SP16 (図面376-61) : SP16は掘立柱建物SB04の柱穴である。61は板状の砥石であり、下端を欠損しており、上端は使用により厚みを減じている。幅5.2cm、厚さ3.2cmで、石材は凝灰岩である。

SP62 (図面376-62) : SP62は掘立柱建物SB11の柱穴である。62は角柱状の砥石であり、下端を欠損している。幅3.6cm、厚さ3.5cmで、石材は凝灰岩である。

〈包含層〉 (図面376~377-65~74)

65~71は砥石である。全て板状のもので、石材は凝灰岩である。72・73は石臼の上臼である。両者とも側面に挽き木を差し込む孔が開いており、72は半円状、73は長方形を呈す。石材は72が安山岩、73が凝灰岩である。74は板碑の下半部で、上半部は折損している。幅24.7cm、厚さ11.6cmのもので、石材は安山岩である。

(8) A地区 (図面377・378-75~84)

〈井戸〉

SE02 (図面377-75) : 75は砥石の残欠である。石材は凝灰岩である。

〈土坑〉

SK136 (図面377-77) : 77は角柱状の砥石で、下半部を欠失する。幅2.4cm、厚さ2.1cmで、石材は凝灰岩である。

〈柱穴〉

SP60 (図面377-76) : SP60はSB10の柱穴である。76は角柱状の砥石で、上端部分を欠失する。幅8.3cm、厚さ3.8cmで、石材は凝灰岩である。

〈溝〉

SD03 (図面378-82) : 82は硯である。下半部分を欠損しており、幅6.1cm、厚さ1.7cmをはかる。裏面は平坦で、硯頭から約1cm下がった部分から、直角に削って海部を削り出すものである。

SD12 (図面377-78・79) : 78は角柱状、79は板状の砥石である。78は長さ11.2cm、幅4.8cm、厚さ2.6cmで、石材は砂岩。79は幅6.8cm、厚さ2.0cmで、石材は凝灰岩である。

〈包含層〉 (図面377・378-80・81・83・84)

80は滑石製の紡錘車である。残存部の幅4.3cm、高さ2.2cmで、側面に沈線で、格子目状に鋸歯文が描かれる。81は板状の砥石である。下半部を折損しており、幅3.4cm、厚さ0.7cmで、石材は凝灰質泥岩である。83は泥岩製の硯である。長さ10.8cm、幅5.1cm、厚さ1.7cmを測る。裏面は平坦で、硯頭から約1cm下がったところから、鈍角に削って海部を削り出すものである。84は石臼の下臼である。残存率が1/8程度のため詳細は不明。石材は安山岩である。

(9) B・C地区 (図面378-85~91)

〈竪穴住居〉

SI03 (図面378-85) : 85は長径12.5cm、短径10.0cmの楕円形を呈する安山岩の石鍾である。長軸方向の両端を両側から打ち欠いている。重さは122.4gを測る。

〈土坑〉

SK121 (図面378-87) : 87は砥石の残欠であり、石材は凝灰岩である。

〈包含層〉 (図面378-86・88~91)

86は角柱状の砥石である。下端は欠失しており、幅4.6cm、厚さ2.2cmで、石材は凝灰岩である。88・89は凝灰岩の砥石の残欠である。90は棒状石製品である。石の両端には叩打時に形成されたような使用痕が認められる。全長13.0cm、幅5.7cm、厚さ3.0cmを測り、石材は安山岩で、叩石のように利用されたものであろう。91は円盤状の礫である。直径13.4cm、厚さ5.4cmの円形で、片面中央に摺り面を形成した窪みがある。石材は花崗閃緑岩である。

第三章 砂子田 I 遺跡の調査

1 調査区の設定と基本層序

A 調査地区の設定

本書で報告する砂子田 I 遺跡の発掘調査とは、平成12年度に調査した砂子田 I 遺跡 A地区・B地区・D地区・E地区の1遺跡4地区である。調査は当初、B地区に隣接するC地区を含めたA・B・C・Dの4地区を予定していたが、B地区の調査の段階でC地区が既存構造物の付設工事で、包含層はもとより遺構検出面まですでに破壊されていることが判明したため、本調査の対象外となった。このような経緯の中で、追加調査としてD地区の北側に隣接するE地区を新たに設定し調査が実施された。砂子田 I 遺跡は中名V・VI遺跡から北へおよそ500mに位置し、標高は約17~18mを測る。

今回報告する砂子田 I 遺跡の調査で、最も面積の広い地区はB地区で平面積2,578㎡を数える。この調査区は砂子田 I 遺跡の東側に位置し、水田復元工事に伴う調査区である。

A地区・D地区・E地区は用水路取り付け部分に相当する調査区で、A地区は東西方向に細長く、D・E地区は南北方向に細長いトレンチ状の調査区である。A地区で幅約1.8m、長さ約54mの平面積121㎡、D地区で幅約1.5m、長さ約57mの平面積87㎡、E地区で幅約1.5m、長さ約118mの平面積179㎡をそれぞれ数える。

B 基本層序

A地区：A地区の層序はI層が表土、IIa層が暗灰黄色砂質シルト、IIb層が暗灰黄色砂質シルト、IIc層が暗オリーブ褐色砂質土、III層は基盤の礫に分けられる。II層が古代包含層に相当し、遺構検出はIIc層の上面で行われた。検出された遺構の時期は古代が中心である。

B地区：B地区の旧地形は西側がやや高く、東側に向かって緩やかに低くなっている。層序は大きく3層に分けられ、I層が表土、II層が遺物包含層、III層が基盤層となっている。

I層は褐灰色シルト、IIa層は黄灰色シルト、IIb層は黒褐色シルト、IIc層は灰色砂質土、IId層は黄灰色砂質シルト、III層は浅黄色砂質シルトとなる。II層には主に古代の遺物が包含されており、遺構検出はIII層上面で行われ、微高地である西側の一部ではIII層の下の礫層が起伏している。検出された遺構はやはり古代が主体となる。なお、III層中にも古代の遺物が出土しているため下層にも遺構の存在が推定されたが、水田復元工事の際には盛り上保存により、下層遺構に直接影響しないため、全面発掘はせずに、試掘トレンチを東西方向に3本設定し下層の遺構の広がりを確認するにとどめた。その結果、III層上面から約0.20m下から土坑などの遺構が確認されている。

D地区：層序は大きく3層に分けられ、I層が表土、II層が遺物包含層、III層が基盤層となっている。IIa層は黒褐色砂質シルト、IIb層は黒褐色砂質シルト、IIc層は黒褐色砂質シルト、III層は灰オリーブ色砂質土層となる。II層は古代の遺物が包含されており、遺構検出はIII層上面で行われた。遺構の時期は古代が中心である。

E地区：基本的にはD地区の層序に準じている。D地区ではIIb層からの遺物出上りが中心であったが、E地区ではIIa層からの出上りも多く認められている。

2 遺構

A地区は砂子田 I 遺跡の南端部に位置する調査区で、A・D・E地区は用排水路取り付け部分のため幅約2.0mの細長い調査区であり、B地区は水田復元に伴う面工事の地区である。調査面積はA地区で121㎡、B地区で2,578㎡、D地区で87㎡、E地区で179㎡であり、時期は概ね古代の一面調査であった。B地区は比較的広い範囲で調査されたため遺構の広がりや性格などが判別できるが、それ以外のA・D・E地区については調査区が狭く遺構の広がりや性格など判然としない。検出された遺構には竪穴住居、土坑、溝などがある。なお、遺構番号は砂子田 I 遺跡として全地区共通で付けている。

竪穴住居

SI01-SP01~SP04 (図面228・233)：平面形態はややいびつな方形を呈し、長辺2.45m、短辺1.98m、深さ0.23mを測る。床面積5.76㎡、主軸方位はN11° Eとなる。壁面の立ち上がりは緩やかに立ち上がる。遺構内に4本の柱穴を持つ。カマドなどの付属施設は確認されていないが、南東隅に楕円形で一段低くなる部分がありカマドや貯蔵穴の可能性がある。竪穴の覆土は第1層：(5Y6/1)灰色砂質土層、第2層：(5Y5/1)灰色砂質土層に分層される。竪穴内に4つの柱穴(SP01~SP04)が検出された。SP01の平面形態は円形で、径0.18m、深さ0.04mを測る。SP02の平面形態は楕円形で、長径0.17m、短径0.12m、深さ0.04mを測る。SP03の平面形態は楕円形で、長径0.15m、短径0.12m、深さ0.05mを測る。SP04の平面形態は円形で、径0.17m、深さ0.04mを測る。これらの柱穴の覆土は灰色砂質土層の単層となる。遺物は須恵器(043)、土師器(044)が出土している。

SI02 (図面228・233)：平面形態は長方形を呈するとみられる竪穴住居で、長辺3.64m、短辺2.42m、深さ0.25mを測る。床面積約8.8㎡、主軸方位はN31° Wとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は灰色砂質土層を基調とする4層から構成される。カマドは南東側のほぼ中央位置に構築されている。燃焼部での袖間の幅は0.25mで、左袖に4個、右袖に3個の長径20cmほどの自然礫を袖補強材としている。カマド内には高杯を逆に据えた状態で出土している。当初、支脚として使用されていたと考えられていたが、高杯の表面には被熱痕がみられず、また、仮に支脚とした場合、やや掛口が奥に位置することになり、不自然となる。おそらく、住居廃絶時にカマドも破壊され、その際に遺棄されたと考えられる。覆土は第1層：オリーブ灰色砂質土層、第2層：灰色砂質土層となる。竪穴住居内には数基のビット状土坑が分布しているが、配置や構築状況などから竪穴住居には伴わないとみられる。遺物は須恵器(119)、黒色土器高杯(037~039)、土師器碗(040~042)、出土遺物から6世紀後半に遡る可能性がある。石製品では磨石が出土している。

SI03 (図面231・242)：極めて狭長な調査区であるため、西辺と南辺一部のみの確認となる。平面形態は不明だが、残存している規格は、長辺3.2m、短辺1.2m以上、深さ0.25 mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。覆土は第1層：灰色砂質土層、第2層：黄灰色砂質土層、第3層：灰オリーブ色砂質土層に分層される。カマドは南端のやや西寄りの位置に構築されている。主軸方位はN21° Eとなる。燃焼部での袖間の幅は0.25mで、左袖に1個、右袖に2個の直径0.25cmほどの自然礫が確認される。遺物は須恵器(189~192)、土師器(193・194・196・202~204)、黒色土器(195・197~201)が出土している。

土坑

SK01 (図面232)：平面形態は円形で、規模は径0.27~0.32m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK02 (図面232)：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m、短径0.4m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：オリブ褐色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK03 (図面232)：平面形態は楕円形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径0.8m、短径0.6m、深さ0.35mを測る。覆土は第1層：(2.5Y4/2)暗灰黄色砂質土層、第2層：(2.5Y5/2)暗灰黄色砂質土層、第3層：黒褐色砂質土層に分層される。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK04 (図面232)：平面形態は不整形で、SK05に切られ、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.07m以上、短径0.68m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：(2.5Y3/1)黒褐色砂質土層、第2層：(2.5Y3/2)黒褐色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK05 (図面232)：平面形態は不整形で、SK04を切り込み、東側は調査区外となる。規模は長径0.77m、短径0.6m以上、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質土層、第2層：灰色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK06 (図面232)：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径0.79m、短径0.27m以上、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質土層、第2層：オリブ黒色砂質土層となる。出土遺物は土師器がある。

SK07 (図面232)：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径0.55m、短径0.42m以上、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：(2.5Y4/2)：暗灰黄色砂質土層、第2層：(2.5Y5/2)暗灰黄色砂質土層となる。出土遺物は土師器がある。

SK08 (図面232)：平面形態は不整形で、SK09に切り込まれ、南側は調査区外に広がる。規模は長径0.95m以上、短径0.42m以上、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：灰オリブ色砂質土層、第3層：オリブ黒色砂質土層に分層される。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK09 (図面232)：平面形態は楕円形で、SK08を切り込む。規模は長径0.36m、短径0.25m、深さ0.07mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SK10 (図面232)：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.4m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質土層、第2層：黒褐色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK11 (図面232)：平面形態は不整形で、SK12を切り込み、SK14に切り込まれ、南側は調査区外に広がる。規模は長径0.95m以上、短径0.42m以上、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質土層、第2層：灰色砂質土層、第3層：黄灰色砂質土層に分層される。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK12 (図面232)：平面形態は不整形で、SK11に切り込まれる。規模は長径0.48m、短径0.3m以上、深さ0.23mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK13 (図面232)：平面形態は不整形で南東側は調査区外に広がる。規模は長径0.43m以上、短径0.35m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK14 (図面232)：平面形態は楕円形で、SK11を切り込む。規模は長径0.58m、短径0.4m、深さ0.27mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：暗灰黄色砂質土層、第3層：オリブ黒色砂質土層に分層される。出土遺物は土師器がある。

SK15 (図面232)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.63m、短径0.29m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK16 (図面232)：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径0.5m以上、短径0.15m以上、深さ0.08mを測る。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SK17 (図面232)：平面形態は不整形で、SK18を切り込み、北側は調査区外に広がる。規模は長径0.53m、短径0.1m以上、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK18 (図面232)：平面形態は楕円形で、SK17に切り込まれる。規模は長径0.45m以上、短径0.25m、深さ0.12mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK19 (図面232)：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.35m以上、短径0.3m、深さ0.1mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK20 (図面232)：平面形態は不整形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径1.12m以上、短径0.3m、深さ0.08mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK21 (図面232)：平面形態は不整形で、北西側は調査区外に広がる。SD06に切り込まれる。規模は長径0.6m以上、短径0.42m、深さ0.62mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器、須恵器がある。

SK22 (図面233)：平面形態は楕円形で、トレンチ内に位置する。規模は長径0.36m、短径0.2m、深さ0.12mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK23 (図面233)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.34m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：黄灰色砂質土層、第2層：灰色砂質土層となる。出土遺物は認められない。

SK24 (図面233)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.35m、深さ0.11mを測る。覆土は第1層：黄灰色砂質土層、第2層：灰色砂質土層となる。出土遺物は土師器がある。

SK25 (図面234)：平面形態は不整形で、西壁に一部突出する部分のみみられる。規模は長径3.34m、短径2.25m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：(5Y6/1)灰色砂質土層、第2層：(5Y5/1)灰色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK26 (図面234)：平面形態は不整形で、規模は長径0.54m、短径0.48m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：灰色砂質土層、第2層：灰オリーブ色砂質土層となる。出土遺物は土師器(056)がある。

SK27 (図面234)：平面形態は不整形で、SD27に切り込まれる。規模は長径0.6m、短径0.49m以上、深さ0.07mを測る。土坑内は人頭大の礫が混入している。覆土は灰色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK28 (図面234)：平面形態は隅丸方形で、SD28に切り込まれる。規模は長辺0.94m、短辺0.91m、深さ0.04mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK29 (図面234)：平面形態は楕円形で、SK30に切り込まれる。規模は長径0.59m、短径0.54m、深さ0.05mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK30 (図面234)：平面形態は楕円形で、SK29を切り込む。規模は長径0.7m、短径0.41m、深さ0.09mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK31 (図面234)：平面形態は楕円形で、規模は長径1.15m、短径0.69m、深さ0.17mを測る。土坑

- 内は礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
- SK32** (図面234)：平面形態は不整形で、規模は長径2.5m、短径1.95m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：灰黄色砂質土層、第2層：灰色砂質土層となる。出土遺物は土師器が認められる。
- SK33** (図面234)：平面形態は長楕円形で、規模は長径3.98m、短径1.14m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。
- SK34** (図面235)：平面形態は円形で、規模は径0.7~0.77m、深さ0.16mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK35** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.98m、深さ0.27mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK36** (図面235)：平面形態は不整形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径0.98m、短径0.82m以上、深さ0.2mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(055)がある。
- SK37** (図面235)：平面形態は円形で、規模は径0.53~0.6m、深さ0.26mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器(057)がある。
- SK38** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径1.84m、短径0.87m、深さ0.16mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK39** (図面235)：平面形態は楕円形で、SK40との切り合いは不明。規模は長径1.37m以上、短径1.02m、深さ0.22mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
- SK40** (図面235)：平面形態は不整形で、SK39との切り合いは不明。規模は長径0.83m、短径0.75m、深さ0.17mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。
- SK41** (図面235)：平面形態は楕円形で、SK42に切り込まれる。規模は長径0.65m、短径0.42m、深さ0.1mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK42** (図面235)：平面形態は楕円形で、SK41・SK43を切り込む。規模は長径0.36m、短径0.64m、深さ0.14mを測る。覆土は灰オリーブ色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
- SK43** (図面235)：平面形態は楕円形で、SK42に切り込まれる。規模は長径0.41m以上、短径0.31m、深さ0.09mを測る。覆土は灰色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK44** (図面235)：平面形態は円形で、規模は径0.33m、深さ0.12mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。
- SK45** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.36m、深さ0.14mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
- SK46** (図面235)：平面形態は楕円形で、SD17を切り込む。規模は長径0.52m、短径0.43m、深さ0.14mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。
- SK47** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m以上、短径0.34m、深さ0.1mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(054)がある。
- SK48** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.58m、深さ0.07mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
- SK49** (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径1.44m、短径0.92m、深さ0.09mを測る。覆土

は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK50 (図面235)：平面形態は楕円形で、規模は長径1.07m、短径0.72m、深さ0.09mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK51 (図面235)：平面形態は不整形で、SD28に切り込まれる。規模は長径3.77m、短径1.47m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK52 (図面236)：平面形態は不整形で、SD28に切り込まれる。規模は長径0.34m以上、短径1.71m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK53 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.35m、深さ0.09mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK54 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.29m、深さ0.06mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK55 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.42m、深さ0.07mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK56 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.36m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK57 (図面236)：平面形態は円形で、規模は径0.43m、深さ0.12mを測る。覆土は灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK58 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.39m、深さ0.1mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK59 (図面236)：平面形態は不整形で、規模は長径1.51m、短径1.05m、深さ0.09mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK60 (図面236)：平面形態は不整形で、規模は長径1.2m、短径0.89m、深さ0.11mを測る。覆土は灰オリーブ色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK61 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.88m、短径0.72m、深さ0.1mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(045・097・098)、土師器(046~053)が認められる。

SK62 (図面236)：平面形態は円形で、規模は径0.25~0.29m、深さ0.1mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK63 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径1.46m、短径1.26m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：(2.5Y4/1)黄灰色砂粘質土層、第2層：(2.5Y6/1)黄灰色砂粘質土層、第3層：灰オリーブ色砂粘質土層に分層される。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK64 (図面236)：平面形態は楕円形で、規模は長径2.31m、短径1.05m、深さ0.07mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK65 (図面237)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.32m、深さ0.04mを測る。覆土は黒褐色砂粘質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK66 (図面237)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.32m、深さ0.09mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK67 (図面237)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.23m、深さ0.06mを測る。覆土

は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK68 (図面237)：平面形態は楕円形で、トレンチを切る。規模は長径1.09m、短径0.9m、深さ0.08mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK69 (図面237)：平面形態は不整形で、南東側は調査区外に広がる。規模は長径0.75m、短径0.71m、深さ0.16mを測る。覆土は灰オリーブ色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SK70 (図面237)：平面形態は不整形で、規模は長径1.73m以上、短径1.56m、深さ0.3mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(065・066)、土師器が認められる。

SK71 (図面237)：平面形態は円形で、規模は径0.27～0.3m、深さ0.23mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK72 (図面237)：平面形態は円形で、規模は径0.51～0.54m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：(5Y6/1)灰色砂質土層、第2層：(5Y5/1)灰色砂質土層、第3層：(5Y4/1)灰色砂質土層に分層される。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK73 (図面237)：平面形態は不整形で、トレンチを切る。規模は長径1.15m、短径1.13m、深さ0.4mを測る。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK74 (図面237)：平面形態は不整形で、SK75を切り込む。規模は長径1.62m、短径1.02m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK75 (図面237)：平面形態は不整形で、SK74に切り込まれる。規模は長径1.3m、短径1.06m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SK76 (図面237)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.84m、短径0.68m、深さ0.14mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK77 (図面237)：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.26m、深さ0.09mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は黒色土器(058)、土師器、土鍾(059)が認められる。

SK78 (図面237)：平面形態は円形で、規模は径0.39m、深さ0.1mを測る。覆土は灰色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK79 (図面239)：平面形態は不整形で、規模は長径0.97m、短径0.93m、深さ0.05mを測る。覆土は第1層：灰オリーブ色砂粘質土層、第2層：灰色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SK80 (図面239)：平面形態は楕円形で、SD20に切られる。規模は長径0.86m、短径0.68m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：(2.5Y6/1)黄灰色砂粘質土層、第2層：(2.5Y5/1)黄灰色砂粘質土層となる。出土遺物は土師器、越中瀬戸、木製品がある。

SK81 (図面240)：平面形態は不整形で、北東、南西側は調査区外に広がる。規模は長径3.35m、短径1.15m以上、深さ0.1mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(173)、土師器がある。

SK82 (図面240)：平面形態は不整形で、北東、南西側は調査区外に広がる。規模は長径5.0m、短径0.9m以上、深さ0.07mを測る。土坑内は拳大～人頭大の円礫が混入している。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器(171・172)がある。

SK83 (図面240)：平面形態は不整形で、南北共に調査区外に広がる。規模は長径4.1m、短径

1.15m以上、深さ0.05mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層を基調とする。出土遺物は須恵器、土師器(174)、金属製品では鉄滓(02)がある。

SK84 (図面241)：平面形態は不整形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径0.7m、短径0.35m以上、深さ0.5mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層を基調とする。出土遺物は土師器が認められる。

SK85 (図面241)：平面形態は円形で、規模は径0.75～0.9m、深さ0.13mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(169)、土師器がある。

SK86 (図面241)：平面形態は円形で、規模は径0.46～0.55m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質土層、第2層：黒褐色砂質土層となる。出土遺物は須恵器、土師器(170)がある。

SK87 (図面242)：平面形態は不整形で、南北共に調査区外に広がるSD32に切られる。規模は長径2.9m以上、短径1.25m以上、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SK88 (図面242)：平面形態は円形で、南北共に調査区外に広がる。規模は径0.35～0.4m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(205・206)、土師器が認められる。

SK89 (図面242)：平面形態は円形で、規模は径0.5～0.65m、深さ0.12mを測る。覆土は暗灰黄色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK90 (図面242)：平面形態は不整形で、東側以外は調査区外に広がる。規模は長径1.1m以上、短径0.7m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色砂質土層のみの単層となる。出土遺物は須恵器(262)が認められる。

溝

SD01 (図面227・232)：調査区を東西に横断する直線の溝であり、調査区外に延びる。確認できる長さは2.0m、最大幅0.8m、最大深0.14mを測る。断面形態はV字形を呈する。覆土は黄灰色砂質土層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD02 (図面227・232)：SD01の南側に併走する直線の溝である。確認できる長さは1.5m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD03 (図面227・232)：調査区を南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.8m、最大幅0.4m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：灰色砂質土層からなる。出土遺物は須恵器、土師器がある。

SD04 (図面227・232)：調査区を東西に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.5m、最大幅0.9m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD05 (図面227・232)：調査区を南北に横断する不整形の溝である。確認できる長さは1.7m、最大幅1.1m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD06 (図面227・232)：調査区最北端に延びる溝である。確認できる長さは3.2m、最大幅2.0m、最大深0.12mを測る。断面形態は不整形を呈する。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：灰色砂質土層、第3層：オリブ黒色砂質土層からなる。出土遺物は須恵器(005～007)、土師器、施釉陶器が認められる。

- SD07 (図面227・232) : 調査区を東西に横断する不整形の溝である。確認できる長さは1.3m、最大幅5.0m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器(001~003)、土師器(004)が認められる。
- SD08 (図面229・237) : 北東から南西に延びる小溝で、両端とも消失している。長さ5.1m、最大幅1.2m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は、a・bセクションとも黄灰色砂粘質土層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。
- SD09 (図面228・238) : 調査区南西端で東西に広がる不整形の溝でSD13を切っている。確認できる長さは9.5m、最大幅3.0m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は第1層:黄灰色砂粘質土層、第2層:灰オリーブ色砂粘質土層である。出土遺物は須恵器(068・069)、土師器(070~072)、中世土師器が認められる。
- SD10 (図面228・238) : 両端は消失している小溝である。長さ2.5m、最大幅0.5m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。
- SD11 (図面228・238) : 北西から南東に延びる不整形の溝であり、両端は消失している。長さ5.0m、最大幅0.6m、最大深0.03mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。
- SD12 (図面228・238) : 北西から南東に延びる不整形の溝である。南東端は消失し北西側は調査区外に広がる。長さ5.5m、最大幅1.3m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は、a・bセクションとも灰オリーブ色砂質土層からなる。出土遺物は認められない。
- SD13 (図面228・238) : 北西端は消失し南東方向に延びて、SD09に切られる不整形の溝である。長さ2.9m、最大幅1.1m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。
- SD14 (図面228・238) : 北西端はトレンチに切られ開放しており南東側は調査区外に延びる直線の溝である。確認できる長さは1.6m、最大幅2.2m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰色砂質土層である。出土遺物は認められない。
- SD15 (図面228・238) : 北東から南西に延びる直線の溝で、両端とも消失している。同方向にSD16・SD17・SD18が併走している。長さ3.2m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器がある。
- SD16 (図面228・238) : SD15に併走する直線の溝である。両端とも消失している。長さ3.3m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。
- SD17 (図面228・238) : SD15・SD16・SD18に併走する直線の溝である。両端とも消失している。長さ7.0m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は土師器が認められる。
- SD18 (図面228・238) : SD17に併走する直線の溝で両端とも消失する。長さ3.1m、最大幅0.3m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は土師器が認められる。
- SD19 (図面229・238) : 北東から南西に延びる不整形の溝である。途中途切れているが両端とも消失している。長さ11.0m、最大幅1.8m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は

第1層：(5Y4/1)灰色砂粘質土層、第2層：(5Y5/1)灰色砂粘質土層である。出土遺物は土師器(067)、須恵器が認められる。

SD20 (図面228・239)：調査区を東西に延びる直線の溝である。北側を併走するSD27と中央部で合流している。SD25・SK80を切っている。長さ56.4m、最大幅3.2m、最大深1.1mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は、aセクションで灰色砂質土層を基調とする。bセクションで第1層：(5Y5/1)灰色砂粘質土層、第2層：灰色砂質土層、第3層：(5Y6/1)灰色砂粘質土層に分層される。出土遺物は須恵器(092～094・114)、土師器、中世上師器、越中瀬戸、伊万里、唐津(095)、京焼、土錘(096)、木製品では漆器(08・09)、円形板(10・12・13)、柄杓(11)、櫛(14)、折敷(15・16)、桶側板(17)、板状木製品(18)、下駄(19)、杭がみられ、金属製品では鉄滓(06)、右製品では砥石(05)が認められる。近世の溝と考えられる。

SD21 (図面229・239)：調査区中央部より東に延びる直線の溝で調査区外に続く。SD27・SD24と併走している。長さ24.4m、最大幅0.9m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰色砂質土層の単層である。出土遺物は黒色土器(088)、土師器、伊万里が認められる。近世の溝と考えられる。

SD22 (図面229・239)：調査区の北東側に延びる不連続的な溝であり、SD23と併走している。北西端は消失している。確認できる長さは32.8m、最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。

SD23 (図面229・239)：SD22に併走して広がる不連続的な溝である。両端とも消失している小溝が長く列をなしている。確認できる長さは33.6m、最大幅0.6m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は各セクションとも灰オリーブ色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器、越中瀬戸が認められる。近世の溝と考えられる。

SD24 (図面229・239)：SD21に併走して東西に延びる直線の溝である。両端とも消失している。長さ14.0m、最大幅1.4m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黄灰色砂粘質土層の単層である。出土遺物は土師器が認められる。

SD25 (図面228・239)：SD28、SD29と併走し調査区を北西から南東に縦断する直線の溝である。途中SD20に切られるが引き続き、調査区外に広がっている。長さ47.8m、最大幅1.7m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黄灰色砂質土層のみの単層である。出土遺物は須恵器、土師器(089)、中世上師器(090)、越中瀬戸香炉(091)、伊万里、金属製品では鉄滓(01・05)が認められる。近世の溝と考えられる。

SD26 (図面229・239)：北東から南西に軽い円弧を描いて延びる溝である。両端は消失している。長さ11.5m、最大幅1.0m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。

SD27 (図面229・239)：SD20の北側を東西方向に併走し中央部分で合流している不整形の溝である。長さ12.9m、最大幅1.3m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は第1層：灰白色砂質土層、第2層：黄灰色砂粘質土層からなる。出土遺物は須恵器(087)、土師器が認められる。

SD28 (図面228・239)：SD25・SD29に併走して調査区を北西から南東に縦断する直線の溝である。長さ47.7m、最大幅2.9m、最大深0.42mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰色砂質土層を基調とする。出土遺物は須恵器(080・099・111)、黒色土器(081～083)、中世土師器、瀬戸美濃、

八尾、越前、越中瀬戸(084~086)、伊万里、唐津がみられ、木製品では漆器(01~03)、下駄(04)、円形板(05)、折敷(06)、板状木製品(07)が認められる。近世の溝と考えられる。

SD29 (図面228・239) : SD25・SD28に併走して調査区を北西から南東に縦断する直線の溝である。長さ39.9m、最大幅1.8m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は緑灰色砂粘質土層の単層である。出土遺物は須恵器(073~076・107)、土師器(079)、唐津、土師(077)、土製品のフイゴ羽口(078)がみられ、木製品では漆器(20・21)、下駄(22)、加工板、金属製品では鉄鍔(04)が認められる。近世の溝と考えられる。

SD30 (図面230・241) : 調査区を東西に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.7m、最大幅0.8m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈する。覆土はオリーブ褐色砂質土層の単層である。出土遺物は認められない。

SD31 (図面231・242) : 調査区を北東から南西に延びる直線の溝である。確認できる長さは1.0m、最大幅0.6m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は土師器が認められる。

SD32 (図面231・242) : 東側調査区外からSK87を切り込みながら西に延びて開放している直線の溝である。確認できる長さは1.0m、最大幅0.5m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層である。出土遺物は土師器が認められる。

SD33 (図面231・242) : 調査区を南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.2m、最大幅0.3m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層である。出土遺物は土師器が認められる。

SD34 (図面231・242) : SD33に併走し南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.0m、最大幅0.7m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器、土師(207)が認められる。

SD35 (図面231・242) : 調査区を南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.2m、最大幅0.5m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は黒褐色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD36 (図面231・242) : SD35に併走する直線の溝である。確認できる長さは1.3m、最大幅0.8m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：第1層に地山が混ざる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD37 (図面231・242) : SD36に併走する直線の溝である。確認できる長さは1.4m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：第1層に地山が混ざる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD38 (図面231・242) : 調査区を東西に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.2m、最大幅1.1m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈する。覆土は暗灰黄色砂質土層の単層である。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD39 (図面231・242) : 調査区を南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.5m、最大幅0.6m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土はオリーブ褐色砂質土層の単層である。出土遺物は珠洲が認められる。

SD40 (図面231・242) : 調査区を南北に横断する直線の溝である。確認できる長さは1.2m、最大幅4.1m、最大深0.52mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は灰オリーブ色~灰色砂質土層を基

調とする。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD41 (図面231・242)：調査区を横断する直線の溝である。SI03を切る。確認できる長さは1.2m、最大幅1.3m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈する。覆土は第1層：黒褐色砂質土層、第2層：黄灰色砂質土層からなる。出土遺物は土師器が認められる。

その他の遺構

SX01 (図面229・238)：SX01からSX04は集石遺構で掘り方などは確認されていない。性格は不明である。10～20cmの礫が長さ2.9m、最大幅1.1mで集石している。出土遺物は須恵器がある。

SX02 (図面229・238)：集石遺構である。平面形態は楕円形で、長さ2.9m、短径1.1mの遺構に傘大の礫が集石している。出土遺物は認められない。

SX03 (図面229・238)：集石遺構である。10～20cmの礫が長さ0.56m、幅0.5mの範囲で集石している。出土遺物は認められない。

SX04 (図面229・238)：集石遺構である。10～25cmの礫が長さ3.75m、最大幅0.9mで確認される。遺物は須恵器(060～064)、土師器(063)、金属製品では鉄滓(03)、石製品では磨石(01)が出土している。

SX05 (図面230・241)：10～25cmの礫で構成される集石遺構である。南北を調査区の壁に切られるため規模は不明。遺物は須恵器(166～168)、土師器が出土している。

SX06 (図面231・242)：南側が調査区外となる集石遺構である。傘大～人頭大の礫が集中して確認された。覆土は黒褐色砂質土層を基調とする。谷の落ち際にあることからゴミ捨て場的な場所や周囲からの流れ込みなどが考えられる。遺物は須恵器(208～223・261・278・280)、土師器(224～260)、珠洲、中世土師器、石製品では棒状石製品(03)、砥石(04)、叩き石が認められる。

3 遺物

遺物の記載については、中名V・VI遺跡と同様に、まず土器・陶磁器類についてA地区、B地区、D地区、E地区の各地区ごとに記述を行い、次に、木製品、金属製品、石製品の順に記述を進める。砂子田I遺跡の調査では古代の遺物を中心に出土している。古代の遺物では8世紀から10世紀代のものが主体で、若干6世紀後半～7世紀に遡るものも見受けられた。出土遺物の種類別で見ると土器類が最も多く、次いで木製品、石製品、金属製品がつづく。

A 土器・陶磁器 (図面379～386)

遺跡全体でとらえた場合に須恵器、土師器などの古代の遺物で多く占められている。古代の遺物には須恵器、土師器、黒色土器、赤彩土器などが出土している。中・近世の遺物としては中世土師器皿、珠洲、八尾、中国製青磁、越中瀬戸、伊万里、唐津、瓦質土器などがみられる。以下、各地区ごとに記述を行う。

(1) A地区：(図面379-001～036)

〈溝〉

SD06 (図面379-005～007)：005～007は須恵器で、005・007は杯A、006は甕である。005・007は平坦な底部から屈曲し、体部は浅く開き、端部は丸くおさめる。分量は005で口径11.6cm、器高3.3cm、

007で口径14.1cm、器高3.3cmである。006は口縁部が「く」字状に屈曲し、端部は水平を早す。外面はタタキ後カキメ調整で、内面は同心円状の当具痕が残る。

SD07 (図面379-001~004) : 001・003は須恵器の蓋で扁平な天井部に、口縁端部は短く下方に折り曲げる。天井部外面は回転ヘラケズリが施される。001は復元口径12.4cmで、003は復元口径14.0cmである。002は須恵器杯Bで、平坦な底部から稜を持って屈曲し、体部はやや外反気味に直線的である。端部は丸くおさめる。底部には「ハ」字状に開く角状の高台を有し、高台内には「大福」と墨書されている。法量は口径10.8cm、器高4.1cmである。004は土師器の甕で、底部破片である。

〈包含層〉 (図面379-008~036)

008~014は須恵器の蓋で、008~011・013は天井部が扁平ないしはやや丸みを帯び、口縁端部を短く垂下させる。008・009・013は回転ヘラケズリされた天井部に擬宝珠状のつまみを有する。013は法量が口径12.5cm、器高2.9cmである。内面には「朔万呂」と墨書きされている。012・014は扁平な天井部に口縁端部をやや丸くおさめる。014の内面には墨痕がみられる。015~019は須恵器杯Aで、概ね平坦な底部から、浅く開く体部を有する。口縁端部はわずかに外反する。019の底部外面には墨書の一部が確認され、判読し難いが「大福」の可能性はある。法量は口径約12.0cm前後、器高は約3.0~3.5cmである。020~025は須恵器杯Bで、平坦な底部から逆「ハ」字状に開く体部を有する。底部には角高台を有する。025の高台内には判読できないが墨書されている。026は須恵器の長頸壺で、口縁部破片である。頸部には2条の沈線が巡る。027~029は土師器の甕で、027は小型甕である。口縁部の形態をみると、027・028は端部を面取して方形に仕上げつつ、上端をわずかに引き上げ、029は肥厚した端部をやや丸くおさめている。030~036は土釜で、概ね樽型を呈する。法量は030で50.9g、032で24.6g、033で41.3g、034で26.8gである。

(2) B地区: (図面379~383-037~112・114~130・132~165)

〈竅穴住居〉

SI01 (図面380-043・044) : 043は須恵器の杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。底部は回転ヘラケリのちナデ調整で、法量は口径12.0cm、器高3.2cmである。044は土師器の甕で、口縁端部は肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取して方形に仕上げ、さらに上端部をわずかに引き上げられる。復元口径13.0cmである。

SI02 (図面379-037~042) : 037は土師器の高杯で、カマドの支脚に転用されていたものである。杯部は浅く内湾し、口縁部は強く外反する。内外面はヘラミガキで、内面は黒色化されている。脚部は外面をヘラミガキを施す。法量は口径14.6cm、器高9.9cmである。038・039・041は土師器の杯で、内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部はわずかに外反する。内外面はヘラミガキ調整で、内面を黒色処理を施す。038の復元口径は14.3cmである。040・042は土師器の甕で、体部から口縁部が弱い「く」字状をもって立ち上がり、端部は丸くおさめる。内外面はハケメ調整である。

〈土坑〉

SK26 (図面380-056) : 056は土師器の杯で、内外面をヘラミガキ調整である。

SK36 (図面380-055) : 055は須恵器壺の底部破片で、「ハ」字状に開く高台を有する。

SK37 (図面380-057) : 057は土師器の甕で口縁部と肩部の境界があまり明瞭でなく、わずかに短く外反する口縁部を有する。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメ調整である。復元口径は17.0cmである。

SK47 (図面380-054) : 054は須恵器の蓋で扁平な天井部に、口縁端部は短く下方に折り曲げる。天井部外面は回転ヘラケズリが施され、擬宝珠状のつまみを有する。法量は口径14.7cm、器高2.8cm。

SK61 (図面380-045~053) : 045は須恵器の杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。口縁端部はやや鋭く仕上げる。法量は口径12.4cm、器高3.1cmである。046~053は土師器の甕である。046・047は口縁部と肩部の境界があまり明瞭でなく、わずかに短く外反する口縁部を有する。内外面はハケメ調整であり、復元口径は約15.0cm前後である。048~051は概ね、肩部との境で稜をもって外傾し、端部を丸くおさめる。052は肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取し、上端部をわずかに引き上げる。復元口径24.6cmである。053は肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取りして方形に仕上げる。体部外面はケズリを施す。復元口径18.4cmである。

SK70 (図面380-065・066) : 065は須恵器の口縁部破片で、肩部から口縁部にかけては「く」字状に屈曲し、外傾しながら立ち上がる。体部外面に平行タキ調整が残る復元口径34.8cmである。066は須恵器の甕で、外面はタキ調整のちカキメ、内面は同心円状の当具痕がみられる。

SK77 (図面380-058・059) : 058は黒色土器碗の口縁部破片で、内外面をヘラミガキ調整を施す。059は土甕で、約1/3程度残存している。形態は樽型を呈す。法量は52.1gである。

〈溝〉

SD09 (図面381-068~072) : 068は須恵器の蓋で、天井部が扁平で、口縁端部は下方に短く折り曲げる。069は須恵器の杯Bで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。底部には角高台を有する。法量は口径13.8cm、器高3.9cmである。070~072は土師器の甕で、070・071は体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲し、口縁端部は方形を呈する。072は底部が丸底を呈する。

SD19 (図面380-067) : 067は製塩土器の体部破片で、形態は大きく外傾する体部を有する。内外面に指頭圧痕が残る。

SD20 (図面381-092~096) : 092~094は須恵器である。092は蓋の破片で、口縁端部は下方に短く折り曲げる。093・094は杯Aで、093はやや尖り気味の底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。094は平坦な底部を有し、体部がわずかに外反しながら立ち上がる。法量は093で口径12.3cm、器高3.8cm、094で口径13.4cm、器高3.4cmである。095は唐津の鉢で、口縁部は強く外反する。内外面に刷毛目文様が施される。096は約1/2程度残存する上鉢で、樽型を呈する。法量は13.8gを量る。

SD21 (図面381-088) : 088は黒色土器碗の体部破片である。内外面はヘラミガキを施す。

SD25 (図面381-089~091) : 089は土師器の甕で、口縁部は肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取し、方形を呈す。090は土師器の皿で、森分類のZ9類に比定される。器壁はやや厚めで、幅広い口縁部が大きく外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。後I~II期に相当する。091は越中瀬戸の灰釉香炉で、底部付近の外面は回転ヘラケズリである。内面は無釉で、底部付近は露胎である。復元口径10.7cmである。

SD27 (図面381-087) : 087は須恵器の杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。底部外面には「二」のヘラ記号が施される。法量は口径11.5cm、器高3.0cmである。

SD28 (図面381-080~086) : 080は須恵器の短頸壺で、球胴状の体部に、やや内傾気味に短く立ち上がる口縁部を有する。体部外面はカキメ調整で、底部付近はヘラケズリを施す。法量は口径12.0cm、器高20.7cmである。081~083は黒色土器の碗で、081・082は内面を黒色処理し、内外面をヘラミガキにより仕上げる。084~086は越中瀬戸である。084・085は丸皿で、084には灰釉がかかり、085には鉄釉がかかる。085の内面見込みには印花文が施される。086は小杯とみられるものの底部破片で、

底部は回転糸切りによる切り離しである。内外面には鉄釉がかかり、底部付近は露胎である。

SD29 (図面381・382-073~079・107) : 073~076は須恵器である。073は蓋で、天井部が扁平で、口縁端部は下方に短く折り曲げる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。074はほぼ完形の杯Aで、平坦気味の底部から緩やかに屈曲し、体部が短くわずかに外反しながら開く。法量は口径11.5cm、器高3.5cmである。075・076は杯Bで、075は平坦気味の底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。076は体部がやや外反しながら開く。底部は角高台を有する。077は上錘の破片で、樽型を呈すると考えられる。078は土製品でフイゴ羽口である。079は土師器の鍋で、口縁部と肩部との境で大きく外傾し、端部を丸くおさめる。体部内外面に粗いハケメを施す。復元口径33.3cmである。107は須恵器の杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短くわずかに外反しながら開く。

〈その他の遺構〉

SX04 (図面380-060~064) : 060~062・064は須恵器である。060は杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。底部は回転ヘラキリのちナデ調整で、復元口径13.4cmである。061・062は杯Bで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。底部は「ハ」字状に踏ん張る高台を有する。061の法量は口径13.5cm、器高3.8cmである。064は甕の底部破片で、外面にタタキ調整が残る。063は土師器の甕で、肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取して方形に仕上げる。体部外面にヘラケズリを施す。復元口径20.0cmである。

〈包含層〉 (図面382・383-097~106・108~112・114~130・132~162・164・165)

100~106・108~110・112・114~125は須恵器である。100~104は蓋で、100~102は天井部が扁平で、口縁端部は下方に短く折り曲げる。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。101はやや器高のあるもの。103・104は笠型の天井部に、端部はやや丸味をもって仕上げている。105・106・108~110は杯Aで、105・106・109・110は平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾する。110は体部内面に「×」のヘラ記号が描かれている。108はやや尖り気味の底部から体部が緩やかに大きく外傾しながら立ち上がる。114~119は杯Bで、概ね平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が短く外傾しながら開く。底部は「ハ」字状に踏ん張る高台を有する。112・120・121・123は壺である。120は長頸で、2条の沈線が巡り、112・121は短頸で、112の外面には波状文を施す。123は底部破片で角状の高台を有する。122・124・125は甕で、122・124は口縁端部を肥厚させ水平にし、125は端部を内湾気味につまみ上げて、外面には1条の沈線状に仕上げている。126~144は土師器である。126~128は杯で、底部に回転糸切り痕が残り、わずかに内湾しながら立ち上がる。129・130は内黒の黒色土器碗である。129は浅く外傾する体部から口縁部が外反する。内外面にヘラミガキを施す。132~142は甕で、133・139・140は小型のものである。132は口縁部が直立し、体部と口縁部との境が明瞭でない。内外面は粗いハケメ調整である。133は肩部から稜をもって外傾し、口縁端部は丸くおさめる。復元口径13.6cmである。134はやや丸味をもつ体部から、「く」字状に屈曲し、口縁端部は丸くおさめる。135~138は肩部との境で稜をもって外傾し、端部を面取して方形に仕上げる。139~141は肩部との境で稜をもって外傾し、口縁部の上端をわずかに引き上げられる。142は肩部との境で稜をもって外傾し、口縁端部が内側に折り返され、丸く形成される。143・144は鍋で、143は体部との境で稜をもって外傾し、端部を面取して方形に仕上げる。145~150は上錘で、概ね樽型を呈するとみられる。法量は残存の良好な145で、長さ6.2cm、幅3.5cm、重量71.6gである。151~153は土師器の皿で、151は、径の小さな底部から体部・口縁部が「S」字状に屈曲するが、屈曲の度合いは弱く直線的で、端部のつまみあげも弱い。森編年のD2類、後Ⅱ期に相当する。152は丸底ないしは

丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森編年のB1類、後I期に相当する。153は、底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は短く強く外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。森編年のZ5類、後I期に相当する。154～156は珠洲で、154は甕、155・156は播鉢である。154は口縁部の小破片で、「く」字状に屈曲する短頸を呈す。吉岡編年のIV3期に相当する。155・156は直線的な体部に、幅の広い水平な口縁部端面を有し、僅かに外端が側方へ突出する。吉岡編年のIV2期に相当する。157は龍泉窯系青磁碗で、外面に蓮弁文が巡る。太宰府分類のIIb類に相当する。158～161・164は越中瀬戸である。158・159は皿で、底部に削り出し高台を有する。158の高台内には花押しとみられる墨書が施される。160は香炉とみられる口縁部破片で、球胴状の体部に直立気味の口縁部を有する。内外面に鉄釉が施される。復元口径11.7cmである。161は内外面に錆釉が施され、内面の卸目は9条一単位である。164は口縁部が玉縁状を呈する播鉢である。165は瓦質土器の火鉢で、浅鉢型を呈するとみられる。外面に一条の凸線文が巡る。

(3) D地区：(図面383・384-131・166～188)

〈土坑〉

SK81 (図面383-173)：173は須恵器の長頸壺とみられる口縁部破片である。復元口径15.0cmである。

SK82 (図面383-171・172)：171・172は赤彩された土師器の杯で、口縁端部を丸くおさめる。

SK83 (図面383-174)：174は土師器の小型甕で、口縁端部は肥厚した端部が丸味をもって内屈する。

SK85 (図面383-169)：169は須恵器の杯Aで、平坦な底部からやや緩やかに屈曲し、体部は外傾しながら立ち上がる。復元口径11.9cmである。

SK86 (図面383-170)：170は土師器の杯で、口縁部がわずかに外反する。

〈その他の遺構〉

SX05 (図面383-166～168)：166は須恵器の蓋の破片で、口縁端部は下方に短く折り曲げる。167は須恵器の杯Aで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部は外傾しながら立ち上がる。168は須恵器の広口壺で、肩部から頸部にかけて「く」字状に強く屈曲し、口縁部は方形に面取る。

〈包含層〉 (図面382・384-131・175～188)

175～180は須恵器である。175・176は扁平な天井部に、口縁端部は下方に短く折り曲げる。175は擬宝珠状のつまみを有する。177は杯Aで、底部から体部にかけては緩やかに屈曲する。口縁端部は丸くおさめる。178は有高台の杯Bで、平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部が外傾しながら立ち上がる。179・180は壺の底部である。179は平坦な底部から、外傾しながら直線的にのびる体部を有する。180は丸底気味の底部に「ハ」字状の角高台を有する。131は黒色土器碗で回転糸切りの底部から体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。分量は復元口径は17.2cm、器高は5.8cmである。181～183は土師器の杯である。181は底部が回転糸切り痕が残り、内外面に赤彩が施される。182はやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。183は内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部はわずかに外反する。185は赤彩されている有高台杯で、外底部には回転糸切り痕が残る。184は有高台の皿である。186・187は土鍾で、186は樽型を呈すると考えられる。188は龍泉窯系青磁碗の体部破片で、外面に蓮弁文を有する。大宰府分類のII-b類(旧I-5-b類)に相当する。

(4) E地区：(図面384～386-113・189～297)

〈竪穴住居〉

SI03 (図面384-189～204)：189～192は須恵器である。189は蓋で、口縁端部を下方に短く折り曲げる。190は杯で、体部が外傾しながら浅く開く。191は皿で、体部外面に「柴」?と墨書されている。192は甕の口縁部破片で、外面にクシ状工具による波状文が施される。193～196は土師器の杯で、196は内外面にヘラミガキを暗文風に施されている。195・197～201は黒色土師器碗で、200は器高が低く、口縁部はやや外反する。法量は口径16.8cm、器高4.25cmである。202は土師器碗の底部破片で、底部外面には高い高台を有する。203は土師器の鍋で、口縁端部は内側に折り返され、丸く仕上げられる。204は土師器の甕で、肩部との境を稜をもって外傾し、端部をややシャープに仕上げる。

〈土坑〉

SK88 (図面384-205・206)：205は須恵器の蓋で、扁平な天井部に、口縁端部は下方に短く折り曲げる。天井部外面の約1/3をややヘラケズリし、擬宝珠状のつまみを有する。法量は口径16.9cm、器高3.1cmである。206は須恵器の甕で、肩部に3条の沈線が巡る。

〈溝〉

SD34 (図面384-207)：207は土師器の小破片で、全体の形態は不明である。

〈その他の遺構〉

SX06 (図面384～386-208～261・278・280)：208～223・261・278・280は須恵器である。208～210は蓋で、208・210はやや丸味をもつ天井部に、口縁端部は内側に折り返され、丸く仕上げられている。208は完形品で、法量は口径11.8cm、器高2.4cmである。209は天井部外面に回転糸切り痕が残る。211・212・214・215は杯で、211は杯A、214・215は杯Bである。211は体部が直線的に外傾し、212は底部に回転糸切り痕が残る。214は平坦な底部から稜をもって屈曲し、深い体部が大きく開く。高台は角高台で、底部の端に付く。213は皿の底部破片で、底面に回転糸切り痕がみられる。216は甕の口縁部破片で、体部外面にはタタキを施す。217～219・278・280は蓋で、217は体部破片、218・278は双耳壺の耳部破片、219は底部破片である。220は横瓶の体部破片で、体部外面はタタキ後、一部カキメ調整である。280は肩部から稜をもって外傾し、口縁端部は方形に面取る。221～223は甕で、口縁端部は水平に仕上げる。222は外面はタタキ後一部カキメを施し、内面は同心円状の当具痕が残る。復元口径25.6cmである。261は蓋で、口縁部内側にかえりを有する。224～260は土師器である。224～245は杯で、224～230・232～234・243は口縁部がわずかに外反し、231・235～242・244・245は口縁部が外反せず、端部を丸くおさめる。241～245は内外面に赤彩が施され、242の体部外面には墨痕がみられる。法量は口径12.0～13.0cmのものが多いようである。246～251は皿で、底部外面には回転糸切り痕が残る、高い高台を有する。法量は口径が約12.0cm前後である。252～256は小型甕で、252～254は口縁端部を丸く仕上げ、255・256は端部を内屈し、内側に段を有する。257～260は鍋で、口縁部は緩やかに外反し、端部が内側に折り返され、丸く成形される。

〈包含層〉 (図面386-113・262～277・279・281～297)

113・262～277・279は須恵器である。262・263は蓋の口縁部破片で、天井部と口縁部との境は短く稜をもつ。MT15形式併行と考えられる。264・265は甕の口縁部破片で、口縁部の内側に短いかえりを有する。266～273はやや丸味をもつ天井部に、口縁端部を丸くおさめる。274～277は杯で、274～276が杯A、277が杯Bである。113は体部が深く器高のあるもの。274～276は平坦な底部から緩やかに屈曲し、体部は浅く開く。277の底部には「ハ」字状に陥り張る高台を有する。279は甕の底

部で、底部付近にケズリ、体部にカキメを施す。281～283は土師器の杯で、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り痕が残る。284・285は内黒の黒色土器碗で、内面にヘラミガキを施す。285の体部外面には墨書されているが、判読できない。286は土師器甕の口縁部破片で、端部は方形を呈し、上端部を少し引き上げる。287・288は珠洲播鉢である。287は外端が突き出る口縁部で、端面はわずかに内傾し波状文が施される。288は幅の広い口縁部端面を有し、僅かに外端が側方へ突出する。289・290は越中瀬戸の灰釉丸皿で、289の体部内面には放射状に丸彫りされている。291は越中瀬戸の播鉢で、口縁部外側に縁帯が形成され、端部はやや肥厚し、上端部を引き上げる。内外面に錆釉がかかる。292は唐津の播鉢で、口縁部は水平に外側へ引き出す。内外面に鉄釉がかかる。293～297は土鍾で、293・294は樽型を呈する。法量は293で長さ6.2cm、幅3.2cm、重量64.5g、294で長さ5.5cm、幅2.2cm、重量21.53gである。

B 木製品 (図面387・388)

砂子田I遺跡の調査では数は少ないものの木製品の出土もみられる。これらの木製品は、B地区の近世の溝から多く出土しているため、そのほとんどが近世に帰属するとみられる。漆器、下駄、桶板、曲物、栓など各種の木製品が出土している。以下に各遺構ごとに記述していく。

(1) B地区：(図面387・388-01～25)

〈溝〉

SD20 (図面387・388-08～19)：08は漆皿である。漆の剥離が激しく詳細は不明だが、外面は黒漆が残存しており、内外面に漆が塗られていたと考えられる。09は漆碗で、内外面赤漆を施す。樹種は08はトチノキ、09はケヤキである。10～13は円形板で容器の底板である。10は黒漆の塗膜が一部残存する。11は柄杓の底と考えられる。12の側面には釘孔が2カ所空けられており、複数の板を繋いで底板としたようである。13の側面には綴じ皮が残存しており、補修の痕跡と考えられる。また外縁に沿って一段削って平らに作り出しており、側板との結合部と考えられる。10～12はスギ、13はサワラである。14は横櫓の残欠である。背は直線的で、断面は楔形である。樹種はナシ亜科である。15・16は折敷の底板で、側面に沿って、木釘孔が15で3カ所、16で2カ所みられる。樹種は両者ともスギである。17は桶の側板である。表面に「北平やぎ」と焼き印が押される。樹種はスギである。18は板状木製品で、表面の一部に刃物による線状痕が認められる。樹種はスギである。19は差櫓下駄の合部である。平面形態は隅丸方形を呈し、裏面に歯の結合用の溝が施される。前壺は中央、後壺は後歯の前に穿たれる。樹種はケヤキである。

SD28 (図面387-01～07)：01～03は漆器碗である。01・03は外面黒漆、内面赤漆を施し、02は内外面赤漆を施す。漆の剥離が著しいが、02の外面に赤漆の痕跡があり、文様が描かれていたと考えられる。04は連歯下駄で平面形態は隅丸方形を呈す。後歯部分に補修用の円孔が5カ所並列に穿たれており、欠損後も歯を付け替えて利用したことが窺える。歯の縦断面は合形状を呈し、樹種はヒノキである。05は円形板で、容器の底板と考えられる。側面には木釘用の小孔が穿たれており、複数の板を繋いで底板としたようである。裏面には「島尻」の焼き印がみられる。樹種はスギである。06は折敷、07は板状木製品である。下端には円孔が穿たれる。樹種はスギである。

SD29 (図面388-20～22)：20・21は漆器碗である。20は漆の剥離が激しく、内面に一部赤漆が残存する。21は内外面黒漆を施す。樹種は両者ともブナ属である。22は連歯下駄で、後側が欠失する。

残存部から平面形態は小判形と考えられ、歯の摩耗は激しい。樹種はスギである。

〈包含層〉(図面388-23~25)

23・24は樽などの木栓で、樹種はスギである。25は漆器で器種は指物?である。長さ7.4cm、幅3.0cmの長方形で、側面および下端は破損しており、天井部および内・側面に赤漆が施される。樹種はヒノキである。

C 金属製品(図面389)

金属製品の出土は、土器・陶磁器類と比較して著しく少ない。金属製品のうち図示したものは19点で、すべて鉄滓である。以下に各遺構ごとに記述していく。

(1) B地区:(図面389-01・03~07・09・10・12)

〈溝〉

SD20(図面389-06):06は鉄滓である。重量は80.8gを量る。

SD25(図面389-01・05):01・05は鉄滓である。重量は01が39.2g、05が28.2gを量る。

SD29(図面389-04):04は鉄滓である。重量は131.9gを量る。

〈その他の遺構〉

SX04(図面389-03):03は鉄滓である。重量は122.2gを量る。

〈包含層〉(図面389-07・09・10・12)

07・09・10・12は全て鉄滓であり、重量は07で33.8g、09で34.1g、10で24.3g、12で187.1gをそれぞれ量る。12のみ、やや大型の鉄滓である。

(2) D地区:(図面389-02)

〈土坑〉

SK83(図面389-02):02は鉄滓である。重量は31.5gを量る。

(3) E地区:(図面389-08・11)

〈包含層〉(図面389-08・11)

08・11ともに鉄滓である。法量は08で長さ4.7cm、幅6.3cm、重さ87.5g、11で長さ4.4cm、幅5.5cm、重さ54.2gである。

D 石製品(図面389)

石製品の出土は、金属製品と同様に土器・陶磁器類と比較して著しく少ない。石製品のうち図示したものは8点である。以下に各遺構ごとに記述していく。

(1) B地区:(図面389-01・02・05・06)

〈溝〉

SD20(図面389-05):05は砥石の残欠である。長さ4.4cm、幅は2.5cmである。石材は凝灰岩である。

〈その他の遺構〉

SX04(図面389-01):01は円盤状の礫である。表面が磨かれて平坦面を形成する。長径13.0cm、短

径3.6cm、厚さ6.1cmで、石材は花崗閃緑岩である。

〈包含層〉 (図面389-02・06)

02は棒状の石製品である。石の下端には叩打時に形成されたような使用痕が認められる。長さ13.0cm、幅6.0cm、厚さ4.0cmを測り、叩石のように利用されたものであろうか。石材は砂岩である。06は砥石の残欠である。石材は砂質泥岩である。

(2) E地区：(図面389-03・04・07・08)

〈その他の遺構〉

SX06 (図面389-03・04)：03は棒状の凝灰岩である。短軸には打ち欠いた痕跡がみられる。04は角柱状の砥石である。長さ10.4cm、幅3.4cm、厚さ1.7cmを測る。石材は流紋岩である。

包含層 (図面389-07・08)

07・08は砥石の残欠である。07は角柱状を、08は板状を呈する。石材はどちらも凝灰岩である。

第IV章 結 語

今回報告した中名V・VI遺跡の調査からは、7世紀前半から古代、中世、近世の長期にわたる集落遺跡であることが判明した。最後に中名V・VI遺跡の調査で検出された建物遺構を中心に、各時期ごとの遺構変遷を示し、結語としたい。

1 古代

今回の調査区内で古代の遺構が検出されている地区は、中名V遺跡のA1・D1・D2・D3・D4地区と中名VI遺跡のA・B・C地区である。このうち、竪穴建物や掘立柱建物などの建物遺構が認められたのは、中名V遺跡A1地区で竪穴住居1棟、D1・D2・D4地区で竪穴住居4棟、掘立柱建物3棟、中名VI遺跡A地区で竪穴住居6棟、B地区で竪穴住居6棟であった。これらの中で7世紀前半に遡る竪穴住居は中名VI遺跡A地区を中心に検出されている。すでに報告されている中名I・V遺跡でも古代の集落が確認されており、8世紀～10世紀前半までの建物変遷（I～V期）が示されている。時期設定にあたっては、基本的にはこの中名I・V遺跡で示されている建物変遷を準用し、必要に応じて追加していくことにする。例えば、中名I・V遺跡では8世紀前半のI期をさかのぼる遺構は確認されていないため、今回検出された7世紀前半の時期や、8世紀初頭の竪穴建物の時期については、「7世紀前半段階」「古代I期直前段階」というように付け加えた。

(1) 7世紀前半段階[中名VI遺跡A地区-SI01・SI02・SI03・SI04・SI06]

中名VI遺跡の北側のA地区から竪穴住居5棟が確認されている。竪穴住居は方形を呈しており、規模は概ね一辺2.5～3.5mを測るが、SI06のみ一辺4.7mと規模が大きい。すべての竪穴住居には造り付けカマドを有し、SI01とSI06については袖石などの構築部材が残存する。SI03ではカマドの造り替えが確認されている。5棟のうちSI01・SI04・SI06の3棟には壁際に壁溝が巡る。出土遺物はSI01とSI06でやや多く、それ以外の竪穴住居は希薄である。切り合いや配置などから、SI01・SI03・SI06の3棟が併存し、SI02・SI04の2棟へ移るという2段階の変遷が想定される。

(2) 古代I期直前段階[中名VI遺跡A地区-SI05、中名VI遺跡B地区SI04・SI05]8世紀初頭

中名VI遺跡A地区から竪穴住居1棟、中名VI遺跡B地区北側から竪穴住居2棟で構成されている。A地区のSI05はカマドが東壁に造り付けられている。また、壁際には壁溝が巡り、貯蔵穴とみられる穴が確認されている。B地区の竪穴住居は、おそらく方形を呈していると考えられるが、規模などは調査区外へ広がるため詳細は不明である。SI04はカマドの遺存が良好で、北壁に構築されている。SI05のカマドは破壊されており、南壁に焼土と炭化物の分布が確認されている。

(3) 古代I・II期[中名VI遺跡B地区-SI01・SI02・SI03・SI06]8世紀前葉～中葉

中名VI遺跡B地区南側から竪穴住居4棟で構成されている。竪穴住居は調査区外へ広がるため、規模などは不明である。明瞭なカマドを有する竪穴住居にはSI03がある。配置や切り合いからSI01・SI06からSI02・SI03へと少なくとも2段階の変遷が想定される。出土遺物では須恵器杯蓋の天井部に回転へう削り調整がされていないことから、中名I・V遺跡B4地区の竪穴住居群よりやや後出すると考えられる。このため、B地区の竪穴住居4棟についてはI期よりやや時期が新しいII期が主体になると想定される。

(4) 古代III・IV期[中名V遺跡D1・D2・D4地区-SI02・SI03・SI04、SB01・SB02・SB03、

中名VI遺跡A地区-SK01・SK02]8世紀後葉～9世紀前葉

7 世紀前半段階

古代 I 期直前段階
古代 I・II 期

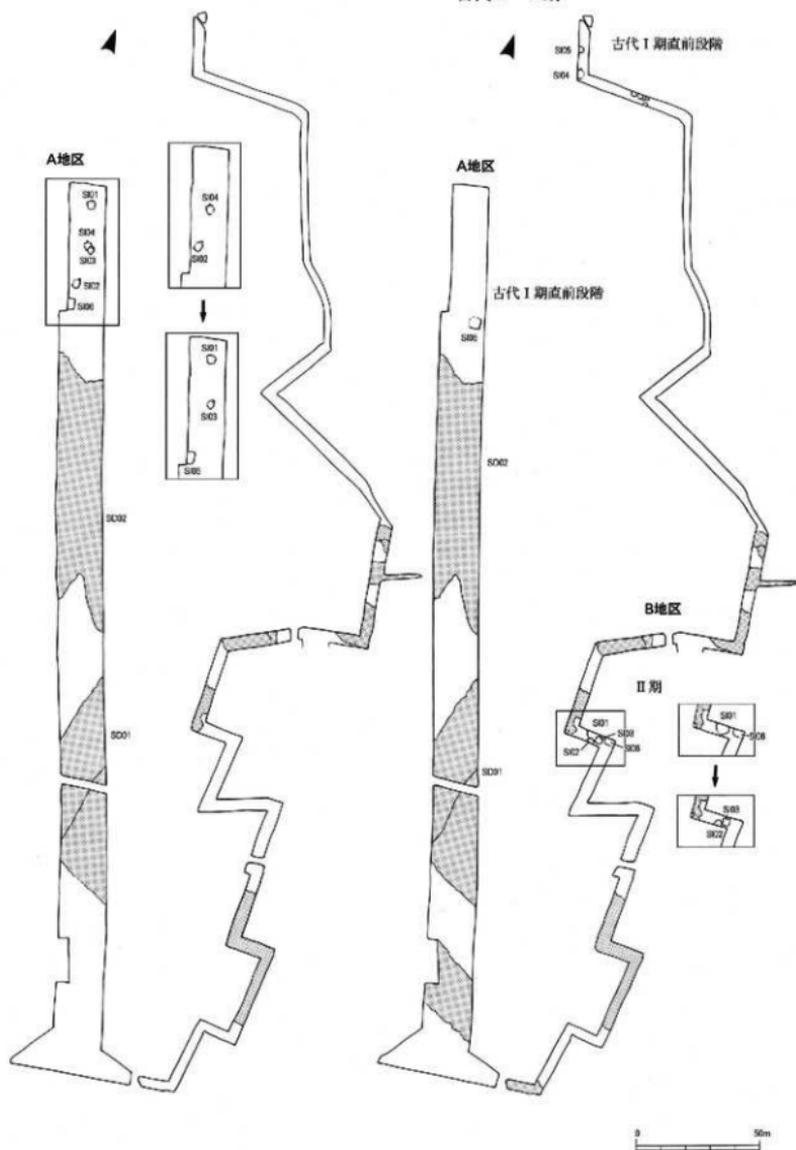


图 1 古代遺構変遷図 (1)

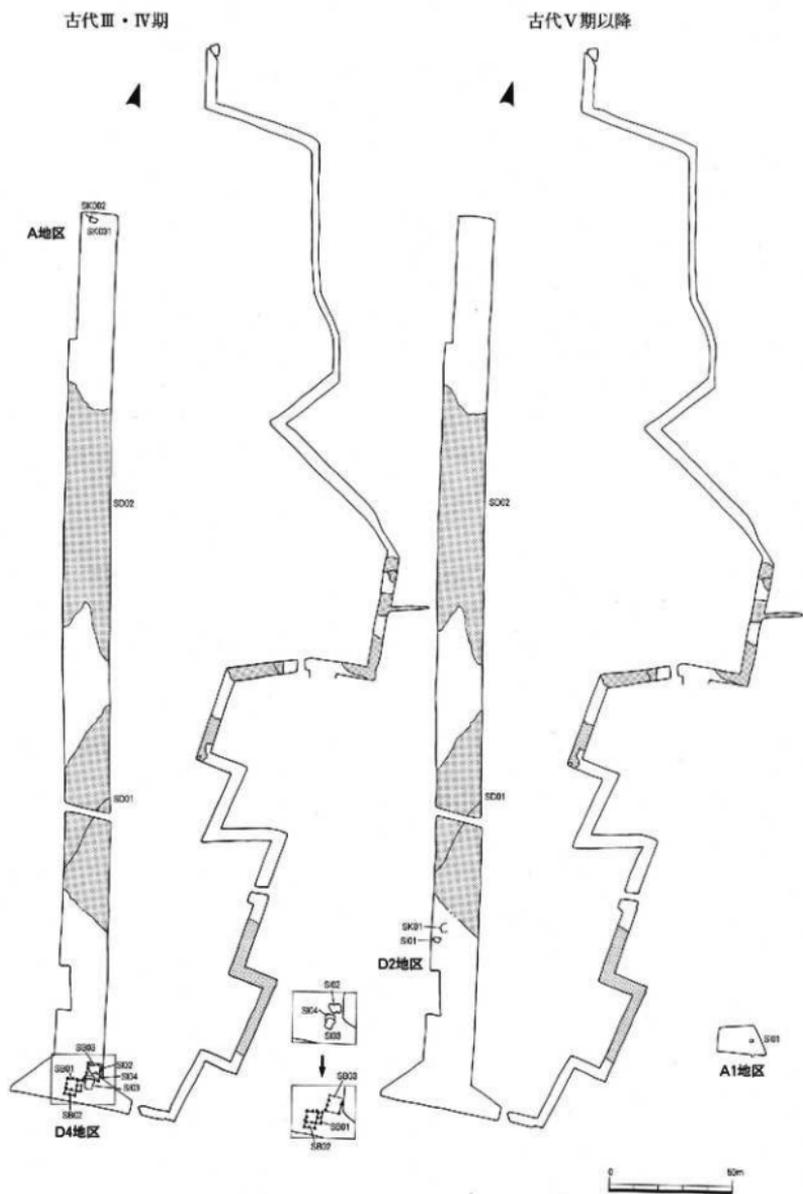


图2 古代遺構変遷図(2)

中名V遺跡D4地区の南側に位置する竪穴住居3棟と掘立柱建物3棟で構成されている。また、中名VI遺跡A地区北側から土坑2基が確認されており、状況から掘立柱建物の付属施設で、煮炊きなどの火処施設とみられ、調査区外に掘立柱建物の存在が推定される。この段階になると竪穴住居のみでなく掘立柱建物も出現する。竪穴住居の規模は概ね長辺3.7~4.3m、短辺3.0~3.2mであり、SI02のみやや規模が大きく長辺4.7mを測る。造り付けカマドが確認された竪穴住居はSI03で、造り替えが認められる。掘立柱建物の規模はSB01で2間×3間の東西棟、SB02で2間×3間の南北棟、SB03で1間×3間の南北棟ですべて側柱建物である。D4地区の竪穴住居3棟と掘立柱建物3棟は切り合いから前者が先行して構築されている。前者の竪穴住居3棟は切り合いや配置から更に2段階に分けられ、SI04はSI02・SI03の竪穴住居より古くなり、SI02・SI03の2棟は併存していたと想定される。また、後者の掘立柱建物群は切り合いや配置から、SB01がSB02とSB03より先行して構築されており、SB02とSB03は併存関係にあったと考えられる。

(5) 古代V期[中名V遺跡D1・D2・D4地区-SI01、中名V遺跡A1地区-SI01]9世紀後半以降

中名V遺跡D1・D2・D4地区南側の自然流路にほど近い位置に1棟、中名V遺跡A1地区から1棟が確認されている。D1・D2・D4地区のSI01は長方形を呈し、長辺4.1m、短辺2.3mの規模を有し、西壁にカマドが構築されている。中名V遺跡A1地区のSI01は方形を呈し、一辺2.3~3.0mを測る。この時期になると竪穴住居が散在的に分布し、掘立柱建物は確認されていない。

2 中近世

中世から近世の遺構は今回の調査で各地区から多数存在していることが明らかになっている。このような中で、確認されている掘立柱建物の棟数は大小様々な規模のものが75棟あり、井戸は47基、土坑、溝は多数確認されている。中でも建物遺構が最も集中しているのは中名VI遺跡のA地区で、掘立柱建物が35棟確認され、重複も著しい。次に中名V遺跡F2・F3地区の11棟、中名VI遺跡B・C地区の8棟、中名V遺跡E1・E2地区の7棟がつづく。他に中名V遺跡A1地区の4棟、中名V遺跡D1・D2・D4地区の3棟、中名V遺跡D3地区の4棟、中名V遺跡F1地区の2棟、中名V遺跡B5地区の1棟が確認されている。

これらの地区のうち、特に掘立柱建物が集中して検出された道路建設部分の中名VI遺跡A地区の遺構の主体となる時期については、出土遺物などから上限が12世紀代には遡らず、13世紀代中頃に降に形成されたとみられる。下限は16世紀代以降の遺構や遺物が希薄なことから、A地区周辺一帯の集落は15世紀末までの約250年ほどの存続期間ということができる。16世紀代以降は集落を形成する建物遺構がみられず、農業関連の遺構が検出されていることから、集落廃絶後は耕地化が急速に進んだと考えられる。このような傾向は中名V遺跡D1・D2・D4地区や中名VI遺跡B地区の中央部から北側にかけても類似した様相を呈している。これに対して、15世紀後半ないしは16世紀になって形成される建物群や、前段階から存続するもの本格的に建物群が展開し、近世にまで存続するような集落がみられる。このような様相を呈するのは、中名V遺跡D3地区や、E1・E2地区があてはまる。しかし、これらの建物群も近世後半には終焉し、耕地化により現在の景観にいたったと考えられる。

以下に各時期における集落の様相を遺構変遷図をもとに考えてみることにする。しかし、遺構変遷の主体となる建物遺構については、その帰属時期を示す遺物がほとんど含まれていない。また、遺構内に意図的ないしは一括投棄された例は皆無で、井戸や土坑から出土する遺物もほとんど無いか、あっても小破片で覆土に混じり込んでいる場合がほとんどである。さらに、遺構が密布するような場合、

切り合いが著しく、遺構相互の先後に関係なく、時期の前後した遺物が混入する例もみられる。したがって、今回示した遺構変遷はこれらのことに留意し、遺構の重複関係、建物や井戸の配置、出土遺物のある区画溝の年代観などから想定されている。なお、中近世の遺構変遷についても古代同様に中名Ⅰ・Ⅴ遺跡で示されている建物変遷（Ⅰ～Ⅴ期）を準用し、必要に応じて細分した。

- (1) Ⅰ・Ⅱ期[中名Ⅴ遺跡A1地区-SB03・SB04、F2・F3地区-SB10、中名Ⅵ遺跡A地区-SB02・SB06・SB07・SB17・SB18・SB21・SB26～SB28、B・C地区-SB01～SB08]13世紀中頃～14世紀前半

Ⅰ期は今回の調査では明確な建物遺構は確認されておらず、出土遺物も希薄である。

Ⅱ期は当該地域の建物群の成立時期にあたり、更にa・bの2小期に細分される。建物遺構の分布が顕著なのは中名Ⅵ遺跡A地区とB・C地区である。この時期にあたる建物遺構は、中名Ⅵ遺跡A地区でSB02・SB06・SB07・SB17・SB18・SB21・SB26～SB28の9棟、B・C地区でSB01～SB08の8棟、中名Ⅴ遺跡A1地区SB03・SB04の2棟、F2・F3地区でSB10の1棟で構成されている。中名Ⅴ遺跡D4地区からは建物遺構に伴っていたと考えられる木枠井戸2基や墓塚が確認されている。また、中名Ⅵ遺跡A地区SD02に伴う治水関連遺構であるSX01もこの時期に構築されたと考えられる。

Ⅱa期：中名Ⅵ遺跡A地区では、棟方向や配置から北西方向に軸をもつ掘立柱建物が4棟があり、SB07とSB18、SB21とSB27の組み合わせが考えられる。SB07とSB18は「L」字状に配置され、木枠井戸のSE03を伴う。SB21とSB27はやや離れて並列に配置されている。また、これらの建物群をSD10とSD18の溝によって区画されている。B・C地区では調査区中央部に単独で北西に主軸をもつSB01がある。また、調査区南側にはA地区の建物方位とやや異なる南北方向の掘立柱建物であるSB05とSB06があげられる。SB05とSB06には木枠井戸であるSE01を伴う。中名Ⅴ遺跡A1地区では、SD12とSD19の区画溝と棟方向が概ね一致するSB03・SB04がある。SB03・SB04の先後関係は不明だが、SD12とSD19は重複関係でSD12が後出するため、SD12の方位と一致しているSB03がSB04より古いと考えられる。なお、A1地区ではSB03・SB04以降、明確な建物遺構は後述するⅤ期まで確認されていない。

Ⅱb期：依然棟方向を北西方向にもつ建物群で構成されている。中名Ⅵ遺跡A地区の建物配置は基本的にⅡa期を踏襲しているが規模が大きくなる傾向にある。SB02・SB06・SB17の3棟とSB26・SB28の2棟の組み合わせが考えられる。SB06・SB17は「L」字状に配置され、更にSB02が加わる。このグループには木枠井戸のSE02を伴うとみられる。SB26・SB28は並列に配置されており、互いに近接する。B・C地区では調査区中央部にSB02・SB03がやや離れて「L」字状に配置されている。調査区南側のSB05とSB06は柵列SA02を挟んで近接している。B・C地区ではこのⅡb期以降、建物群は確認されていない。中名Ⅴ遺跡F2・F3地区では小規模ながらSB10が単独で調査区東端に位置している。

- (2) Ⅲ期[中名Ⅴ遺跡D1・D2・D4地区-SB04～SB06、D3地区-SB01～SB03、F1地区-SB01・SB02、F2・F3地区-SB01・SB03～SB09・SB11・SK01・SK15・SK33
中名Ⅵ遺跡A地区-SB01・SB03・SB04・SB09～SB12・SB14～SB16・SB19・SB20・SB22・SB23・SB25・SB29～SB35]14世紀中頃～15世紀末

Ⅲ期は当該地域一帯で建物群が本格的に展開する時期である。Ⅲ期はさらにa・b・cの3小期に細分される。最も遺構密集度の高い中名Ⅵ遺跡A地区については、Ⅲa期では建物

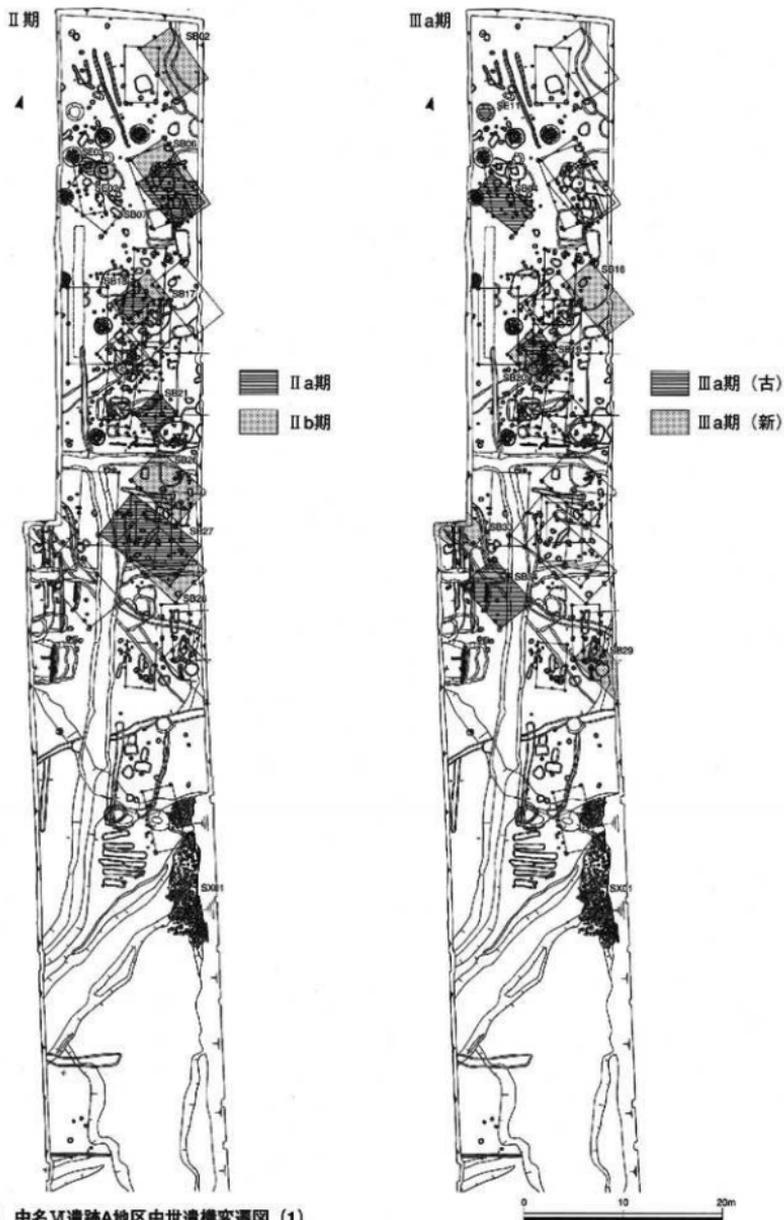


图3 中名VI遗址A地区中世遗构变迁图(1)

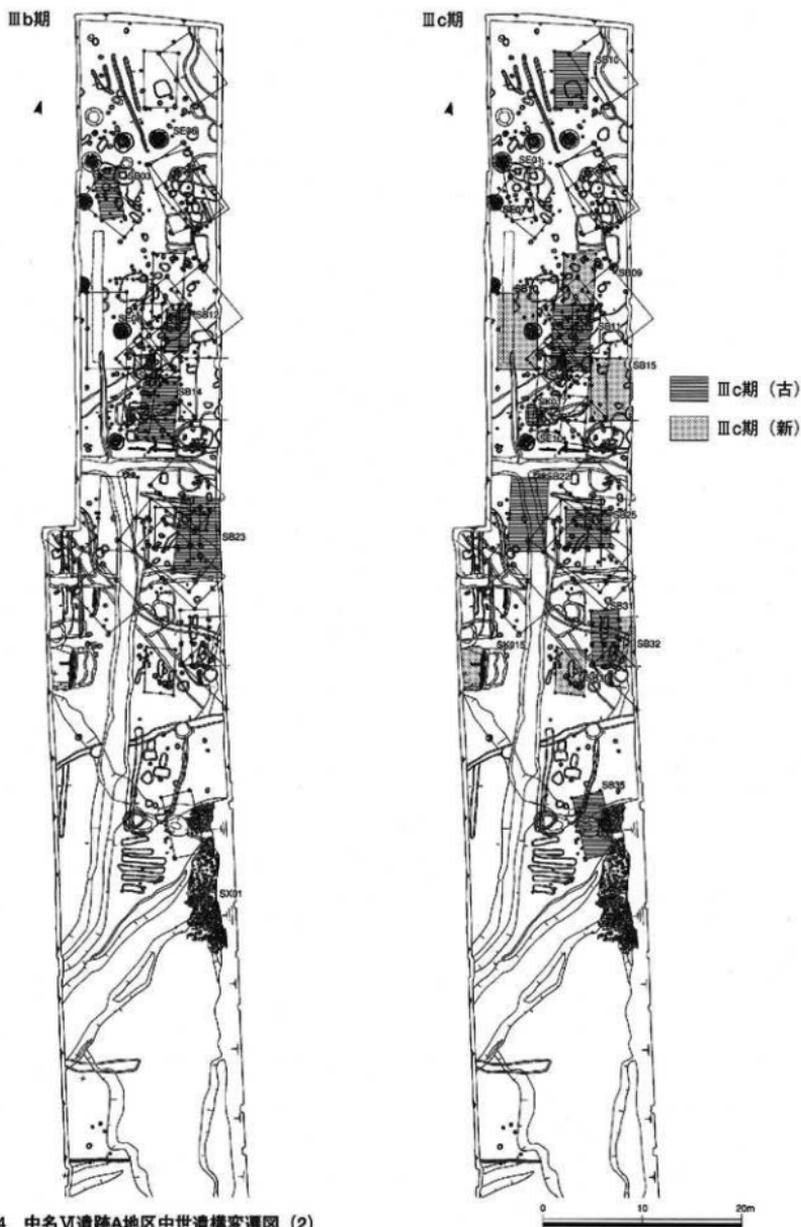


图4 中名VI遺跡A地区中世遺構変遷図 (2)

方位がⅡ期を踏襲して北西方位に軸をもつ掘立柱建物で構成されている。次のⅢb期は、調査区から明確な区画溝が確認されず、建物方位については北西方向から南北方向に移る過渡期に相当する。Ⅲc期になるとSD02は完全に埋没し、本格的に南北方向の区画溝が巡るようになる。

Ⅲa期：この時期の建物群は中名VI遺跡A地区でSB04・SB16・SB19・SB20・SB29・SB33・SB34の7棟、中名V遺跡D1・D2・D4地区のSB06の1棟、中名V遺跡F2・F3地区でSB04・SB05・SB08の3棟で構成されている。中名VI遺跡A地区については、建物方位はⅡ期と同様に北西方向である。SB04とSB19・SB16とSB20・SB29とSB33の組み合わせが考えられ、先後関係は重複関係や配置からSB04・SB19、SB34の3棟がSB16とSB20、SB29とSB33より先行するとみられる。SB04・SB19にはSE11が伴うと考えられる。SB16とSB20の配置は互いに並列で、SB29とSB33は縦列の配置をとる。中名V遺跡F2・F3地区ではSB04・SB05・SB08の3棟があり、建物方向や配置などからSB04とSB08の組み合わせが考えられる。SB04とSB05は互いに重なり合うことからSB05が後出するとみられる。SB05にはSE03が付随する。

Ⅲb期：Ⅲb期の建物群の棟方向はⅢa期までの東西方向から南北方向へ遷移する過渡的な時期と考えられる。全体的に建物群の規模や棟数で一旦は縮小化する傾向にある時期に相当する。中名VI遺跡A地区ではSB03・SB12・SB14・SB23の4棟、中名V遺跡D1・D2・D4地区でSB04・SB05の2棟、中名V遺跡D3地区でSB01・SB02の2棟、中名V遺跡F2・F3地区でSB02の1棟で構成される。中名VI遺跡A地区の建物群はSB12とSB14の組み合わせが考えられ、井戸のSE08を伴う。SB03の北東方向にはSE06が位置する。SB23は側柱建物でやや規模が大きくなる。区画溝はSD21が考えられるが、直線的でなく規模も小さい。この時期になるとSD02が最終段階となり、後述するⅢc期には完全に埋没する。中名V遺跡D1・D2・D4地区の建物群は総柱建物のSB04があり、棟方位からSB05との組み合わせが考えられる。配置からするとSE01を伴うとみられる。SB04の柱穴からは瀬戸美濃の折縁深皿が出土しており、藤澤編年の後期Ⅰに相当する。中名V遺跡D3地区はSB01があり、SE02が付随する。F2・F3地区はSB02の他に、建物に関連するとみられるSK15があり、SE06を伴うと考えられる。

Ⅲc期：この時期は棟方位が南北方向に移り、区画溝も建物方位に平行ないしは直交するように巡る。中名VI遺跡A地区や中名V遺跡F地区では建物遺構が密集する。中名VI遺跡A地区ではSB01・SB09～SB11・SB15・SB22・SB25・SB30～SB32・SB35の11棟、中名V遺跡D3地区でSB03の1棟、中名V遺跡F1地区でSB01・SB02の2棟、中名V遺跡F2・F3地区でSB01・SB03・SB06・SB07・SB09・SB11の6棟で構成されている。中名VI遺跡A地区の建物群はこのⅢc期で集落が最盛期を迎える。しかし、その後は急速に縮小し、Ⅳ期には建物群がみられなくなる。重複関係や配置から、SD16とSD17の溝で区切られた建物配置を示す古い段階と、SD11とSD12の溝で区切られた新しい段階の2段階の変遷がみられる。SD16とSD17で区切られた古い段階で構築された建物群は、SE01を付随するSB01、SB11と上部構造を有するとみられるSK017、並列配置を示すSB22とSB25、単独棟であるSB31とSB35がある。SD11とSD12で区切られた新段階の建物群は、SE10を伴うSB09とSB10とSB15の3棟、並列配置を示すSB30とSB32、半地下式建物と考えられるSK015で構成される。中名V遺

跡D3地区ではSE01を付随するSB03がある。中名V遺跡F2・F3地区でもこのⅢc期が最も本格的に建物が構築された時期である。重複関係や建物方位から2段階に分けられ、SB09と建物に関連しているとみられるSK01・SK33が構築される段階が古く、厨房施設的なSB07・SK05とSB01・SB03・SB06・SB11が構築された時期が新段階である。古段階のSB09には井戸のSE04と柵列のSA03が付随する。新段階では、SB01とSB07・SK05の組み合わせと、SB03とSB06の組み合わせが考えられ、SB03とSB06には柵列のSA03が付随する。また、SB11には井戸のSE05と柵列のSA01を伴う。

(3) IV期[中名V遺跡E1・E2地区-SB01・SB02、中名V遺跡B5地区-SB01・鳥居(SX03)]

16世紀初頭～17世紀末

IV期になると遺跡全体の建物の棟数や規模が急速に縮小される。中名VI遺跡A地区の建物群は終焉し、中名V遺跡の東端のE1・E2地区、B5地区に新たに建物が展開するようになる。E1・E2地区ではSD14・SD15に区画されたSB02に、井戸のSE03が伴う。B5地区ではSB01に井戸であるSE01が伴う。また、鳥居遺構のSX03もこの時期の所産と考えられる。

(4) V期[中名V遺跡A1地区-SB01・SB02、中名V遺跡B5地区-参道(SX01)・鳥居(SX02)、中名V遺跡D3地区-鍛冶関連遺構(SK31・SK34)・SB04・水周り遺構(SX01)、中名V遺跡E1・E2地区-SB03～SB07、中名V遺跡F2・F3地区-SK21・SK26・SK27・SK32・SK36]17世紀初頭以降

この時期になると遺構の分布はさらに希薄になり、また散在する傾向にある。一般に近世になると建物の構造自体が変化し、中世的な規格化された掘立柱建物の様式が衰退し、掘立柱建物のような形で遺構として確認されるものが少なくなる傾向にある。E1・E2地区はSB03～SB07の5棟で構成され、更に、整地跡とみられる溝群がある。区画溝の重複関係から、大きく2段階の遺構変遷が考えられ、SD18・SD30の古段階とSD10・SD20の新段階がある。古段階に伴うものとしては建物方位が区画溝とやや異なるものの、SB03・SB04・SB05・SB07と整地跡があげられる。新段階になると明確な掘立柱建物は確認されていないものの、井戸の配置から数棟の建物の存在が推定できる。A1地区ではSB01・SB02の2棟があり、SE01を伴う。中名V遺跡D3地区では中名VI遺跡B地区にまたがる鍛冶関連遺構(SK31・SK34)や水周り遺構(SX01)に伴うSB04があるものの、建物を示す遺構は散在的で、いずれも大規模な建物群を形成するには至っていないようである。中名V遺跡F2・F3地区では掘立柱建物は確認されていないものの建物に関連すると考えられる土坑群があり、数時期の変遷が考えられよう。他に、B5地区ではIV期で古い段階の鳥居がみられたが、V期にも熊野神社に通じる参道(SX01)と鳥居(SX02)が確認されている。建物以外では、中名VI遺跡A地区から中名V遺跡D1地区で耕作関連の遺構がこの時期になって本格的に分布するようになる。おそらく、Ⅲc期に展開していた建物群が解体し、急速に耕地化が進んだと考えられる。このことは、遺物の出土量Ⅲc期を境にほとんど出土しなくなるという傾向からも窺うことができる。

3 おわりに

以上、中名V・VI遺跡の調査成果から建物群を中心に遺構変遷を試みた。中名V・VI遺跡の古代集落の形成時期は7世紀前半に遡り、以後古代を通じて集落が営まれていたことが看

取ってきた。集落自体は時期によって動態的であることが窺え、古代を通じて同じ場所に集落を営む様相は見受けられない。7世紀前半段階では中名VI遺跡A地区で集落が展開し、次の8世紀前半の古代I期直前段階では同じくA地区とB地区の北側に営まれている。II期の段階では中名VI遺跡B地区の南側に移る。III・IV期の段階では中名V遺跡D4地区と中名VI遺跡A地区北端に遷移し、この時期になると掘立柱建物が出現する。V期には建物が縮小し、古代集落の終焉となる。集落はII期～IV期（8世紀～9世紀前半）で最盛期を迎え、集落経営が本格的に展開していたとみられる。これらのことは中名I・V遺跡の古代集落の様相と類似する。集落の経営基盤は基本的には農業に依存していたと考えられるが、この時期の耕作に関する遺構や痕跡は確認されおらず、花粉分析や珪藻分析などの自然科学分析からも耕作を裏付けるようなデータは得られていない。

古代集落から中世集落に移るまでの間は遺構や遺物がなく、集落変遷の様相が分からない空白部分である。本調査成果からは11世紀～12世紀の間の遺物や遺構は皆無と言ってよいほどである。中名VI遺跡A地区の一带の中世集落の形成期はII期（13世紀中頃）で、III期にかけて集落が営まれる。集落の最盛期はIII期で、その後は終焉し、耕地化が急速に進む。このような様相は道場I遺跡でもみられ、関連性が窺える。IV期になるとIII期までの中世集落の形態は解体され、規模を縮小しながら散在的に分布するようになる。このような中世集落の経営基盤については、農業に直接関連する遺構は確認されていないが、自然科学分析からは稲作や畑作を裏付けるデータが得られている。集落の南側には古代から中世まで流れていた自然流路があり、そこにはII期からIIIb期まで機能していたと考えられる治水関連遺構(SX01)が付設されている。水量調整の構築物と推定でき、このような大規模な構築物は生業に密着した遺構と考えられることから、農耕に関連する施設の可能性が指摘できよう。また、中名V遺跡D2地区の中世の溝から鉄製のヤスが出土しており、漁業により河川資源も積極的に利用されていたと考えられる。

最後に中名V・VI遺跡周辺は「婦中町史（通史編）」によると中世の婦負郡には徳大寺領荘園である宮川荘があり、荘城は現在の神通川の左岸の婦中町から右岸の富山市・大沢野町にまたがる広大な地域に所在していたとされている。宮川荘の初現は、文和3年（1354年）の足利義隆御判御書案（徳大寺文書）であり、この時点で既に荘園として成立していたと考えられる。中名V・VI遺跡では直接的に荘園との関連を窺わせる遺構や遺物は確認されていないものの、荘園の一角に位置していた可能性が高いと考えられる。

（引用・参考文献）

- 岩田隆「中世遺跡出土の下駄」（『朝倉氏遺跡資料館紀要』1985）
上山秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』Ⅱ2）1982
内山亜紀子「富山県の黒色七器」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所「紀要」第5号）2002
九州近世陶磁学会「九州陶磁の緒年」2000
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所「清水島II遺跡・中名II遺跡・持田I遺跡発掘調査報告」2002
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所「中名I・V遺跡発掘調査報告」2003
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所「道場I・II遺跡発掘調査報告」2004
菅原正明「西日本における瓦器生産の展開」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第19集）1989
中世十器研究会編「概説中世の土器・陶磁器」真臘社 1995
鎌方正樹「井戸の考古学」同成社 2003

- 藤澤良祐「古瀬戸中期様式の成立過程」(『東洋陶磁』第8号) 1982
- 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ-古瀬戸後期様式の編年-」(『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X) 1991
- 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅲ-古瀬戸前期様式の編年-」(『財』瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第3輯) 1995
- 藤澤良祐「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(『財』瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯) 2002
- 婦中町・婦中町史編纂委員会『婦中町史(通史編)』1996
- 婦中町教育委員会『興宮公害防除特別土地改良事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』1999
- 北陸中世土器研究会「中・近世の北陸」桂書房 1997
- 水野和夫「日本硯考-出土品を中心として-」(『考古学雑誌』第70巻第4号) 1985
- 向井由紀子・橋本慶子「著」(『ものと人間の文化史』102)法政大学出版会 2001
- 森隆「富山県の中世土器(資料編)」(財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第6号) 2003
- 森田勉「14~16世紀の白磁の形式分類と編年」(『貿易陶磁研究』No.2) 1982
- 八尾町教育委員会『富山県八尾町長山遺跡・京ヶ峰古窯跡緊急調査概要』1985
- 山本信夫「大宰府条坊跡Ⅱ」(『大宰府町の文化財』第7集)大宰府市教育委員会 1983
- 山本信夫「中世前期の貿易陶磁器-その分析視点-」(『原遺跡七郎丸1地区・口寺田遺跡』國東町教育委員会 1999
- 横山賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」(『九州歴史資料館研究論集』4) 1978
- 吉岡康輔『中世須恵器の研究』吉川弘文館 1994

I・II期

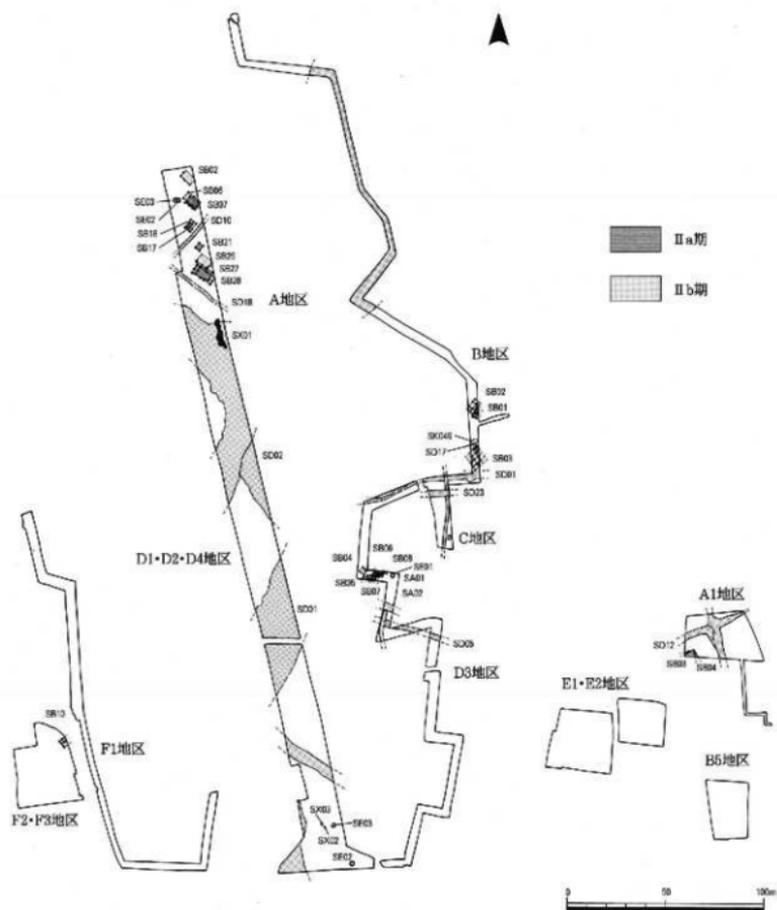


图5 中近世遺構変遷圖(1)

Ⅲa期

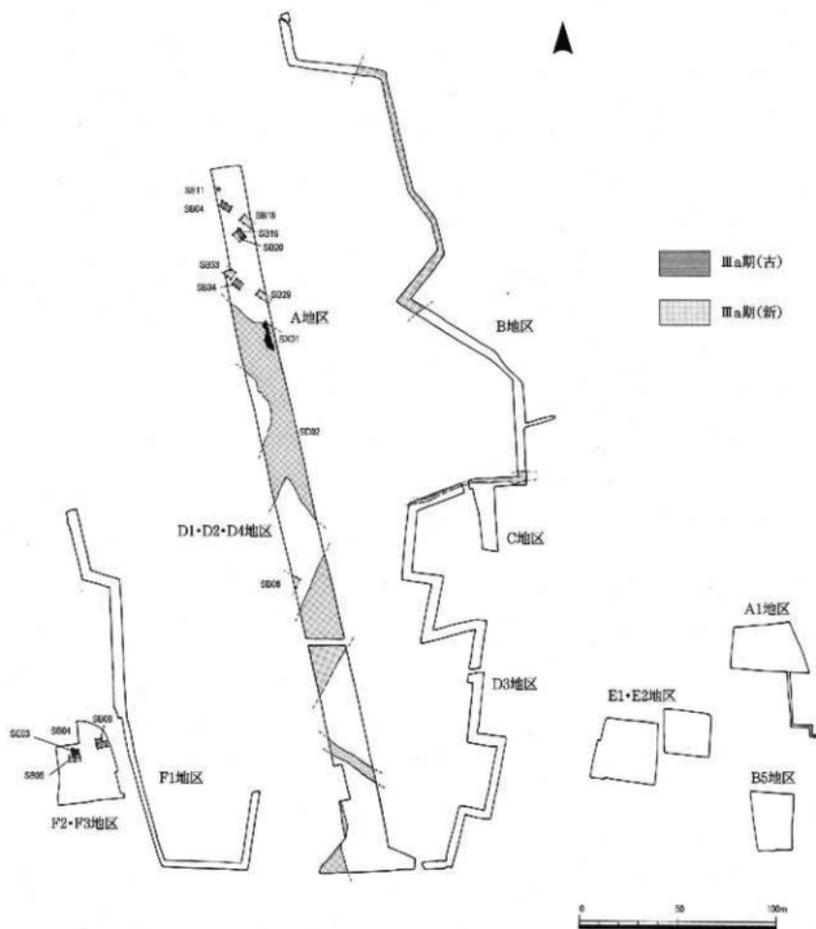


图6 中近世遺構変遷図(2)

IIIb期

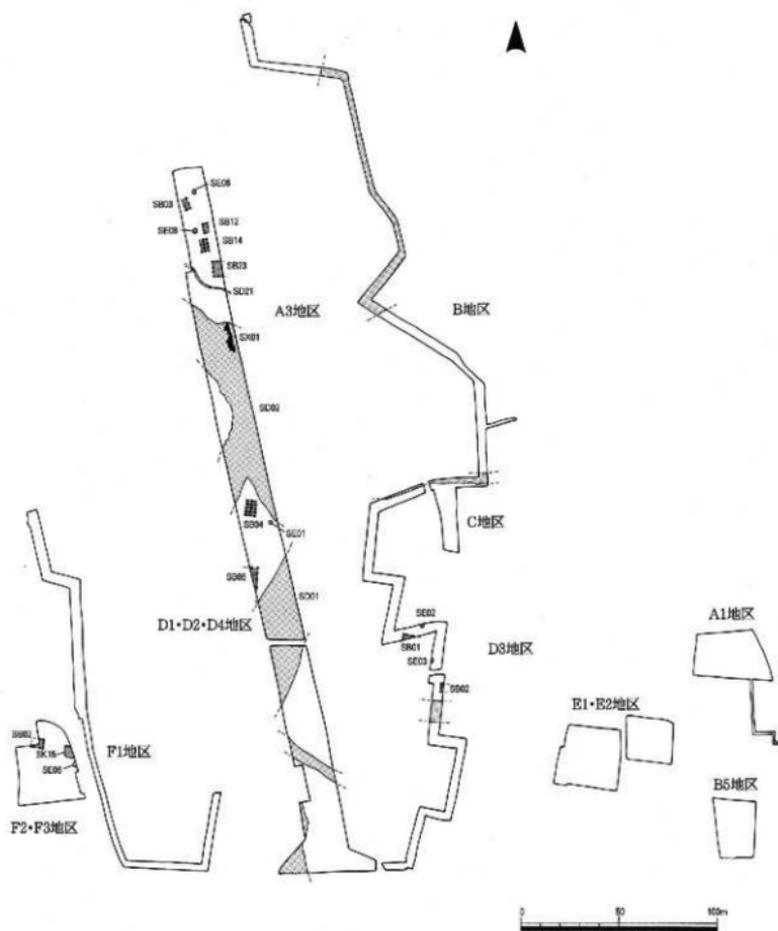


图7 中近世造构变迁图(3)

Ⅲc期

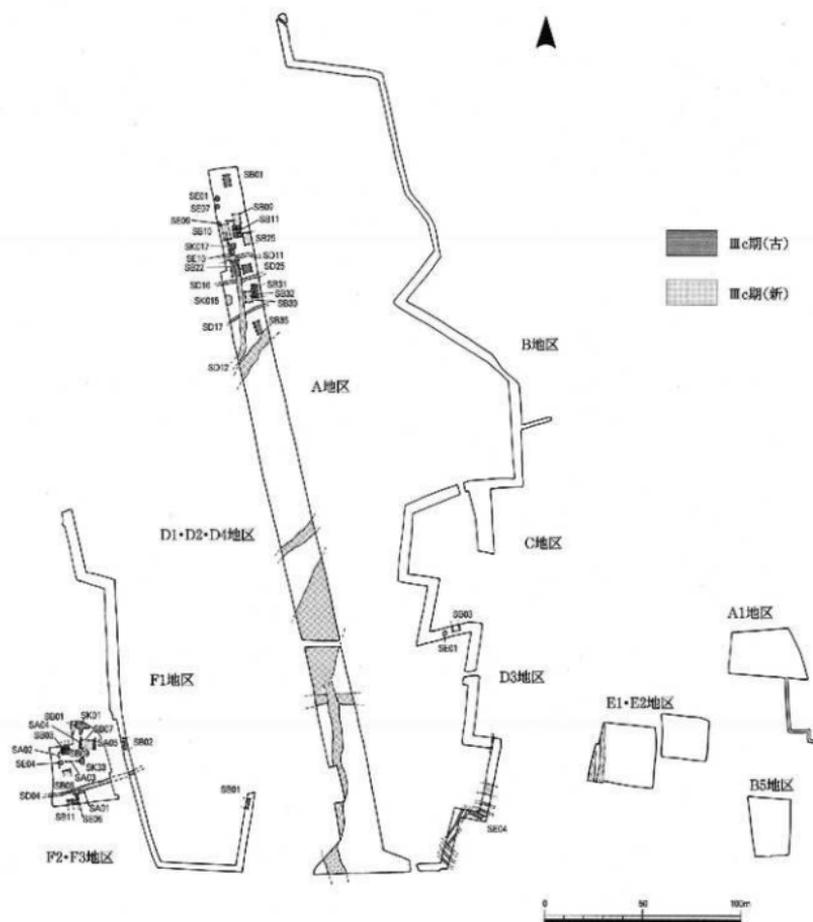


图8 中近世遺構変遷図(4)

IV・V期

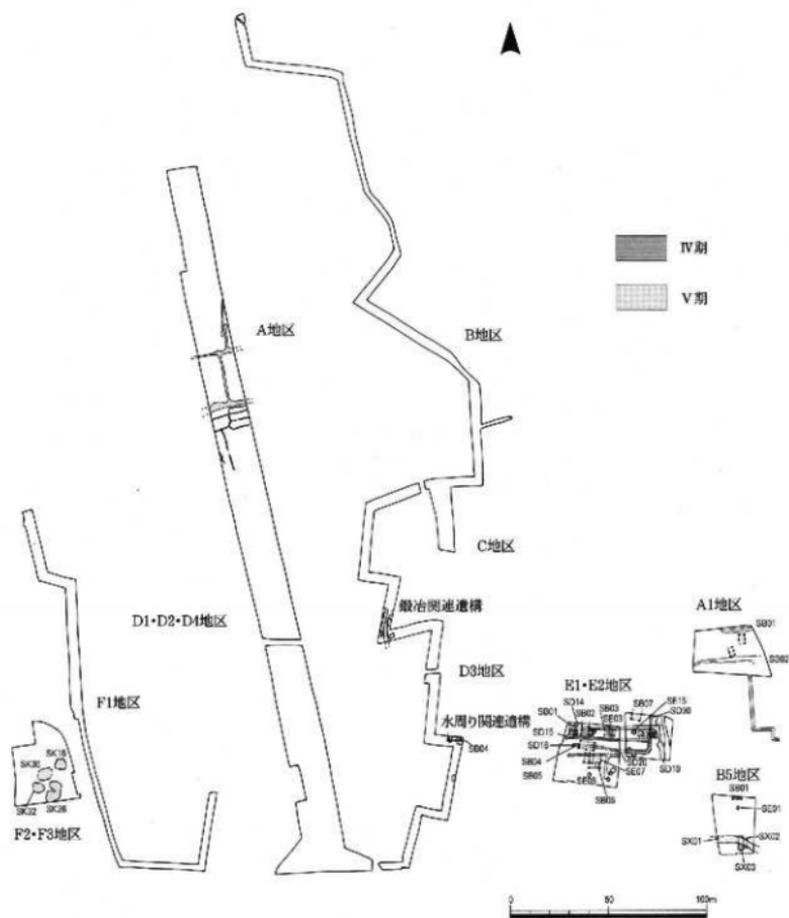


図9 中近世遺構変遷図(5)

中名V・VI遺跡

種別一覧

地区	町番号	調査番号	写真番号	方位	柱穴形状	柱穴間隔・径(m)	柱穴深さ・径(m)	柱穴間隔・径(m)	柱穴深さ・径(m)	柱穴形状	出土遺物	備考
F2・3地区	SA51	134・117	104-2・104-1	N75°E	溝溝→不整形	0.8-1.05	0.25-0.7	2.4-2.0		柱脚、瓦質土器		
	SA52	134・117	50-2	N 2° W	溝→溝形	0.8-0.85	0.11-0.13	2.5				
	SA53	134・117	50-2	N65°E	溝→不整形	0.25-0.4		2.3-2.5				
	SA54	134・117	60-1	N 2° W	溝→溝形	0.7-0.4	3.15-0.5	0.7-1.2				
	SA55	134・117	60-1	N 2° W	溝→溝形	0.25-0.4	3.25-0.55	1.2-2.5				
	SA56	147	73-2・73-2	N85°E	溝→溝形	0.17-0.34	3.11-0.22	0.4-1.3				SB036:付-5
B・C地区	SA81	206	96-1	N75°W	溝→溝形	0.22-0.73	3.11-0.37	1.1-1.5		土師器、中世土師器	SB032:付(1)	
	SA82	206	96-1	N85°W	溝→不整形	0.12-0.8	3.07-0.43	1.5-1.4		木炭屑、中世土師器、漆片	SB032:付(2)	

井戸一覧

地区	調査番号	町番号	写真番号	方位	長さ(直径) m	幅(口径) m	深さ m	井筒内径・m	井筒底径・m	底層厚さ・m	井戸の形状	掘方構造	出土遺物	備考	
A1地区	SB01	097	003-4	円形	3.95	0.84	0.94	0.5	0.32	0.74	石堀	掘削型	土師器、漆器、骨、漆片	中～近世	
	SB02	041	006-1,3	円形	2.19	1.86	0.97	0.89	0.85	1.27	石堀	掘削型	漆器	中～近世	
	SB03	041	021-1,2	円形	1.22	1.06	0.82	0.08	0.38	0.82	石堀	底の半円形掘削型	埴輪、中世土師器、漆片	中世	
	SB04	041		円形	2.15	1.89	0.97	0.89	0.75	0.53	木枠掘	底の半円形掘削型	土師器、漆器、骨、漆片	中世	
	SB05	041		不整形	1.61	1.45	0.95		0.8	0.14	木枠掘	底の半円形掘削型	土師器、中世土師器、漆片、漆片	中世	
	SB06	061	020-1,3	円形	1.67	1.50	0.94	0.29	0.65	0.95	石堀	半円形掘削型	土師器、加工木、骨	中～近世	
D3地区	SB07	061	020-1,3	円形	1.58	1.48	1.16	0.89	0.46	1.10	石堀	掘削型	加工木	中～近世	
	SB08	061	020-1,3	不整形	3.23	1.15	1.05		0.45	1.15	石堀	掘削型	骨、漆片、漆器	中～近世	
	SB09	061	020-1,3	楕円形	2.19	1.83	0.98	0.78	0.59	0.85	石堀	掘削型	骨、漆片	中～近世	
	SB10	070	020-1,3	不整形	2.09	1.53	1.25	0.54	0.65	1.25	石堀	掘削型	骨、漆片	中～近世	
	SB11	084	043-1	円形	1.23	0.90	0.68	0.50	0.43	0.69	石堀	掘削型	中世土師器、骨、加工木、漆片	中～近世	
	SB12	084	043-1	円形	0.96	0.81	0.52	0.55	0.32		石堀	掘削型	中～近世		
	SB13	084	043-2,4	円形	1.75	1.67	0.81	0.70	0.50	0.70	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、加工木	中～近世	
	SB14	081	043-3,5	楕円形	2.39	1.87	0.85	0.54	0.72	0.65	石堀	底の半円形掘削型	中世土師器、漆片、骨、加工木、漆片	中～近世	
	SB15	081	047-5	楕円形	1.12	0.81	0.70	0.49			石堀	掘削型	中世土師器、漆器	中～近世	
	SB16	081	047-1,3	楕円形	1.85	1.62	0.74	0.55	0.42	0.40	石堀	底の半円形掘削型	土師器、埴輪、中世土師器、瓦質土器、骨、漆片、漆器	中～近世	
	SB17	081	047-7	楕円形	4.20	2.33	1.47	1.05	0.94	1.15	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、石製土師器	中～近世	
	D4地区	SB18	081	048-3,5	円形	2.59	1.80	0.87	0.78	0.49	0.73	石堀	掘削型	埴輪、中世土師器、漆片、漆器、加工木、漆片、骨、漆片、漆器	中～近世
SB19		081	047-1,3	円形	2.19	2.01	0.81	0.55	0.49	0.6	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、漆器、加工木	中～近世	
SB20		081	047-1,3	不整形	3.78	2.63	0.80				掘削型	掘削型	中世土師器、埴輪、石製土師器	中～近世	
SB21		081	048-4	円形	1.69	0.89	0.76	0.56	0.25	0.29	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、加工木	中～近世	
SB22		087	047-1,2	円形	0.96	1.81	0.86	0.75	0.51	0.89	石堀	底の半円形掘削型	中世土師器、埴輪、加工木、漆片、漆器	中～近世	
SB23		087	047-2,4	円形	2.08	1.65	0.66	0.71	0.33	0.38	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、加工木	中～近世	
SB24		087		楕円形	1.76	1.85	0.7	0.5	0.32	0.4	石堀	掘削型	中世土師器、埴輪、土師器、漆器	中～近世	
SB25		087	048-1,2	不整形	2.05	1.75	1.1	0.90	0.25	1.15	石堀	掘削型	漆器、土師器、中世土師器、埴輪、漆器、漆片、骨、漆片、加工木、漆片、骨	中～近世	
F2・3地区		SB26	116・121	061-1,2	円形	1.35	1.91	0.78	0.90	0.32	0.66	石堀	掘削型	中世土師器、穀類木炭屑	中～近世
		SB27	116・121	061-1,2	円形	1.49	1.23	0.90	0.80	0.48	0.55	石堀	掘削型		中～近世
		SB28	113	062-1,3	円形	1.58	1.63	0.81	0.52	0.69	0.72	石堀	掘削型	中世土師器	中～近世
		SB29	113	062-1,4	不整形	2.50	1.89	0.96	1.21	0.86	0.72	石堀	掘削型	中世土師器、漆物	中～近世
	SB30	113	062-6,7	楕円形	1.72	1.65	0.97	0.88	0.46	0.58	石堀	掘削型		中～近世	
	SB31	113	062-8,9	円形	2.45	0.92	0.85	0.86	0.48	0.55	石堀	掘削型		中～近世	
A地区	SB32	102	073-2,4	円形	1.90	0.78	1.04	0.82	0.43	1.04	石堀	掘削型	埴輪、中世土師器、漆物	中世	
	SB33	103	075-1・075-1,2	円形	2.13	1.69	1.11	0.75	0.74	1.22	木枠掘	底の半円形掘削型	埴輪、八咫、中世土師器、瓦質土器、骨、漆片、漆器、加工木、漆片、漆器、加工木、漆片、漆器、加工木、漆片、漆器	中世	
	SB34	150	075-3,5	楕円形	1.98	1.23	0.93	0.65	0.48	0.65	木枠掘	底の半円形掘削型	中世土師器、骨、漆片、漆器、骨	中世	
	SB35	150	077-1,3	不整形	1.98	1.47	0.92				木枠掘	掘削型	骨、漆片	中世	
	SB36	151	077-2,4	不整形	2.36	1.58	1.13	0.97	0.43	1.10	石堀	掘削型	土師器、漆片、漆器、骨、加工木	中世	
	SB37	151	077-5,7	円形	1.91		1.05	1.01	0.50	0.66	石堀	掘削型	埴輪、骨、漆片	中世	
	SB38	151	077-6,8	円形	1.96	0.58	1.11	0.68	0.45	1.11	石堀	掘削型	中世土師器、漆物	中世	
	SB39	151	078-1,3	円形	1.71	1.63	0.81	0.60	0.32	0.80	石堀	掘削型	中世土師器、漆物、漆物	中世	
	SB40	152	078-5	円形	1.51	0.50	0.85	0.84	0.23	0.75	石堀	掘削型	中世土師器、漆物	中世	
	SB41	152	078-2,4	円形	1.67	1.24	0.81	0.80	0.49	0.51	石堀	掘削型	骨、漆器、骨、漆器	中世	
	SB42	152	078-6	円形			0.61				石堀	掘削型	骨、漆器	中世	
	SB43	152	078-7	不整形	1.70	1.18	0.92				石堀	底の半円形掘削型	中世		
SB44	152	078-8	不整形	1.94	0.84	0.95				石堀	底の半円形掘削型	中世			
B・C地区	SB45	230	088-1・087-1,2・088-1	円形	2.03	1.65	0.95	0.50	0.54	0.51	木枠掘	掘削型	土師器、中世土師器、埴輪、骨、漆片	中世	
	SB46	230	088-3-5	円形	2.34	1.59	0.79	0.53	0.55	0.79	石堀	掘削型	中世土師器、漆片、加工木	中世	
	SB47	230	088-6	円形	2.00	1.79	1.03	0.98	0.34	0.35	木枠掘	底の半円形掘削型	土師器、漆器、中世土師器、漆片、漆片	中世	

中名V・VI遺跡
土坑一瓦(1)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期	
A1:HEK	SK01	001		楕円形	0.65	0.49	0.14	土師器	古代	
	SK02	004	010-3	楕円形	0.88	0.51	0.10	土師器、埴土器	古代	
	SK03	007		円形	1.06	1.02	0.14	土師器、埴土器	中～高世	
	SK04	007		不整形	(0.71)	(0.51)	0.08	土師器	中～高世	
	SK05	007		楕円形	0.55	0.32	0.15	土師器	中～高世	
	SK06	007		円形	0.22	0.19	0.17	土師器	中～高世	
	SK07	007		楕円形	0.27	0.17	0.09	土師器	中～高世	
	SK08	007		不整形	2.31	2.02	0.30	土師器、埴土器、漆器	中～高世	
	SK09	007		長楕円形	(2.65)	1.97	0.40	土師器、白磁、土師器	中～高世	
	SK10	007		楕円形	(0.40)	0.34	0.39	須恵器	中～高世	
	SK11	007		円形	1.66	1.50	0.34	土師器、埴土器	中～高世	
	SK12	007		楕円形	1.41	(0.54)	0.29	土師器、埴土器	中～高世	
	SK13	007		長楕円形	2.67	(0.81)	0.29	土師器、埴土器	中～高世	
	SK14	008		不整形	1.21	1.11	0.29	土師器	中～高世	
	SK15	008		楕円形	0.56	0.19	0.50	土師器	中～高世	
	SK16	008		楕円長方形	(0.33)	0.26	0.11	土師器	中～高世	
	SK17	008		不整形	0.90	(0.45)	0.18	土師器	中～高世	
	SK18	008		不整形	(2.04)	(0.3)	0.13		中～高世	
	SK19	008		不整形	(1.23)	(0.37)	0.49	土師器、埴土器、八咫	中～高世	
	SK20	008		円形	0.35	(0.18)	0.39	須恵器	中～高世	
	SK21	008		楕円形	0.22	0.16	0.17	土師器	中～高世	
	SK22	008		不整形	0.90	(0.62)	0.16	土師器、中世土師器、土師器	中～高世	
	SK23	008		楕円形	(0.48)	(0.34)	0.08	土師器	中～高世	
	SK24	008		円形	1.15	1.14	0.34		中～高世	
	SK25	008		円形	0.18	0.19	0.19	土師器	中～高世	
	SK26	008		楕円形	0.34	0.26	0.31	中世土師器	中～高世	
	SK27	008		楕円長方形	0.34	0.56	0.20	土師器	中～高世	
	SK28	008		楕円形	(2.33)	(0.77)	0.12	土師器、埴土器	中～高世	
	SK29	008		円形	0.31	(0.21)	0.18		中～高世	
	SK30	008		楕円形	(0.33)	0.29	0.34	土師器、埴土器	中～高世	
	SK31	009		楕円形	2.62	1.44	0.34	須恵器、埴土器、中世土師器、八咫	中～高世	
	SK32	009		楕円形	1.86	1.49	0.18	須恵器、土師器、中世土師器、伊万呂、黒中瀬戸、芝伊呂波	中～高世	
	SK33	009		楕円形	0.47	0.36	0.07	須恵器	中～高世	
	SK34	009		楕円形	0.34	0.17	0.11		中～高世	
	SK35	009		円形	0.68	(0.45)	0.20	土師器	中～高世	
	SK36	009		楕円形	(0.22)	(0.14)	0.15	土師器、埴土器	中～高世	
	SK37	009		楕円形	1.25	0.89	0.18	土師器	中～高世	
	SK38	009		円形	0.45	0.47	0.18	土師器	中～高世	
	SK39	009		楕円形	(0.28)	0.20	0.23	土師器	中～高世	
	SK40	009		円形	0.17	0.16	0.21	土師器	中～高世	
	SK41	009		楕円形	1.19	(0.49)	0.54	土師器、埴土器	中～高世	
	SK42	009		楕円形	1.23	0.89	0.18	土師器	中～高世	
	SK43	010		不整形	1.30	0.84	0.48	伊万呂、黒中瀬戸	中～高世	
	SK44	010		円形	(1.60)	1.24	0.28		中～高世	
	SK45	010	003-3	楕円形	(0.76)	(0.32)	0.28	須恵器、中世土師器	中～高世	
	SK46	010		不整形	(1.54)	(1.30)	0.22	土師器	中～高世	
	SK47	010	003-3	楕円形	1.02	(0.35)	0.14		中～高世	
	SK48	010	003-2	楕円形	0.38	(0.21)	0.05		中～高世	
	SK49	010		楕円形	0.73	0.52	0.23		中～高世	
	SK50	010		楕円長方形	(0.64)	0.46	0.38		中～高世	
SK51	010		楕円形	1.07	0.62	0.43		中～高世		
SK52	010		楕円形	0.75	0.45	0.30		中～高世		
SK53	010		楕円形	0.94	0.44	0.38	須恵器	中～高世		
SK54	010		楕円形	(0.78)	0.36	0.04	土師器	中～高世		
SK55	010		楕円形	0.32	0.23	0.24	土師器、埴土器	中～高世		
SK56	010		円形	0.24	0.23	0.28	土師器	中～高世		
SK57	010		楕円形	0.83	0.46	0.09		中～高世		
SK58	010		楕円形	0.70	0.51	0.20		中～高世		
SK59	010		楕円形	0.90	0.65	0.19	土師器、埴土器	中～高世		
SK60	011		楕円長方形	1.09	0.87	0.18	白磁、漆器、磁石	中～高世		
SK61	011		楕円形	1.24	0.47	0.30	黒中瀬戸	中～高世		
SK62	011		楕円形	1.01	0.62	0.32	土師器	中～高世		
SK63	011		楕円形	0.58	(0.48)	0.11	土師器	中～高世		
SK64	011		円形	0.22		0.09		中～高世		
SK65	011		不整形	(0.67)	(0.51)	0.06	漆器	中～高世		
SK66	011		楕円形	(0.49)	0.47	0.05	土師器	中～高世		
SK67	011		円形	0.55	0.63	0.04	土師器	中～高世		
SK68	011		楕円長方形	0.78	0.62	0.01	土師器	中～高世		
SK69	011		不整形	1.08	(0.77)	0.44	土師器	中～高世		
SK70	011		不整形	-1.19	0.49	0.04	土師器	中～高世		
SK71	011		楕円形	(1.69)	(0.67)	0.06	土師器、埴土器	中～高世		
SK72	011		楕円形	1.38	0.76	0.32	土師器	中～高世		
SK73	012		不整形	(0.38)	(0.10)	0.53	土師器、埴土器、漆器	中～高世		
B:HEK	SK81	016		楕円長方形	(1.25)	1.12	0.08	中世土師器	中～高世	
	SK82	016		楕円形	1.29	0.67	0.15		中～高世	
	SK83	016		不整形	1.04	1.0	0.09	現代土師器	中～高世	
	SK84	017		楕円長方形	3.94	(1.43)	0.22	中世土師器	中～高世	
	SK85	017		長方形	1.69	(0.60)	0.10		中～高世	
	SK86	017		不整形	1.34	1.17	0.12		中～高世	
	SK87	018		円形	0.4		0.3	中世土師器	中～高世	
	D1・2:HEK	SK91	025		不整形	3.01	1.66	0.14	土師器	古代
		SK92	025		不整形	0.51	0.61	0.09	土師器	古代
		SK93	025		円形	0.78	0.66	0.07	土師器	古代
SK94		025		楕円形	0.74	0.59	0.28		古代	
SK95		025		円形	0.33	0.31	0.07	土師器	古代	
SK96		025		不整形	(0.84)	0.46	0.09		古代	
SK97		025		不整形	(0.67)	0.37	0.14		古代	
SK98		025		楕円形	0.66	0.46	0.12		古代	
SK99		025		楕円形	1.50	0.89	0.15		古代	
SK10		025		楕円形	0.64	0.62	0.14		古代	

中名V・VI遺跡
土坑一號(2)

地区	遺跡番号	区画番号	写真番号	平面形	長さ(表径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	土層等	出土遺物	時期
D1・2・4地区	SK11	655		円形	1.32	1.31	0.12	土層等		古代
	SK12	655		不整形	3.11	0.32	0.09	土層等		古代
	SK13	655		赤円形	0.69	0.63	0.12	土層等		古代
	SK14	655		円形	0.34	0.03	0.03	土層等		古代
	SK15	656		不整形	4.31	2.79	0.14	土層等、須磨瓦、刀子		古代
	SK16	656		赤円形	0.37	0.27	0.10	土層等		古代
	SK17	656		円形	0.47	0.47	0.08	土層等		古代
	SK18	656		赤円形	0.31	0.32	0.17	土層等		古代
	SK19	656		不整形	1.97	0.42	0.10	土層等		古代
	SK20	656		摩打形	0.92	0.66	0.12	須磨瓦		古代
	SK21	656		赤円形	0.27	0.83	0.16	土層等		古代
	SK22	656		摩打形	0.89	0.60	0.25	土層等		古代
	SK23	656		長楕円形	4.21	0.81	0.12	土層等		古代
	SK24	657		長楕円形	3.25	1.83	0.03	土層等、須磨瓦、刀子		古代
	SK25	657		不整形	6.52	4.56	0.21	土層等、須磨瓦、磁石		古代
	SK26	657		摩打形	0.92	0.57	0.25	土層等、須磨瓦		古代
	SK27	657		赤円形	0.71	0.58	0.25	土層等		古代
	SK28	657		摩打形	0.87	0.66	0.12	土層等		古代
	SK29	658		赤円形	0.54	0.50	0.20	須磨瓦		古代
	SK30	658		赤円形	0.80	0.42	0.09	土層等		古代
	SK31	658		摩打形	0.30	0.45	0.20	土層等		古代
	SK32	658		赤円形	0.07	0.69	0.30	土層等		古代
	SK33	658		不整形	1.17	0.28	0.08	土層等、須磨瓦		古代
	SK34	658		円形	0.42	0.38	0.12	土層等		古代
	SK35	658		不整形	1.98	0.79	0.14	土層等		古代
	SK36	658		摩打形	1.48	2.88	0.13	土層等		古代
	SK37	658		不整形	4.45	1.15	0.15	土層等		古代
	SK38	658		長楕円形	1.33	0.39	0.07	土層等、須磨瓦		古代
	SK39	658		不整形	1.38	0.19	0.02	炭化材		古代
	SK40	658		不整形	0.72	0.30	0.02	炭化材		古代
	SK41	659		赤円形	0.81	0.47	0.02	土層等		古代
	SK42	659		摩打形	0.58	0.41	0.11	土層等、須磨瓦		古代
	SK43	659		不整形	0.54	0.48	0.28	土層等		古代
	SK44	659		赤円形	0.30	0.44	0.07	土層等		古代
	SK45	642		摩打形	1.30	0.44	0.21	瓦面		中世
	SK46	642		不整形	0.32	0.67	0.18	中世土層等、八咫		中世
	SK47	642		赤円形	0.58	0.29	0.21	須磨瓦		中世
	SK48	642		摩打形	0.36	0.50	0.07	中世土層等		中世
	SK49	642		赤円形	0.32	0.75	0.16	中世土層等		中世
	SK50	642		円形	0.89	0.89	0.12	中世土層等、八咫		中世
	SK51	642		摩打形	0.51	0.43	0.07	中世土層等		中世
	SK52	642		赤円形	0.78	0.62	0.20	中世土層等		中世
	SK53	642		赤円形	0.87	0.64	0.14	中世土層等		中世
	SK54	643		赤円形	1.36	0.77	0.15	中世土層等		中世
	SK55	643		摩打形	0.44	0.46	0.12	中世土層等		中世
	SK56	643		不整形	1.20	0.53	0.20	中世土層等、瓦面		中世
	SK57	643		円形	0.86	0.48	0.35	中世土層等		中世
	SK58	643		摩打形	0.50	0.40	0.25	中世土層等		中世
	SK59	643		赤円形	1.21	0.78	0.25	瓦面		中世
	SK60	643		赤円形	1.49	1.49	0.19	中世土層等、瓦面		中世
	SK61	643		楕円形	1.82	0.82	0.26	中世土層等		中世
	SK62	643		円形	0.51	0.43	0.12	中世土層等		中世
	SK63	643		赤円形	0.80	0.41	0.16	中世土層等		中世
	SK64	643		円形	0.30	0.26	0.25	中世土層等		中世
	SK65	643		不整形	2.51	1.37	0.07	中世土層等		中世
	SK66	643		楕円形	2.41	1.73	0.27	中世土層等、瓦面		中世
	SK67	643		不整形	0.61	0.20	0.12	中世土層等		中世
	SK68	643		円形	0.57	0.45	0.21	中世土層等		中世
	SK69	644		楕円形	0.89	0.39	0.12	中世土層等		中世
	SK70	644		円形	0.56	0.48	0.15	中世土層等		中世
	SK71	644		楕円形	2.22	0.89	0.19	中世土層等		中世
	SK72	644		楕円形	2.31	1.43	0.15	中世土層等		中世
	SK73	644		楕円形	1.99	0.93	0.37	中世土層等		中世
	SK74	644		円形	0.74	0.80	0.20	中世土層等		中世
	SK75	644		楕円形	0.83	0.51	0.29	中世土層等		中世
	SK76	644		円形	0.57	0.52	0.11	中世土層等		中世
	SK77	644		楕円形	0.62	0.51	0.07	中世土層等		中世
	SK78	644		楕円形	0.61	0.62	0.17	中世土層等		中世
	SK79	644		長楕円形	1.75	1.80	0.17	中世土層等、瓦面		中世
	SK80	644		円形	0.86	0.81	0.19	中世土層等		中世
	SK81	644		楕円形	2.83	1.20	0.21	中世土層等		中世
	SK82	645		円形	0.42	0.38	0.18	中世土層等		中世
	SK83	645		不整形	4.22	3.19	0.24	中世土層等		中世
	SK84	645		方形	1.37	1.28	0.16	中世土層等		中世
	SK85	645		不整形	0.51	0.54	0.05	中世土層等		中世
	SK86	645		不整形	0.30	1.28	0.08	中世土層等		中世
	SK87	645		楕円形	0.80	0.41	0.07	中世土層等		中世
	SK88	645		楕円形	0.89	0.74	0.62	中世土層等、瓦面		中世
	SK89	645		楕円形	0.67	0.81	0.88	中世土層等		中世
	SK90	645		楕円形	0.69	0.61	0.20	中世土層等		中世
	SK91	645		楕円形	0.42	0.21	0.25	中世土層等		中世
	SK92	646		楕円形	1.08	0.88	0.51	中世土層等、瓦面		中世
	SK93	647		不整形	7.55	0.96	0.20	土層等、中世土層等		中世
	SK94	648		不整形	6.19	6.50	0.12	中世土層等、瓦面		中世
	SK95	648・648		不整形	3.20	7.40	0.20	中世土層等、瓦面、八咫、青瓦		中世
	SK96	648		不整形	1.73	0.79	0.15	中世土層等		中世
	SK97	648		不整形	4.53	1.81	0.06	中世土層等		中世
	SK98	651		円形	0.42	0.28	0.13	中世土層等、瓦面、土層等		古代
	SK99	651		円形	0.30	0.54	0.17	土層等		古代
	SK100	652		楕円形	3.48	0.38	0.13	土層等		古代
	SK101	652		不整形	0.81	0.58	0.06	土層等		古代
	SK102	652		楕円形	0.82	0.20	0.11	土層等		古代
	SK103	652		楕円形	0.45	0.45	0.05	土層等		古代
	SK104	652		円形	0.23	0.19	0.09	土層等		古代

中名V・V1遺跡
土坑・竪穴(3)

地区	遺跡番号	区画番号	基点番号	平面形	長さ(内径)・m	幅(外径)・m	深さ・m	土層部、加工木	出土遺物	時期	
D00地区	SK01	062	625-4	楕円形	2.28	(2.20)	0.48	土層部、加工木		古代	
	SK02	062	625-3,3	円形	1.60	1.53	0.61			古代	
	SK03	066		不整形	(1.18)	0.50	0.09			中世	
	SK04	066		楕円形	(1.15)	0.65	0.26			中世	
	SK05	066		不整形	1.25	0.53	0.11	土層部、中世土層部、くぼみ石		中世	
	SK06	066		楕円形	0.42	0.42	0.08			中世	
	SK07	066		楕円形	0.69	0.36	0.09			中世	
	SK08	066		不整形	0.46	0.33	0.08			中世	
	SK09	066		不整形	(0.63)	0.52	0.22			中世	
	SK10	066		円形	0.50	0.47	0.15			中世	
	SK11	066		不整形	0.80	(0.44)	0.28	柱礎		中世	
	SK12	066		不整形	1.14	(0.62)	0.15	柱礎		中世	
	SK13	066		楕円形	1.10	0.66	0.15			中世	
	SK14	066		楕円形	0.65	(0.44)	0.12			中世	
	SK15	067		楕円形	2.66	(0.67)	0.08	須磨器		中世	
	SK16	067		長円形	2.32	0.63	0.15			中世	
	SK17	067		楕円形	(2.82)	1.93	0.15			中世	
	SK18	067		円形	0.67	0.49	0.14			中世	
	SK19	067		不整形	(0.80)	0.45	0.15	須磨器		中世	
	SK20	067	079-1	不整形	(2.98)	1.90	0.20			中世	
	SK21	067		不整形	(1.26)	(0.52)	0.12			中世	
	SK22	067		不整形	(0.96)	0.25	0.25	柱礎		中世	
	SK23	067		楕円形	0.72	0.38	0.04			中世	
	SK24	067		円形	0.25	0.28	0.08	柱礎		中世	
	SK25	067		円形	0.25	0.15	0.19	柱礎		中世	
	SK26	067		楕円形	0.65	0.70	0.25			中世	
	SK27	068		不整形	4.10	(2.78)	0.15			中世	
	SK28	068		不整形	1.40	0.84	0.10	中世土層部、須磨器、加工木		中世	
	SK29	068		不整形	(2.75)	(0.50)	0.16	須磨器、中世土層部、須磨器		中世	
	SK30	068		不整形	(3.80)	1.10	0.12			中世	
	SK31	068+070	337-1,2 331-1+338-2		いびつな方形	2.00	1.92	0.22	中世土層部、土製品、鉄片		中・近世
	SK32	070		楕円形	1.64	0.62	0.15	青磁、土製品、鉄片		中・近世	
	SK33	070		楕円形	1.23	0.54	0.33			中・近世	
	SK34	368+071	333-1,2 338-1,2		長楕円形	4.05	0.92	0.07	中世土層部、土製品、鉄片		中・近世
	SK35	071		円形	0.65	0.65	0.20	中世土層部、須磨器		中・近世	
	SK36	071		長円形	2.45	(1.90)	0.12	中世土層部		中・近世	
	SK37	071		円形	1.25	1.21	0.10			中・近世	
	SK38	071		円形	(0.66)	0.07	0.07			中・近世	
	SK39	071		不整形	(1.82)	(1.26)	0.11	中世土層部、土製品		中・近世	
	SK40	072		不整形	1.50	(1.70)	0.10			中・近世	
	SK41	072		不整形	2.47	(1.13)	0.25	須磨器、伊万里		中・近世	
	SK42	072		楕円形	0.66	0.38	0.15	中世土層部、鉄片		中・近世	
	SK43	072		不整形	2.67	2.54	0.28	須磨器、加工木		中・近世	
	SK44	072		楕円形	0.98	0.60	0.13	鉄片		中・近世	
	SK45	072		円形	0.33	0.31	0.26			中・近世	
	SK46	072		楕円形	0.34	0.17	0.17	中世丸山、須磨器		中・近世	
	SK47	072		不整形	(0.62)	0.25	0.15	中世土層部		中・近世	
	SK48	072		円形	0.67	0.55	0.25			中・近世	
	SK49	072	033-2		円形	1.10	1.08	0.31			中・近世
	SK50	072	032-2+034-1		円形	1.10	1.05	0.29	加工木、須磨器、円形板		中・近世
SK51	073		不整形	2.03	1.41	0.13			中・近世		
SK52	073		不整形	1.30	(0.75)	0.21	中世土層部		中・近世		
SK53	073	034-1		円形	1.10	1.03	0.26			中・近世	
SK54	073		不整形	2.80	(1.37)	0.45			中・近世		
SK55	073		円形	0.92	0.85	0.18			中・近世		
SK56	073	034-1		円形	0.62	0.68	0.18			中・近世	
SK57	060+073	033-5		楕円形	1.76	1.00	0.28			中・近世	
SK58	073		円形	0.45	0.42	0.08			中・近世		
SK59	073		不整形	(2.23)	(0.54)	0.45			中・近世		
SK60	074		楕円形	0.52	0.59	0.20			中・近世		
SK61	060+074		楕円形	1.14	0.62	0.16			中・近世		
SK62	074		不整形	0.96	0.50	0.11			中・近世		
SK63	074		円形	0.30	0.32	0.06			中・近世		
SK64	074		不整形	2.85	(0.10)	0.20	中世土層部、柱礎、須磨器、須磨器		中・近世		
SK65	074		円形	0.19	0.07	0.07	須磨器		中・近世		
SK66	074		楕円形	0.41	0.32	0.08	伊万里		中・近世		
SK67	074		楕円形	0.45	0.45	0.27			中・近世		
SK68	074		楕円形	1.00	0.78	0.11			中・近世		
SK69	074		不整形	(0.60)	(0.40)	0.10	中世土層部		中・近世		
SK70	074		楕円形	0.96	0.48	0.26	須磨器、中世土層部		中・近世		
SK71	074		楕円形	0.79	0.50	0.15	中世土層部、須磨器		中・近世		
SK72	074		円形	0.27	0.38	0.12			中・近世		
SK73	074		楕円形	2.02	1.20	0.13			中・近世		
SK74	074		楕円形	1.45	0.43	0.09	須磨器、伊万里		中・近世		
SK75	075		楕円形	2.10	(1.18)	0.15			中・近世		
SK76	075		不整形	0.47	(0.40)	0.10	中世土層部		中・近世		
SK77	075		不整形	(1.15)	0.70	0.10			中・近世		
SK78	075		不整形	(0.25)	0.28	0.11			中・近世		
SK79	075		長円形	(2.80)	(1.41)	0.17	柱礎、須磨器、中世丸山		中・近世		
SK80	075		不整形	1.76	0.88	0.24	加工木、須磨器		中・近世		
SK81	075		不整形	(2.65)	(2.99)	0.12			中・近世		
SK82	075		楕円形	0.50	0.40	0.05			中・近世		
SK83	076		不整形	(1.68)	(1.78)	0.10			中・近世		
SK84	076		不整形	(2.50)	1.61	0.07	土層部		中・近世		
SK85	076		不整形	(2.53)	0.58	0.28	須磨器、加工木		中・近世		
SK86	076		円形	0.86	0.72	0.39	伊万里、丸山、須磨器、須磨器、円形板		中・近世		
SK87	076		楕円形	0.49	(0.42)	0.10			中・近世		
E1・2地区	SK01	086		不整形	2.05	1.29	0.23	須磨器		中・近世	
	SK02	086		長円形	2.55	1.45	0.21	中世土層部、須磨器、青磁		中・近世	
	SK03	086		楕円形	1.50	1.05	0.10			中・近世	
	SK04	086		円形	1.58	1.56	0.15	中世土層部、須磨器		中・近世	
	SK05	086		長円形	1.22	1.01	0.20			中・近世	

中名 V・VI遺跡

土坑一覽 (4)

地区	遺跡番号	原形番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
町・地区	SK06	088		不整形	1.70	1.07	0.23	越中龍戸	中～近世
	SK07	089		不整形	3.15	2.60	0.26	中世土器器、瓦片、越中龍戸、唐津、加工木	中～近世
	SK08	089		楕円形	0.70	0.62	0.31	珠洲	中～近世
	SK09	089		楕円形	1.58	1.61	0.26	珠洲	中～近世
	SK10	089		楕円形	0.81	0.57	0.16	辰野製鉄所	中～近世
	SK11	089		楕円形	0.59	0.49	0.22	珠洲	中～近世
	SK12	089		楕円形	0.58	0.48	0.25		中～近世
	SK13	089		長楕円形	1.53	0.65	0.30		中～近世
	SK14	089		不整形	0.59	(0.49)	0.27	珠洲	中～近世
	SK15	089		楕円形	0.50	0.34	0.11	越中龍戸	中～近世
	SK16	089		楕円形	1.38	0.69	0.27	越中龍戸	中～近世
	SK17	089		楕円形	1.11	0.85	0.56		中～近世
	SK18	089		楕円形	1.38	(0.86)	0.50	越中丸山、漆器、木棺	中～近世
	SK19	090		不整形	0.96	(0.71)	0.15	珠洲、近世陶磁器	中～近世
	SK20	090		楕円形	(0.70)	0.54	0.45		中～近世
	SK21	090		楕円形	1.43	1.05	0.41	中世土器器、越中龍戸	中～近世
	SK22	090		不整形	0.88	0.85	0.09	中世土器器	中～近世
	SK23	090		楕円形	0.85	0.67	0.12	珠洲、近世陶磁器、加工木	中～近世
	SK24	090		楕円形	1.27	1.13	0.31	珠洲	中～近世
	SK25	090		楕円形	1.60	(1.22)	0.51	中世土器器	中～近世
	SK26	090		不整形	0.88	0.63	0.28		中～近世
	SK27	090		楕円形	1.10	0.91	0.60	中世土器器	中～近世
	SK28	090		楕円形	1.67	1.02	0.52	土器器、中世土器器	中～近世
	SK29	090		不整形	(1.00)	0.92	0.13	中世土器器、唐万葉	中～近世
	SK30	090		不整形	1.04	0.64	0.23	中世土器器、漆器、加工木	中～近世
	SK31	090		楕円形	0.86	0.56	0.30	中世土器器	中～近世
	SK32	090		楕円形	1.12	0.32	0.23	中世土器器	中～近世
	SK33	091		楕円形	0.75	0.71	0.18	山世土器器	中～近世
	SK34	091		楕円形	1.10	0.43	0.13	中世土器器	中～近世
	SK35	091		楕円形	0.77	0.44	0.24	中世土器器	中～近世
	SK36	091		楕円形	1.37	1.13	0.31	中世土器器	中～近世
	SK37	091		長楕円形	(2.63)	0.89	0.23	珠洲、越中龍戸	中～近世
	SK38	091		楕円形	1.00	0.60	0.57		中～近世
	SK39	091		楕円形	1.70	1.15	0.16	中世土器器、珠洲	中～近世
	SK40	091		楕円形	1.02	0.72	0.40	中世土器器	中～近世
	SK41	091		楕円形	(1.41)	1.19	0.30	中世土器器、珠洲	中～近世
	SK42	091		不整形	1.34	(0.37)	0.36		中～近世
	SK43	092		不整形	1.85	1.84	0.63		中～近世
	SK44	092		不整形	1.19	0.92	0.19	中世土器器、珠洲	中～近世
	SK45	092		楕円形	0.61	0.43	0.16	加工木、瓦	中～近世
	SK46	092		不整形	0.75	(0.26)	0.18		中～近世
	SK47	092		楕円形	0.71	0.54	0.21		中～近世
	SK48	093		楕円形	(0.74)	0.42	0.24	中世土器器、瀬戸瓦器、古銭	中～近世
	SK49	093		長楕円形	(1.03)	0.26	0.20	瀬戸瓦器	中～近世
	SK50	093		円形	0.68	0.35	0.30	石臼	中～近世
	SK51	093		楕円形	0.89	(0.57)	0.25		中～近世
	SK52	093		楕円形	1.14	0.67	0.44		中～近世
	SK53	093		楕円形	(0.65)	0.64	0.22		中～近世
	SK54	093		不整形	(1.39)	0.59	0.29		中～近世
	SK55	093		楕円形	0.79	(0.54)	0.10		中～近世
	SK56	093		楕円形	1.27	0.97	0.44		中～近世
	SK57	093		不整形	0.56	0.33	0.18		中～近世
	SK58	093		楕円形	0.80	0.55	0.15		中～近世
	SK59	093		楕円形	0.75	0.45	0.47		中～近世
	SK60	093		楕円形	0.61	0.52	0.20	瀬戸瓦器	中～近世
	SK61	093		楕円形	0.70	0.45	0.18	中世土器器、珠洲、加工木	中～近世
	SK62	093		楕円形	1.02	0.48	0.12		中～近世
	SK63	093		不整形	(0.20)	0.95	0.07	加工木	中～近世
	SK64	093		不整形	2.95	(2.61)	0.12		中～近世
	SK65	093		不整形	(2.75)	1.47	0.34	珠洲、加工木	中～近世
SK66	093		不整形	5.31	(1.80)	0.38	珠洲、円形瓦	中～近世	
SK67	093		楕円形	0.75	0.69	0.36		中～近世	
SK68	093		不整形	(5.74)	(0.94)	0.95		中～近世	
SK69	094		不整形	1.60	0.64	0.50	加工木	中～近世	
SK70	094		楕円形	1.47	1.33	0.42	中世土器器、珠洲、八咫、瀬戸瓦器、越中龍戸	中～近世	
SK71	094		楕円形	0.89	0.79	0.11		中～近世	
SK72	094	049-3	長楕円形	(5.13)	2.62	0.39	土器器、中世土器器、唐津、伊万葉、越石瓦、漆器	中～近世	
SK73	095		楕円形	(0.64)	0.42	0.22	珠洲	中～近世	
SK74	095	049-1 + 049-1	楕円形	(4.40)	2.16	0.38	須磨製、中世土器器、漆器、瀬戸瓦器、瓦葺土器、越中龍戸、伊万葉、円形瓦、加工木	中～近世	
SK75	097		不整形	3.64	(0.26)	0.20		中～近世	
SK76	098		不整形	3.00	(1.30)	0.48	珠洲、伊万葉、近世陶磁器、銅片、加工木	中～近世	
SK77	098		不整形	(1.26)	1.41	0.51	土器器、中世土器器	中～近世	
SK78	098		不整形	(4.48)	(0.29)	0.30	中世土器器	中～近世	
SK79	098		楕円形	3.00	(2.16)	0.51	中世土器器、漆器、加工木	中～近世	
SK80	100		円形	1.50	1.40	0.40		近世～近代	
SK81	094		楕円形	2.41	1.84	0.14		近世	
SK82	094		不整形	0.67	0.38	0.30	瀬戸瓦器	中～近世	
SK83	094		不整形	0.67	0.38	0.30	中世土器器	中～近世	
SK01	108		楕円形	(0.87)	0.53	0.17		中～近世	
SK02	108		円形	0.31		0.12		中～近世	
SK03	108		楕円形	1.15	0.63	0.10	土器器	中～近世	
SK04	108		楕円形	(0.44)	0.41	0.14	中世土器器	中～近世	
SK05	108		円形	0.45	0.43	0.23		中～近世	
SK06	108		不整形	1.10	(0.47)	0.09	中世土器器	中～近世	
SK07	109		楕円形	1.51	0.78	0.09	中世土器器	中～近世	
SK08	109		楕円形	1.54	0.62	0.28		中～近世	
SK09	109	055-5	楕円形	1.07	(0.46)	0.03	中世土器器	中～近世	
SK10	109	055-5	楕円形	1.32	0.86	0.14		中～近世	

中名 V・VI 遺跡
土坑一墓 (5)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(候補)・m	幅(候補)・m	深さ・m	出土遺物	時期		
F1地区	SK11	109		不整形	1.44	0.80	0.14		中～古墳		
	SK12	109		不整形	1.30	0.85	0.16		中～古墳		
	SK13	109		不整形	0.99	2.44	0.27		中～古墳		
	SK14	109		不整形	1.17	0.50	0.09		中～古墳		
	SK15	109		不整形	0.66	1.49	0.16		中～古墳		
	SK16	110		不整形	0.61	0.65	0.12		中～古墳		
	SK17	110		不整形	2.50	0.87	0.43	中甲土師器	中～古墳		
	SK18	110	059-3		不整形	0.50	0.11	0.11	中甲土師器、越前、青磁	中～古墳	
	SK19	110		円形	0.45	0.42	0.10	中甲土師器	中～古墳		
	SK20	110	059-5		不整形	2.17	0.41	0.32	中甲土師器	中～古墳	
	SK21	110		不整形	2.29	0.17	0.16	中甲土師器	中～古墳		
	SK22	110		不整形	2.36	0.42	0.54	珠洲	中～古墳		
	F2・3地区	SK01	120		不整形	9.00	7.50	0.11	山世土師器、珠洲、八尾、越中瀬川、瓦質土器、磁石、板状木炭	中～古墳	
		SK02	120		不整形	1.47	1.23	0.29	古瓦(1行)	中～古墳	
		SK03	120		楕円形	0.55	0.26	0.31	珠洲	中～古墳	
		SK04	120		円形	0.48	0.47	0.23	中甲土師器、越中瀬川	中～古墳	
		SK05	121	059-1		不整形	5.10	4.13	0.11	中甲土師器、珠洲、越前美濃、磁石、木炭	中～古墳
		SK06	121		円形	1.07	0.98	0.12		中～古墳	
		SK07	121		長楕円形	1.08	0.64	0.18		中～古墳	
		SK08	121		円形	0.30	0.28	0.21		中～古墳	
SK09		121		楕円形	0.32	0.22	0.34		中～古墳		
SK10		121		円形	0.25	0.23	0.20	山世土師器	中～古墳		
SK11		121		楕円長方形	1.22	0.89	0.09		中～古墳		
SK12		122		楕円形	0.80	1.40	0.40	中甲土師器、古鏡	中～古墳		
SK13		122		楕円形	0.90	0.77	0.45		中～古墳		
SK14		122		円形	0.28	0.27	0.24		中～古墳		
SK15		122	059-2		楕円形	0.50	0.40	0.09	山世土師器、珠洲、越前美濃、瓦質土器、磁珠	中～古墳	
SK16		122		不整形	0.75	0.20	0.36	中甲土師器	中～古墳		
SK17		123		楕円形	1.70	1.28	0.26	中甲土師器	中～古墳		
SK18		123		楕円形	2.46	1.32	0.56	青磁、越前、越中瀬川	中～古墳		
SK19		123		不整形	1.55	0.80	0.08	中甲土師器	中～古墳		
SK20		123		楕円形	1.70	4.50	0.49	中甲土師器、珠洲、青	中～古墳		
SK21		123	064-2		不整形	5.96	4.90	0.21	中甲土師器、珠洲、磁石、瓦質土器、越中瀬川	中～古墳	
SK22		123		楕円形	1.62	0.50	0.31	中世土師器	中～古墳		
SK23		124		楕円形	1.38	0.76	0.66		中～古墳		
SK24		124		不整形	1.00	0.78	0.41		中～古墳		
SK25		124		楕円形	1.70	0.80	0.21		中～古墳		
SK26		124	064-4		不整形	5.09	0.50	0.57	中甲土師器、青磁、珠洲、八尾、越中瀬川	中～古墳	
SK27		124	059-1・064-3		不整形	6.50	3.25	0.56	須香器、山世土師器、珠洲、越中瀬川、伊方瓦、土版	中～古墳	
SK28		124		楕円形	0.41	0.21	0.13		中～古墳		
SK29		124		楕円形	0.78	0.53	0.16		中～古墳		
SK30		125		不整形	3.00	0.80	0.18		中～古墳		
SK31		125		楕円長方形	0.90	0.49	0.23		中～古墳		
SK32		125	059-1・064-1		楕円長方形	3.50	4.40	0.24	須香器、珠洲、八尾、青磁、越中瀬川	中～古墳	
SK33		126		不整形	3.15	3.00	0.45	山世土師器、珠洲、八尾、瓦質土器、磁石	中～古墳		
SK34		126		不整形	3.13	1.62	0.12		中～古墳		
SK35		126		楕円形	4.20	3.80	0.31		中～古墳		
SK36		126	059-1・064-5		不整形	7.45	5.00	0.30	中甲土師器、珠洲、越中瀬川、石川陶磁器、瓦質土器、磁	中～古墳	
SK37		127		楕円形	0.51	0.47	0.18	中甲土師器	中～古墳		
SK38		127		楕円形	3.42	1.73	0.19		中～古墳		
SK39		127		長楕円形	2.94	1.08	0.15	中甲土師器	中～古墳		
SK40		127		不整形	1.06	1.04	0.26	中甲土師器	中～古墳		
SK41		127		楕円長方形	1.70	1.13	0.30	中甲土師器、珠洲、青	中～古墳		
SK42		127		楕円形	0.50	0.24	0.20	中甲土師器	中～古墳		
SK43		127		楕円形	0.57	0.46	0.21	越中瀬川	中～古墳		
SK44		127		円形	0.25	0.24	0.32	中甲土師器、中国陶磁器、珠洲	中～古墳		
SK45		127		楕円形	0.65	0.50	0.18		中～古墳		
SK46		127		長楕円形	1.10	0.50	0.19		中～古墳		
SK47		128		楕円形	0.30	0.23	0.26	中甲土師器	中～古墳		
SK48		128		楕円長方形	1.14	0.58	0.11	中甲土師器、越中瀬川	中～古墳		
SK49		128	069-1,2		楕円長方形	1.48	0.84	0.11	中甲土師器	中～古墳	
SK50		128	069-3,4		楕円長方形	1.28	1.68	0.32	中甲土師器、古鏡、釘状鉄製品	中～古墳	
SK51	128		不整形	1.66	1.17	0.15	中甲土師器	中～古墳			
SK52	128		円形	0.57	0.50	0.45	中甲土師器	中～古墳			
SK53	128		楕円形	0.94	0.68	0.12	中甲土師器	中～古墳			
SK54	128		不整形	0.28	0.25	0.30	中甲土師器	中～古墳			
SK55	128		楕円形	0.72	0.45	0.21		中～古墳			
SK56	128		楕円形	0.91	0.78	0.07		中～古墳			
SK57	128		不整形	0.90	0.73	0.19		中～古墳			
SK58	128		不整形	0.82	0.37	0.13	中甲土師器	中～古墳			
SK59	128	069-5		楕円長方形	1.16	1.26	0.28	中甲土師器、磁石	中～古墳		
SK60	128		円形	0.70	0.62	0.14		中～古墳			
SK61	128		不整形	1.18	0.98	0.36	中甲土師器	中～古墳			
SK62	128		不整形	2.63	1.44	0.38	中甲土師器	中～古墳			
SK63	129		不整形	0.82	0.72	0.09		中～古墳			
SK64	129		楕円形	0.63	0.54	0.18	山世土師器	中～古墳			
SK65	129		円形	0.39	0.17	0.17		中～古墳			
SK66	129		楕円形	1.03	0.85	0.17		中～古墳			
SK67	129		不整形	0.96	0.42	0.11		中～古墳			
SK68	129		不整形	1.78	1.10	0.27		中～古墳			
SK69	129		楕円形	2.20	1.68	0.84	山世土師器	中～古墳			
SK70	129		長楕円形	1.44	0.79	0.16		中～古墳			
SK71	129		不整形	1.31	0.52	0.16	山世土師器、磁珠	中～古墳			
SK72	130	069-6		円形	1.45	1.23	0.67	山世土師器、珠洲、土師質土器	中～古墳		
SK73	130		不整形	2.00	0.97	0.40	山世土師器、珠洲	中～古墳			
SK74	130		不整形	0.60	0.37	0.20		中～古墳			

中名V・VI遺跡
土坑一區(6)

地区	遺跡番号	院名番号	写真番号	北方向	長さ(尺部)・m	幅(尺部)・m	高さ・m	出土遺物	時期	
F2・3地区	SK75	130		不整形	2.93	2.03	0.27	中世土器類	中～近世	
	SK76	130		楕円形	(1.74)	1.32	0.49	中世土器類	中～近世	
	SK77	130	065-7	楕円形	1.03	0.73	0.13		中～近世	
	SK78	130		不整形	1.64	(1.43)	0.30		中～近世	
	SK79	130		楕円形	(0.52)	0.36	0.17		中～近世	
	SK80	130		円形	0.29		0.13	中世土器類	中～近世	
	SK81	130		円形	0.58	0.26	0.22	中世土器類	中～近世	
	SK82	130		楕円形	1.87	1.07	0.08	中世土器類	中～近世	
	SK83	131		不整形	0.96	0.70	0.14	中世土器類、漆器残片	中～近世	
	SK84	131		楕円形	0.78	(0.53)	0.23		中～近世	
	SK85	131		不整形	3.39	(3.00)	0.35	中世土器類、漆器、茅葺	中～近世	
	SK86	131		円形	0.20	0.26	0.15		中～近世	
	SK87	131		楕円形	1.33	0.73	0.24		中～近世	
	SK88	131		楕円形	1.42	0.83	0.30		中～近世	
	SK89	131		不整形	1.50	1.33	0.84		中～近世	
	SK90	131		不整形	1.24	1.06	0.50		中～近世	
	A地区	SK001	142		楕円形	2.70	1.90	0.27	須磨器、土師器、黒色土器	古代
		SK002	142		不整形	2.36	(1.19)	0.28	須磨器、土師器、黒色土器	古代
		SK003	145	071 4 + 081 1	楕円形	(4.54)	2.92	0.29	土師器	古代
SK004		143		不整形	1.91	0.32	0.22	土師器、製煉土器	古代	
SK005		143		不整形	1.22	0.78	0.29	土師器	古代	
SK006		143		円形	0.50		0.25		古代	
SK007		143		楕円形	0.79	0.53	0.27		古代	
SK008		143		円形	0.36	0.35	0.17	土師器	古代	
SK009		143		楕円形	0.28	0.23	0.26	土師器	古代	
SK010		163	079-1	不整形	4.83	(2.30)	0.43	加工木、漆、漆器、中世土器類、瓦葺	中世	
SK011		163		不整形	0.46	0.36	0.18		中世	
SK012		163	079-2	楕円形	3.46	(2.17)	0.21	須磨器、漆器	中世	
SK013		163	079 2	不整形	2.69	0.89	0.24		中世	
SK014		163		不整形	3.60	1.91	0.10		中世	
SK015		164・165		不整形	4.52	(2.43)	0.58	中世土器類、銅鏡、陶材	中世	
SK016		164・165		不整形	3.90	(0.80)	0.49	須磨器、漆	中世	
SK017		165		楕円形	2.23	1.08	0.22	土師器	中世	
SK018		165		不整形	1.80	(0.43)	0.21		中世	
SK019		165		不整形	1.87	0.57	0.18	土師器	中世	
SK020		165		不整形	(4.74)	0.82	0.27		中世	
SK021		165		不整形	2.44	0.55	0.23		中世	
SK022		165		不整形	2.42	1.40	0.17		中世	
SK023		166		楕円形	1.64	1.51	0.08		中世	
SK024		166		不整形	2.80	2.07	0.30	土師器、土製品	中世	
SK025		166		円形	0.33	0.51	0.17	須磨土器、土師器	中世	
SK026		166		不整形	0.90	(0.50)	0.17	土師器	中世	
SK027		166		楕円形	0.84	0.70	0.18	土師器	中世	
SK028		166	071 5	円形	0.35	0.24	0.19		中世	
SK029		166		楕円形	0.36	0.31	0.12		中世	
SK030		166		楕円形	1.09	0.65	0.38	土師器	中世	
SK031		166		円形	0.44		0.22	土師器	中世	
SK032		166		楕円形	0.90	0.59	0.17		中世	
SK033		166		楕円形	0.65	0.42	0.25	土師器	中世	
SK034		166		楕円形	0.22	0.17	0.07	土師器	中世	
SK035		166		不整形	(1.21)	0.47	0.16	須磨器、土師器	中世	
SK036		166		不整形	1.29	0.72	0.16	土師器	中世	
SK037		166		楕円形	1.30	1.02	0.11	土師器	中世	
SK038		167	080-2	不整形	2.56	2.13	0.20	土師器、八咫	中世	
SK039		167		楕円形	0.34	0.28	0.13		中世	
SK040		167		楕円形	1.11	0.97	0.24	須磨器、土師器	中世	
SK041		167		楕円形	0.32	0.22	0.14	須磨器	中世	
SK042		167		楕円形	(0.31)	0.14	0.15	土師器	中世	
SK043		167		楕円形	0.30	0.27	0.19		中世	
SK044		167		楕円形	0.80	0.58	0.39		中世	
SK045		167		円形	0.29	0.27	0.20		中世	
SK046		167		円形	0.35		0.28	土師器	中世	
SK047		167		不整形	0.88	(0.48)	0.14	須磨器	中世	
SK048		168		楕円形	1.53	1.33	0.17		中世	
SK049		168		不整形	1.20	0.77	0.11		中世	
SK050		168		不整形	(1.22)	0.40	0.06		中世	
SK051		168		楕円形	0.84	0.71	0.06	須磨器、土師器、中世土器類	中世	
SK052		168		円形	0.96	0.87	0.17	須磨器	中世	
SK053		168		円形	0.30		0.14	須磨器	中世	
SK054	168		円形	0.35	0.21	0.06	土師器	中世		
SK055	168		楕円形	1.29	0.56	0.09		中世		
SK056	168		円形	0.20	0.19	0.09		中世		
SK057	168		楕円形	0.31	0.34	0.15	土師器	中世		
SK058	168		不整形	1.28	(0.97)	0.32		中世		
SK059	168		円形	0.27		0.11	須磨器、漆器	中世		
SK060	168		不整形	2.21	1.56	0.15	須磨器、土師器	中世		
SK061	169		楕円形	1.27	1.10	0.14	須磨器、土師器	中世		
SK062	169		楕円形	1.54	0.80	0.25		中世		
SK063	169	080-3	楕円形	3.18	2.76	0.17	須磨土器、土師器、中世土器類、漆器	中世		
SK064	169		不整形	2.81	0.60	0.19	須磨器、土師器、中世土器類、漆器	中世		
SK065	169		楕円形	0.20	(0.23)	0.13		中世		
SK066	169		楕円形	0.89	0.42	0.12	土師器	中世		
SK067	169		楕円形	0.71	0.67	0.17	須磨器	中世		
SK068	169		円形	0.34	0.34	0.10	須磨器	中世		
SK069	169		楕円形	0.47	0.32	0.15		中世		
SK070	169		楕円形	0.36	0.29	0.11	須磨器、須磨土製品	中世		
SK071	169		楕円形	0.42	0.36	0.09	須磨器	中世		
SK072	170		楕円形	0.47	0.37	0.20	須磨器、中世土器類	中世		
SK073	170	080 4	不整形	2.11	0.27	0.14	土師器	中世		
SK074	170		楕円形	0.56	0.45	0.15	土師器	中世		
SK075	170		不整形	2.34	(2.00)	0.20	須磨器、漆器	中世		

中名 V・VI遺跡
上表一覽(7)

地区	遺跡番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	高さ・m	出土遺物	時期
A地区	SK073	170		隅丸方形	1.06	0.73	0.16		中世
	SK077	170		楕円形	0.21	0.17	0.18		中世
	SK078	170		楕円形	0.53	0.44	0.12		中世
	SK079	170		楕円形	1.31	1.09	0.27		中世
	SK080	170		楕円形	1.85	0.65	0.10	須石器、土師器	中世
	SK081	170		楕円形	0.35	0.28	0.13		中世
	SK082	170		楕円形	3.21	1.79	0.15		中世
	SK083	171		楕円形	0.39	0.18		土師器	中世
	SK084	171		楕円形	1.12	0.83	0.53	須石器	中世
	SK085	171		楕円形	0.81	0.60	0.22		中世
	NK086	171		不整形	0.24	(0.10)	0.27		中世
	SK087	171		楕円形	0.32	0.22	0.15	土師器	中世
	SK088	171		円形	0.23	0.22	0.11		中世
	SK089	171		長楕円形	1.36	0.54	0.10	土師器	中世
	SK090	172		楕円形	0.44	0.51	0.27	土師器、中世土師器	中世
	SK091	171		楕円形	0.26	0.21	0.12		中世
	SK092	171		楕円形	0.58	0.32	0.09	中世土師器	中世
	SK093	171		楕円形	0.28	0.25	0.13	土師器、中世土師器	中世
	SK094	171	080-5	不整形	0.96	0.71	0.24	須石器、土師器	中世
	SK095	171		楕円形	0.90	0.40	0.16	土師器	中世
	SK096	171		楕円形	0.70	0.33	0.90	土師器	中世
	SK097	171		円形	0.23	0.23	0.13		中世
	SK098	171		楕円形	0.29	0.24	0.25	土師器	古墳
	SK099	171		楕円形	0.38	0.33	0.28		中世
	SK100	171		不整形	(0.88)	0.73	0.03		中世
	SK101	171		楕円形	2.16	1.21	0.11		中世
	SK102	172	081-1	不整形	0.71	0.61	0.19	土師器	中世
	SK103	172		不整形	1.11	0.81	0.11	須石器、土師器	中世
	SK104	172		円形	0.20		0.09	須石器	中世
	SK105	172		楕円形	0.25	0.22	0.09	須石器	古墳
	SK106	172		楕円形	0.31	(0.27)	0.22	須石器、中世土師器	中世
	SK107	172		不整形	2.11	1.20	0.32	須石器	中世
	SK108	172	081-2	不整形	2.47	(1.88)	0.43	土師器、中世土師器	中世
	NK109	172		不整形	(2.14)	1.86	0.17	須石器	中世
	SK110	172		隅丸方形	1.35	0.49	0.23		古墳
	SK111	172		隅丸方形	1.61	0.74	0.33	須石器、土師器、中世土師器	中世
	SK112	172		楕円形	0.25	0.26	0.18		中世
	SK113	172		隅丸長方形	2.04	0.63	0.10		中世
	SK114	172		楕円形	0.46	0.38	0.11	青磁、木製器	中世
	SK115	172		楕円形	0.38	0.25	0.11	粘土	中世
	SK116	172		隅丸方形	1.39	1.35	0.31		中世
	SK117	173		不整形	1.89	1.41	0.28	須石器、青磁	中世
	NK118	173		不整形	2.59	2.17	0.36	須石器、中世土師器	中世
	NK119	173		不整形	1.99	(0.89)	0.10		中世
	SK120	173		不整形	1.75	(1.10)	0.10		中世
SK121	173	081-3,4	楕円形	1.00	0.60	0.36	下駄	中世	
SK122	173		円形	0.43	0.42	0.10	埴輪	中世	
SK123	173		不整形	1.47	(1.00)	0.12		中世	
SK124	173		楕円形	1.10	0.30	0.12		中世	
SK125	173		長楕円形	1.77	0.61	0.17	中世土師器	中世	
SK126	173		不整形	(0.49)	0.42	0.13	下駄、須石器	中世	
NK127	174		不整形	1.13	0.63	0.19	須石器、土師器	中世	
SK128	174		隅丸方形	1.38	0.38	0.16		中世	
SK129	174		隅丸長方形	1.40	0.38	0.21		中世	
SK130	174		隅丸長方形	1.62	0.96	0.15		中世	
SK131	174		不整形	1.18	1.08	0.21	中世土師器	中世	
SK132	174		楕円形	0.94	0.49	0.27	円形器	中世	
SK133	174	081-5,6	円形	1.65	1.25	0.17	下駄、須石器	中世	
SK134	174	082-1	楕円形	2.07	1.37	0.37	須石器、中世土師器、棒状木製器、家伏木製器	中世	
SK135	174	082-1	不整形	3.23	2.02	0.18	中世土師器、埴輪	中世	
NK136	174		楕円形	2.45	2.09	0.72	埴石	中世	
NK137	175		長楕円形	2.81	0.53	0.09		中世	
SK138	175		長楕円形	3.15	0.33	0.12		中世	
SK139	175		長楕円形	4.61	0.59	0.17		中世	
SK140	175		長楕円形	4.27	0.51	0.14		中世	
SK141	175		長楕円形	4.11	0.50	0.15		中世	
SK142	175		長楕円形	3.32	0.74	0.16		中世	
SK143	165		不整形	0.26	(0.09)	0.12		古墳	
SK001	198		不整形	(1.76)	(1.45)	0.12	土師器	古代	
SK002	198		隅丸方形	(1.84)	1.78	0.15	土師器、須石器	古代	
SK003	198		隅丸方形	(1.85)	(1.05)	0.07	土師器	古代	
SK004	199		隅丸方形	2.18	(1.50)	0.11	土師器、須石器	古代	
SK005	199		不整形	1.27	1.25	0.13		古代	
SK006	199		楕円形	0.80	0.56	0.16	土師器	古代	
SK007	199		円形	0.42	0.36	0.03	土師器	古代	
SK008	199		楕円形	1.23	0.70	0.08	土師器	古代	
SK009	199		楕円形	1.68	1.36	0.06		古代	
SK010	199		不整形	1.70	1.49	0.11		古代	
SK011	199		円形	0.15	0.18	0.13	土師器	古代	
SK012	199		円形	0.66	0.33	0.06	土師器	古代	
SK013	199		円形	0.57	0.52	0.13	須石器、須石器	古代	
SK014	199		不整形	(1.86)	(1.27)	0.08		古代	
NK015	199	092-4	隅丸方形	1.16	0.71	0.18	土師器、須石器	古代	
NK016	200	092-5	不整形	0.80	0.62	0.17	土師器、須石器	古代	
SK017	200		楕円形	1.24	1.20	0.12	土師器、須石器	古代	
SK018	200		円形	0.35	0.34	0.06	土師器	古代	
SK019	200		円形	0.30	0.28	0.09		古代	
SK020	200		円形	0.45	0.42	0.20	須石器、中世土師器	古代	
SK021	200	092-6	円形	0.31	0.49	0.09	土師器、須石器	古代	

中名V・VI遺跡

土坑一號(8)

地区	遺跡番号	図面番号	写真番号	平面形状	長さ(長さ)・m	幅(深さ)・m	深さ・m	出土遺物	時期
B・C地区	SK022	200		円形	0.30	0.04	0.04	土師器	古代
	SK022	200		楕円形	0.66	0.06	0.04	須恵器	古代
	SK024	200	092-7	楕円形	0.90	0.27	0.06	土師器、須恵器	古代
	SK025	200		楕円形	1.05	0.56	0.08		古代
	SK026	200		円形	0.86	(0.29)	0.05	土師器	古代
	SK027	200		円形	0.47	0.19	0.06	土師器	古代
	SK028	200		円形	(0.24)	0.24	0.03	須恵器	古代
	SK029	200		円形	0.46	0.26	0.06	土師器	古代
	SK030	200		円形	0.22	0.20	0.03	須恵器	古代
	SK031	200	092-8	円形	0.62	0.52	0.04	須恵器	古代
	SK032	200		楕円形	0.38	(0.30)	0.03		古代
	SK035	200		隅丸方形	0.82	(0.69)	0.04		古代
	SK034	200		円形	0.42	0.20	0.20	土師器	古代
	SK035	200		円形	0.50	0.37	0.09	土師器	古代
	SK036	201		不整形	1.40	1.30	0.37	土師器	古代
	SK037	201		楕円形	(1.10)	0.86	0.33	土師器、須恵器	古代
	SK038	201		円形	0.92	0.87	0.05	土師器	古代
	SK039	201		楕円形	1.23	0.96	0.13	須恵器	古代
	SK040	201		円形	1.00	0.90	0.17	土師器	古代
	SK041	201	092-3	円形	0.27	0.25	0.12		古代
	SK042	201		円形	0.35	0.25	0.10	土師器	古代
	SK043	201		円形	0.25	0.20	0.07	土師器	古代
	SK044	210		円形	1.20	(1.06)	0.18		中世
	SK045	210		楕円形	0.96	0.76	0.07	中世土師器	中世
	SK046	210		不整形	0.71	(0.53)	0.09		中世
	SK047	210	098-7	円形	2.36	2.16	0.17	漆器	中世
	SK048	210	100-5	隅丸方形	2.90	1.86	0.09	中世土師器	中世
	SK049	210	098-8	隅丸方形	3.15	1.63	0.27	須恵器、中世土師器	中世
	SK050	210	100-4	楕円形	(1.82)	1.63	0.15	土師器、須恵器	中世
	SK051	211		円形	(0.75)	0.62	0.18	須恵器、中世土師器、漆器、下駄	中世
	SK052	211		円形	0.42	0.37	0.17		中世
	SK053	211		円形	0.28	0.35	0.18	漆器	中世
	SK054	211		円形	0.31	0.39	0.19	土師器	中世
	SK056	211		隅丸方形	0.70	0.50	0.11	土師器、中世土師器	中世
	SK056	211		円形	0.40	0.21	0.11		中世
	SK057	211		円形	0.25	0.30	0.17	土師器	中世
	SK058	211		円形	0.31	0.34	0.07	土師器	中世
	SK059	211		楕円形	(0.67)	0.32	0.14	土師器	中世
	SK060	211		楕円形	0.58	0.44	0.09		中世
	SK061	211		楕円形	0.40	0.32	0.07	中世土師器	中世
	SK062	211		楕円形	1.43	0.62	0.44	中世土師器	中世
	SK063	211		楕円形	1.38	(0.29)	0.09	土師器	中世
	SK064	211		隅丸方形	1.20	(0.64)	0.06		中世
	SK065	211		楕円形	0.65	0.49	0.16		中世
	SK066	211		円形	0.37	0.38	0.13		中世
	SK067	211		隅丸方形	1.12	(0.73)	0.12	中世土師器	中世
	SK068	211		隅丸方形	0.67	(0.39)	0.02	土師器	中世
	SK069	211		隅丸方形	1.77	(1.39)	0.31	土師器、須恵器	中世
	SK070	212		隅丸方形	1.42	0.85	0.19	中世土師器、加工材	中世
	SK071	212	099-1,2	隅丸方形	2.40	2.00	0.24	須恵器、土師器、中世土師器、白磁、黄磁、黒中土師器、加工材	中世
	SK072	212		隅丸長方形	2.50	1.85	0.16	土師器、中世土師器、須恵器	中世
	SK073	212		楕円形	1.65	(0.96)	0.37	土師器、中世土師器、柱形、漆器木製品、漆	中世
	SK074	212		不整形	0.65	(0.45)	0.32	土師器	中世
	SK075	212		不整形	(0.94)	(0.64)	0.15	土師器、中世土師器、近世陶磁器	中世
	SK076	212		不整形	0.38	0.32	0.16	中世土師器	中世
	SK077	212		隅丸方形	0.63	0.43	0.18	土師器	中世
	SK078	212		円形	0.45	0.42	0.25	土師器、中世土師器	中世
	SK079	212		円形	0.31	0.24	0.15	中世土師器	中世
	SK080	212		楕円形	0.95	0.44	0.39	土師器、中世土師器	中世
	SK081	212		不整形	0.76	0.57	0.35	土師器、中世土師器	中世
	SK082	212		円形	0.48	0.30	0.35	土師器	中世
	SK083	212		隅丸方形	0.62	0.53	0.25	加工材	中世
	SK084	212		楕円形	0.50	0.35	0.13	土師器	中世
	SK085	212		円形	0.25	0.24	0.24	土師器	中世
	SK086	212		楕円形	0.25	0.20	0.08	中世土師器	中世
	SK087	212		楕円形	0.49	0.28	0.32	土師器	中世
	SK088	212		楕円形	0.35	0.30	0.04	土師器	中世
	SK089	212		円形	0.36	0.36	0.09	土師器	中世
	SK090	212		楕円形	0.23	0.15	0.08	土師器	中世
	SK091	212		円形	0.22	0.23	0.05	土師器	中世
	SK092	212		円形	0.36	0.30	0.05	須恵器	中世
	SK093	213		円形	0.96	0.34	0.37	中世土師器	中世
	SK094	213		楕円形	(0.85)	0.38	0.30	土師器、須恵器、中世土師器、漆器	中世
	SK095	213		円形	0.30	0.25	0.20	中世土師器	中世
	SK096	213		不整形	(0.49)	0.50	0.17	土師器	中世
	SK097	213		円形	0.65	0.15	0.15	中世土師器	中世
	SK098	213		円形	0.40	0.34	0.32	土師器	中世
	SK099	213		円形	0.42	0.34	0.06	土師器	中世
	SK100	213		円形	0.32	0.50	0.16	中世土師器	中世
	SK101	213		楕円形	1.20	0.60	0.13	中世土師器	中世
	SK102	213	100-1,2	隅丸方形	2.90	2.50	0.06	土師器、須恵器、中世土師器、漆器、鉄器、鏡類、土器	中世
	SK103	213	100-5	隅丸方形	2.30	(1.65)	0.32	土師器、須恵器、中世土師器、漆器	中世
	SK104	214		楕円形	0.47	0.50	0.20	土師器	中世
	SK105	214		円形	0.35	0.45	0.25	中世土師器、漆器	中世
	SK106	214		楕円形	2.41	0.65	0.14	土師器	中世
	SK107	214		円形	0.36	0.36	0.07	土師器	中世
	SK108	214		楕円形	0.65	0.33	0.08	土師器	中世

中名V・VI遺跡
土坑一覧(9)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
B・C地区	SK109	211		円形	0.33	0.33	0.23	土師器	中世
	SK110	211		円形	0.46	0.40	0.17	中世土師器、神杖木製品	中世
	SK111	211		楕円形	0.49	0.37	0.17		中世
	SK112	211		楕円形	2.95	1.20	0.24	土師器、中世土師器、珠洲、磁石	中世
	SK113	214		円形	0.42	0.38	0.16	土師器	中世
	SK114	214		楕円形	1.34	0.92	0.18	土師器	中世
	SK115	214		不整形	1.25	0.94	0.21	土師器、須恵器、中世土師器	中世
	SK116	215		楕円形	2.95	(1.13)	0.27	土師器、須恵器	中世
	SK117	215		楕円形	1.65	(0.50)	0.12		中世
	SK118	215		不整形	(1.71)	(0.60)	0.18		中世
	SK119	215		楕円形	2.85	(0.32)	0.12	中世土師器、珠洲	中世
	SK120	215	101-1	楕円形	2.65	2.06	0.19	土師器、須恵器、中世土師器	中世
	SK121	216		円形	0.31	0.28	0.15	磁石	中世
	SK122	216		円形	0.26	0.22	0.07		中世
	SK123	216		楕円形	0.68	0.55	0.14		中世
	SK124	216		円形	0.33	0.32	0.09	中世土師器	中世
	SK125	216		円形	0.20		0.08	中世土師器	中世
	SK126	216		楕円形	1.29	(1.21)	0.15	米俵、加工木	中世
	SK127	216		不整形	1.60	1.13	0.15	中世土師器	中世
	SK128	216		楕円形	1.52	1.17	0.32	中世土師器	中世
	SK129	216		円形	0.31	0.30	0.07	中世土師器	中世
	SK130	216		楕円形	0.46	0.43	0.15	中世土師器	中世
	SK131	216		楕円形	0.45	0.30	0.11	中世土師器	中世
	SK132	224		楕円形	1.50	0.40	(0.20)	中世土師器	近世
	SK133	224		楕円形	1.77	1.40	0.13	土師器、珠洲	近世
	SK134	224		楕円形	1.52	0.87	0.16	土師器	近世
	SK135	224		楕円形	0.92	0.88	0.17	土師器、須恵器	近世
	SK136	224		楕円形	1.00	0.73	0.11	土師器、中世土師器、珠洲	近世
	SK137	224		楕円形	1.50	0.56	0.11	土師器、中世土師器	近世
	SK138	224		楕円形	1.25	0.76	0.10	土師器、須恵器	近世
	SK139	224		不整形	2.00	1.32	0.13	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲	近世
	SK140	224		楕円形	2.52	0.83	0.13	土師器、須恵器、中世土師器	近世
	SK141	224		楕円形	2.70	1.93	0.16	土師器、須恵器、中世土師器	近世
SK142	223		不整形	2.05	1.10	0.65		中世	
SK143	198	087-2・092-2不明		(1.20)	(1.75)	0.28	土師器	古代	

その他の遺構一覧

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	遺構種類	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
BS地区	SK01	018	05-1	道路状遺構	不整形	-	-	0.24	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、八咫、常滑、白磁、青磁、越中瀬戸、美濃、伊万里、石鉢、伊賀、越中丸山、土製品、銅銭	中～近世
	SK02	018		貝の遺構	楕円形					中～近世
	SK03	018	07-1～4	貝の遺構	楕円長方形	7.65	3.20	0.30		土師器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、磁石、杖俵、柱材、舟形、漆器
D1・2地区	SK01	089		不明	不整形	-	-	1.13	須恵器	古代
	SK02	046		祭祀					中世土師器	中世
	SK03	046		土師器	楕円形	1.41	0.51	0.26	中世土師器	中世
DO地区	SK01	060・076	029-1,2	水田り開溝遺構	□の字型	6.20	(1.88)			中～近世
	SK02	076		石列	長楕円形	2.66	0.83	0.18		中～近世
	SK03	076		石列	長楕円形	1.60	0.34	0.23		中～近世
E1・2地区	SK01	099		地状遺構	不整形	(10.80)	7.05	0.50	須恵器、中世土師器、瀬戸美濃、越中瀬戸、黄埴、伊万里、越中丸山、五戸陶磁器、石製品、下駄、円形板	近世
	SK02	099	031-2	石列	不整形	2.48	0.83	0.72		近世
	SK03	099	031-1	石列	長方形	11.5	(1.60)	0.54		近世
	SK04	100	032-2	耕跡	丁字状	22.00	0.90	-		近世～近代
	SK05	100		耕跡	不整形	(11.10)	0.50	-		近世～近代
	SK06	100		耕跡	不整形	(12.50)	0.50	0.11		近世～近代
	SK07	100		耕跡	直線状	(6.15)	0.60	0.06		近世～近代
	SK08	100	032-4	耕跡	丁字状	(18.40)	0.80	0.12		近世～近代
SK09	100	032-3	耕跡	丁字状	(18.90)	0.91	0.12		近世～近代	
A地区	SK01	177・178	081 8・082-2・083 1,2・084-1～3	排水用遺構	不整形	14.90	4.20	1.58 (高)	構築材料	中世

中名V・VI遺跡
柱次一覧(1)

地区	遺構番号	掘立地	図記番号	写真番号	平面形	長さ(奥行)・m	幅(高さ)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1地区	SP01	SB01	006		楕円形	1.14	0.61	0.39	土師器、須恵器	中一古墳
	SP02	SB01	008・010		楕円形	(0.89)	0.34	0.29	須恵器	中一古墳
	SP03	SB01	006		円形	(0.69)	(0.69)	0.29		中一古墳
	SP04	SB01	006		楕円形	0.65	(0.30)	0.17		中一古墳
	SP05	SB02	006		楕円形	0.56	(0.27)	0.14		中一古墳
	SP06	SB02	006		楕円形	0.33	(0.30)	0.14		中一古墳
	SP07	SB02	006		円形	(0.25)	(0.24)	0.12		中一古墳
	SP08	SB02	006		円形	0.17	0.15	0.12		中一古墳
	SP09	SB02	006		円形			0.40		中一古墳
	SP10	SB03	006		楕円形	(0.38)	0.28	0.13	土師器	中一古墳
	SP11	SB03	06		円形	0.38	0.27	0.24		中一古墳
	SP12	SB03	006		円形	0.17		0.14		中一古墳
	SP13	SB03・04	006		楕円方形	0.34	0.19	0.02	土師器、須恵器	中一古墳
	SP14	SB03・01	006		円形	0.30	0.25	0.27		中一古墳
	SP15	SD01	006		円形	0.49	0.32	0.39		中一古墳
	SP16	SD01	006		不整形	(0.58)	0.37	0.11	中世土師器	中一古墳
	SP17	SD05	006		円形	0.21	0.13	0.14		中一古墳
	SP18	SD01	006		楕円形	0.27	0.60	0.29	土師器	中一古墳
B5地区	BP01	SB01	016	05-2	円形	0.48	0.49	0.07		中一古墳
	BP02	SD01	016	05-2	円形	0.40	0.35	0.10		中一古墳
	BP03	SB01	016	05-2	円形	0.28	0.24	0.10		中一古墳
	BP04	SB02	018		円形	1.10	0.97	0.34		中一古墳
	BP05	SB02	018		円形	1.09	1.05	0.41		中一古墳
	BP01	SD04	032		円形	0.58	0.35	0.08		古代
	BP02	SD04	032		円形	0.45	0.38	0.05		古代
	BP03	SD01	033		楕円形	0.85	0.60	0.20		古代
	BP04	SD01	034		楕円形	0.80	0.75	0.23		古代
	BP05	SD01	034		楕円形	0.80	0.74	0.23		古代
	BP06	SD01	031・036		楕円形	1.08	0.86	0.33	土師器	古代
	BP07	SD01	031		楕円形	0.95	0.75	0.23		古代
BP08	SD01	031		楕円形	0.68	0.55	0.23		古代	
BP09	SD01	031		円形	0.47	0.45	0.22	土師器、埴輪金類製品	古代	
BP10	SB02・03	031		不整形	1.00	0.80	0.26		古代	
BP11	SB02・03	031		不整形	0.70	0.60	0.40		古代	
BP12	SB02	031		円形	0.4	0.75	0.60	土師器、須恵器	古代	
BP13	SB02	031		楕円形	0.80	0.65	0.37	土師器	古代	
BP14	SB02	031		楕円形	1.07	0.90	0.56	土師器	古代	
BP15	SB02	031		円形	0.40	0.70	0.40	土師器	古代	
BP16	SB02・03	031		不整形	1.17	0.92	0.51	土師器	古代	
BP17	SD02	031		不整形	1.09	0.92	0.51	土師器	古代	
BP18	SB02	031		円形	0.83	0.82	0.36	土師器、須恵器	古代	
BP19	SD01	031		楕円形	0.96	0.89	0.42		古代	
BP20	SD03	031		楕円形	0.83	0.70	0.57	土師器	古代	
BP21	SD03	031		円形	0.75		0.32	須恵器	古代	
BP22	SD03	031		円形	0.72		0.32	土師器、須恵器	古代	
BP23	SD03	031		楕円形	0.60	0.50	0.36		古代	
BP24	SD03	031・036		楕円形	0.85	0.80	0.50		古代	
BP25	SD03	031		楕円形	0.80	(0.66)	0.43	須恵器	古代	
BP26	SD03	031・036		円形	0.53	0.46	0.35	須恵器	古代	
BP27	SD04	040・041		楕円形	0.42	0.31	0.13		中世	
BP28	SD04	040・041		円形	0.31	0.15	0.17		中世	
BP29	SD04	040・041		円形	0.45	0.40	0.26		中世	
BP30	SD04	040・041		楕円形	0.40	0.25	0.21	中世土師器	中世	
BP31	SD04	040・041		円形	0.35	0.30	0.33		中世	
BP32	SD04	040・041		円形	0.45	0.35	0.12		中世	
BP33	SD04	040・041		円形	0.80	0.35	0.25	中世土師器	中世	
BP34	SD04	040・041		円形	0.45	0.35	0.23	中世土師器	中世	
BP35	SD04	040・041		円形	0.35	0.35	0.26	古銅	中世	
BP36	SD04	040・041		円形	0.40	0.38	0.15		中世	
BP37	SD04	040・041		円形	0.40	0.30	0.10	瀬戸瓦葺	中世	
BP38	SD04	040・041		円形	0.45		0.13		中世	
BP39	SD04	040・041		円形	0.50	0.40	0.12	中世土師器	中世	
BP40	SD04	040・041		円形	0.60	0.33	0.31		中世	
BP41	SD05	040・041		円形	0.65	0.50	0.40		中世	
BP42	SD06	040・041		楕円形	1.00	0.70	0.43		中世	
BP43	SD06	040・041		円形	0.75	0.70	0.35	土師器、須恵器、中世土師器、瀬戸、八咫	中世	
BP44	SD06	040・041		円形	0.43	(0.39)	0.27		中世	
BP45	SD06	040・041		円形	0.46	0.44	0.23		中世	
BP46	SD06	040・041		楕円形	(0.60)	0.50	0.50		中世	
BP47	SD06	040・041		円形	(0.30)	0.33	0.47		中世	
BP48	SD04	040・041		円形	0.80		0.35		中世	
BP49	SD03	042		円形	0.22	0.31	0.05		中世	
BP50	SD03	042		円形	0.22	0.21	0.10		中世	
BP51	SD03	042		楕円形	0.38	0.32	0.08		中世	
BP52	SD03	042		円形	0.32	0.28	0.14		中世	
L5地区	SP01	SD01	061	027-1.2	円形	0.25	0.23	0.10	瓦葺	中世
	SP02	SD01	061	027-1.2	楕円形	0.33	0.28	0.10		中世
	SP03	SD01	061	027-1.2	長楕円形	0.64	0.33	0.30		中世
	SP04	SD01	061	027-1.2	不整形	0.53	0.30	0.35		中世
	SP05	SD01	061	027-1.2	楕円形	0.57	0.33	0.28		中世
	SP06	SD02	061	029-1	楕円形	0.32	0.33	0.08		中世
	SP07	SD02	061	029-2	円形	0.30	0.28	0.07		中世
	SP08	SD02	061	029-2	円形	0.27	0.23	0.11		中世
	SP09	SD02	061	029-2	不整形	0.30	0.27	0.12		中世
	SP10	SD03	061	027-1	円形	0.50	0.43	0.30		中世
	SP11	SD03	061	027-1	円形	0.35	0.30	0.11	瓦葺	中世
	SP12	SD03	061	027-1	長楕円形	0.44	0.28	0.24		中世
	SP13	SD03	061	027-1	楕円形	0.41	0.33	0.06		中世

中名V・VI遺跡
柱状一覧(2)

地区 TAXID	遺構番号	別号No.	BSID番号	写真番号	平面形	長さ(直径)・m	幅(高さ)・m	厚さ・m	出土遺物	時期
F1・2地区	SP14	SB04	070	034-2 035-1,2	不整形	0.61	0.45	0.11		中～近世
	SP15	SB04	070	034-2 035-1,3	不整形	1.02	0.72	0.14		中～近世
	SP16	SB04	070	034-2 035-1,4	不整形	0.81	0.68	0.14		中～近世
	SP17		066	031-1	楕円形	0.43	(0.35)	(0.35)	鉄鏝	中世
	SP18		075		楕円形	0.38	(0.26)	0.12	土甕	中～近世
	SP19		075		円形	0.45	0.38	0.32	中世土甕、磁器	中～近世
	SP01	SB01	080・083		楕円形	0.54	0.44	0.30		中～近世
	SP02	SB01	080・083		円形	0.32	0.30	0.10		中～近世
	SP03	SB01	080・083		楕円形	0.40	0.30	0.08		中～近世
	SP04	SB01	080・083		長楕円形	1.19	0.69	0.50		中～近世
	SP05	SB01	080・083		楕円形	0.29	0.22	0.18		中～近世
	SP06	SB01	080・083		楕円形	0.49	0.38	0.15		中～近世
	SP07	SB01	080・083		円形	0.30	0.26	0.12		中～近世
	SP08	SB01	080・083		楕円形	0.75	0.60	0.25		中～近世
	SP09	SB01	080・083		楕円形	0.52	0.35	0.18		中～近世
SP10	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.25	0.19	0.13		中～近世	
SP11	SB02	080・083	044-1	不整形	0.79	0.50	0.07		中～近世	
SP12	SB02	080・083 065	044-1	楕円形	0.54	0.32	0.09	中世土甕	中～近世	
SP13	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.98	0.73	0.57		中～近世	
SP14	SB02	080・083	044-1	不整形	0.80	0.43	0.19		中～近世	
SP15	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.59	0.52	0.50		中～近世	
SP16	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.65	0.52	0.11		中～近世	
SP17	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.82	0.72	0.22		中～近世	
SP18	SB02	080・083	044-1	不整形	0.26	0.24	0.09		中～近世	
SP19	SB02	080・083	044-1	楕円形	0.68	0.53	0.30		中～近世	
SP20	SB03	081・083	044-2	円形	0.20	0.20	0.19		中～近世	
SP21	SB03	081・083	044-2	円形	0.29	0.28	0.12		中～近世	
SP22	SB03	081・083	044-2	楕円形	0.60	0.52	0.20		中～近世	
SP23	SB03	081・083	044-2	楕円形	0.62	0.37	0.15		中～近世	
SP24	SB03	081・083	044-2	楕円形	0.66	0.60	0.16		中～近世	
SP25	SB04	081・082		楕円形	0.74	0.46	0.28	磁器	中～近世	
SP26	SB04	081・082		楕円形	0.71	0.46	0.23		中～近世	
SP27	SB04	081・082		楕円形	0.63	0.30	0.09		中世土甕、磁器、加工木	
SP28	SB04	081・082		円形	0.62	0.26	0.19		中～近世	
SP29	SB04	081・082		楕円形	0.43	0.38	0.23		中～近世	
SP30	SB05	081・083		楕円形	1.28	1.08	0.45	伊万草	中～近世	
SP31	SB05	081・083		楕円形	1.50	0.80	0.43	中世土甕、磁器、加工木	中～近世	
SP32	SB05	081・083		楕円形	1.45	1.10	0.29	中世土甕	中～近世	
SP33	SB06	082・084		不整形	1.50	1.20	0.29		中～近世	
SP34	SB06	082・084		楕円形	0.82	0.66	0.30		中～近世	
SP35	SB06	082・084		不整形	0.87	0.65	0.37		中～近世	
SP36	SB06	082・084		楕円形	0.93	0.92	0.36		中世土甕、磁器、磁石	
SP37	SB06	082・084		楕円形	1.04	0.85	0.23		中～近世	
SP38	SB06	082・084		楕円形	1.13	0.43	0.37		中～近世	
SP39	SB06	082・084		不整形	0.93	0.75	0.17		中世土甕、陶片、漆器、磁器	
SP40	SB07	082・084	042-2	不整形	0.93	0.83	0.27		中～近世	
SP41	SB07	082・084	042-2	円形	0.70	0.63	0.26	磁器	中～近世	
SP42	SB07	082・084	042-2	不整形	1.08	0.88	0.28		中～近世	
SP43	095	095		楕円形	0.40	0.30	0.15		中世土甕	
SP44	095	095		楕円形	0.26	0.23	0.16		中世土甕、陶片、漆器、磁器	
SP45	096	096		楕円形	0.34	0.20	0.21		中世土甕、磁器、陶片、瓦葺工	
SP46	096	096		楕円形	0.72	0.58	0.37	磁器	中～近世	
SP47	096	096		楕円形	0.90	0.25	0.60	磁器	中～近世	
SP48	096	096		楕円形	0.89	0.38	0.36	磁器	中～近世	
SP49	096	096		楕円形	0.52	0.26	0.23		中～近世	
SP50	096	096		楕円形	0.38	0.42	0.33	加工木	中～近世	
SP51	095	095		円形	0.25	0.26	0.27	鉄鏝	中～近世	
SP52	095	095		円形	0.32	0.31	0.07	板状木製品	中～近世	
SP53	095	095		不整形	(0.69)	(0.28)	0.22	板状木製品	中～近世	
F1MJK	SP01	SB01	108	054-1,2 055-1,4	円形	0.65		0.16	磁石	中～近世
	SP02	SB01	108	054-1,3 055-1,4	円形	0.76		0.23	磁石	中～近世
	SP03	SB01	108	054-1,3 055-1,4	円形	1.20		0.23	磁石	中～近世
	SP04	SB01	108	054-1,3 055-1,4	円形	0.78		0.14	磁石	中～近世
	SP05	SB02	108	055-5	円形	0.25	0.24	0.08		中～近世
	SP06	SB02	108	055-5	円形	0.38	0.32	0.07		中～近世
	SP07	SB02	108	055-5	楕円形	0.50	0.41	0.18		中～近世
	SP08	SB02	108	055-5	楕円形	0.52	0.20	0.08		中～近世
	SP01	SB01	113・116	059-1	楕円形	(0.36)	0.50	0.30	土	中～近世
	SP02	SB01	113・116	059-2	不整形	0.70	0.25	0.50		中～近世
SP03	SB02	113・116	059-3	円形	0.25	(0.20)	0.21		中～近世	
SP04	SB02	113・116	059-3	円形	0.55	0.20	0.14		中～近世	
SP05	SB02	113・116	059-3	円形	0.45	0.38	0.13		中～近世	
SP06	SB02	113・116	059-3	円形	0.30	0.27	0.18		中～近世	
SP07	SB02	113・116	059-3	円形	0.50	0.40	0.24		中～近世	
SP08	SB02	113・116	059-3	楕円形	0.60	0.20	0.20		中～近世	
SP09	SB02	113・116	059-3	楕円形	0.60	0.20	0.20		中～近世	
SP10	SB02	113・116	059-3	不整形	0.70	0.50	0.30		中～近世	
SP11	SB03	113・116	059-2	円形	0.60	0.50	0.38		中世土甕	
SP12	SB03	113・116	059-2	楕円形	(0.60)	0.60	0.20		中～近世	
SP13	SB03	113・116	059-2	楕円形	0.50	0.40	0.14		中～近世	
SP14	SB03	113・116	059-2	楕円形	0.50	0.20	0.20		中～近世	
SP15	SB04	113・116	059-1	楕円形	0.65	0.40	0.15		中～近世	
SP16	SB04	113・116	059-2	不整形	0.60	0.40	0.27		中世土甕、磁石	
SP17	SB04	113・116	059-2	楕円形	0.60	0.45	0.30		中～近世	
SP18	SB04	113・116	059-2	円形	0.40		0.15		中～近世	
SP19	SB04	113・116	059-2	円形	0.50	0.40	0.15		中～近世	
SP20	SB04	113・116	059-2	円形	0.40	0.35	0.20		中～近世	

中名V・V遺跡

柱穴一貫(3)

地区	遺構番号	遺址No.	位置番号	方東番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	備考
F2・3地区	SP21	SB04	113・116	059-2	楕円形	0.80	0.50	0.30		中～古墳
	SP22	SB04	113・116	059-2	不整形	0.50	0.40	0.08		中～古墳
	SP23	SB05	114・116	059-2	不整形	0.70	0.60	0.40	中世土師器	中～古墳
	SP24	SD05	114・116	059-2	楕円形	0.65	0.40	0.07		中～古墳
	SP25	SB05	114・116	059-2	円形	0.60	0.50	0.12		中～古墳
	SP26	SB05	114・116	059-2	不整形	0.75	0.50	0.16		中～古墳
	SP27	SB05	114・116	059-2	不整形	0.45	0.35	0.10		中～古墳
	SP28	SD05	114・116	059-2	楕円形	1.15	0.50	0.32		中～古墳
	SP29	SB05	114・116	059-2	不整形	(1.50)	0.70	0.24	中世土師器	中～古墳
	SP30	SB06	115・116		円形	0.60	0.55	0.27		中～古墳
	SP31	SP06	113・116・129		楕円形	1.50	(0.90)	0.12		中～古墳
	SP32	SD06	115・116		不整形	0.90	0.90	0.21		中～古墳
	SP33	SP06	115・116		不整形	0.50	0.40	0.11		中～古墳
	SP34	SD07	114・116		楕円形	0.50	0.30	0.18		中～古墳
	SP35	SB07	114・116		円形	0.25	0.30	0.31		中～古墳
	SP36	SD07	114・116		円形	0.40	0.35	0.55		中～古墳
	SP37	SD07	114・116		円形	0.50	0.40	0.23		中～古墳
	SP38	SP07	114・116		楕円形	0.40	0.50	0.06		中～古墳
	SP39	SD07	114・116・129		不整形	(0.90)	0.80	0.36		中～古墳
	SP40	SB07	114・116		楕円形	0.50	0.35	0.11		中～古墳
	NP41	SD08	115・116		不整形	0.80	0.40	0.17		中～古墳
	NP42	SP08	113・116		円形	0.30	0.40			中～古墳
	SP43	SB08	115・116		楕円形	0.70	0.50	0.50	中世土師器	中～古墳
	SP44	SB08	115・116		円形	0.40	0.30	0.35		中～古墳
	SP45	SD08	115・117		楕円形	0.75	0.50	0.20		中～古墳
	SP46	SD08	115・117		円形	0.55	0.40	0.40		中～古墳
	SP47	SP08	113・117		円形	0.50	0.20	0.20		中～古墳
	SP48	SB08	115・117		円形	0.50	0.40	0.30		中～古墳
	SP49	SB08	115・117		円形	0.40	0.30	0.30		中～古墳
	SP50	SD09	115・117		円形	0.20	0.30	0.13		中～古墳
	SP51	SP09	115・117		楕円形	0.35	0.25	0.13		中～古墳
	SP52	SD09	115・117		円形	0.35	0.10	0.10		中～古墳
	SP53	SB09	115・117		楕円形	1.00	0.70	0.30	中世土師器	中～古墳
	SP54	SD10	115・117		円形	0.30	0.25	0.25		中～古墳
	SP55	SP10	115・117		円形	0.30	0.25	0.08		中～古墳
	SP56	SP10	115・117		楕円形	0.75	0.40	0.23		中～古墳
	SP57	SD10	115・117		方形	(0.40)	0.30	0.20		中～古墳
	SP58	SP10	115・117		円形	0.35	0.30	0.20		中～古墳
	SP59	SD10	115・117		円形	0.55	0.50	0.53		中～古墳
	SP60	SP11	115・117		不整形	(0.80)	0.90	0.42		中～古墳
	SP61	SP11	115・117		不整形	1.50	0.60	0.30		中～古墳
	SP62	SP11	115・117		円形	1.00	0.70	0.38	珠洲、礫石	中～古墳
	SP63	SD11	115・117		不整形	(0.50)	0.70	0.32		中～古墳
	SP64	SP11	115・117		不整形	(0.40)	0.75	0.25		中～古墳
	SP65	SA01	115・117		不整形	1.30	1.00	0.58		中～古墳
	SP66	SA01	115・117		不整形	1.65	1.00	0.35	瓦葺土器、瓦楕	中～古墳
	SP67	SA01	115・117		楕円形	1.90	0.80	0.70		中～古墳
	SP68	SA01	114・117		円形	0.75	0.50	0.15		中～古墳
	SP69	SA02	114・117		円形	0.40	0.30	0.12		中～古墳
	SP70	SA02	114・117		円形	0.45	0.40	0.12		中～古墳
SP71	SA03	114・117		不整形	0.50	0.40	0.10		中～古墳	
SP72	SA03	114・117		不整形	(0.80)	0.50	0.16		中～古墳	
SP73	SA03	114・117		不整形	0.80	0.35	0.14		中～古墳	
SP74	SA04	114・117		円形	0.30	0.25	0.15		中～古墳	
SP75	SA04	114・117		円形	0.30	0.25	0.25		中～古墳	
SP76	SA04	114・117		円形	0.30	0.25	0.20		中～古墳	
SP77	SA04	114・117		円形	0.30	0.30	0.30		中～古墳	
SP78	SA04	114・117		楕円形	0.40	0.25	0.18		中～古墳	
SP79	SA04	114・117		円形	0.30	0.20	0.15		中～古墳	
SP80	SA05	114・117・127		円形	0.80	0.45	0.45		中～古墳	
SP81	SA05	114・117		円形	0.35	0.30	0.55		中～古墳	
SP82	SA05	114・117		円形	0.25	0.30	0.25		中～古墳	
SP83	SA05	114・117		楕円形	0.40	0.25	0.25		中～古墳	
A地区	SP001	SD01	140		楕円形	0.50	0.46	0.19		中世
	SP002	SD05	141		隅丸長方形	0.37	0.34	0.13		中世
	SP003	SD01	145・125		楕円形	0.25	0.25	0.15		中世
	SP004	SP01	145・125		楕円形	0.30	0.25	0.20		中世
	SP005	SP01・02	145・125		楕円形	0.28	0.35	0.20		中世
	SP006	SP01	145・125		楕円形	0.45	0.43	0.14	土師器	中世
	SP007	SD01	145・125		楕円形	0.42	0.40	0.12		中世
	SP008	SP01	145・125		楕円形	0.45	0.30	0.12	土師器	中世
	SP009	SP01	145・125		楕円形	0.24	0.22	0.15		中世
	SP010	SP03	145・125		楕円形	0.65	0.54	0.15		中世
	SP011	SD03	145・125		楕円形	0.75	0.34	0.21		中世
	SP012	SD02	145・125		楕円形	0.30	0.25	0.20		中世
	SP013	SD03	145・125		楕円形	0.12	0.08	0.25		中世
	SP014	SD03	145・125		楕円形	0.35	0.34	0.12		中世
	SP015	SD03	145・125		楕円形	(0.30)	0.30	0.20		中世
	SP016	SP03・04	145・125		楕円形	0.20	0.35	0.11		中世
	SP017	SD03	145・125		楕円形	0.41	0.41	0.30		中世
	SP018	SD04	145・125		楕円形	0.25	0.20	0.13		中世
	SP019	SD04	145・125		楕円形	0.25	0.21	0.22		中世
	SP020	SP04	145・125		楕円形	0.23	0.17	0.10		中世
	SP021	SD04	145・125		楕円形	0.22	0.21	0.04		中世
	SP022	SD04	145・125		楕円形	0.51	0.27	0.15		中世
	SP023	SD05	146・126		楕円形	0.20	0.19	0.15	土師器	中世
	SP024	SP05	146・125		隅丸方形	0.22	0.21	0.35		中世
	SP025	SD05	146・125		不整形	0.20	0.25	0.35		中世
	SP026	SP05	146・126		円形	0.20	0.21	0.16		中世
	SP027	SD05	146・125		楕円形	0.41	0.31	0.15		中世
	SP028	SD05	146・125		楕円形	0.21	0.19	0.10		中世

中名 V・VI遺跡
柱穴一覽 (4)

地区	遺構番号	建立年	掘出番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	洲土遺物	時期
A地区	SP009	SB06	146・155		楕円形	0.29	0.09	0.17		中世
	SP030	SB06	146・155		楕円形	0.43	0.40	0.15		中世
	SP001	SB06	146・155		楕円形	0.18	0.14	0.10		川世
	SP033	SB06	146・155		不整形	(0.50)	0.49	0.30		中世
	SP033	SB06	146・155		楕円形	0.25	0.26	0.20		中世
	SP051	SB06	146・155		楕円形	0.21	0.18	0.13		中世
	SP065	SB06	146・155		円形	0.35	0.32	0.23		中世
	SP036	SB07	146・155		円形	0.35	0.30	0.13		中世
	SP037	SB07	146・155		楕円形	0.38	0.29	0.12		川世
	SP038	SB07	146・155		楕円形	0.20	0.16	0.13		中世
SP039	SB07	146・155		円形	0.28	0.26	0.25		中世	
SP040	SB08	146・155		楕円形	0.23	0.26	0.26	磁器	川世	
SP041	SB08	146・155		楕円形	0.33	0.29	0.10		中世	
SP042	SB08	146・155		円形	0.18	0.17	0.15		中世	
SP043	SB08	146・155		楕円形	0.40	0.35	0.14		中世	
SP044	SB08	146・155		楕円形	0.24	0.20	0.16		川世	
SP045	SB08	146・155		楕円形	0.24	0.20	0.28		中世	
SP046	SB09	147・156		楕円形	0.15	0.14	0.15		中世	
SP047	SP09・16	147・149・156・157		楕円形	0.29	0.27	0.12		中世	
SP048	SP09	147・156		楕円形	0.25	0.21	0.10		中世	
SP049	SP09	147・156		楕円形	0.20	0.20	0.13		中世	
SP050	SP09	147・156		楕円形	0.31	0.29	0.20		川世	
SP051	SP09・SA01	147・156		楕円形	0.19	0.17	0.13		中世	
SP052	SP09	147・156		楕円形	0.17	0.10	0.10		川世	
SP053	SA01	147・156		楕円形	0.34	0.30	0.22		川世	
SP054	SA01	147・156		楕円形	0.25	0.19	0.18		川世	
SP055	SA01	147・156		楕円形	0.20	0.25	0.15		中世	
SP056	SA01	147・156		楕円形	0.26	0.17	0.10		川世	
SP057	SB10	147・156		楕円形	0.38	0.24	0.12		川世	
SP058	SB10	147・156		楕円形	0.28	0.27	0.15		川世	
SP059	SB10	147・156		楕円形	0.26	0.25	0.18		川世	
SP060	SB10	147・156		楕円形	0.35	0.31	0.18	磁石	中世	
SP061	SB10	147・156		楕円形	0.42	0.18	0.18		中世	
SP062	SB11	148・156		楕円形	0.24	0.20	0.20		中世	
SP063	SB11	148・156		楕円形	0.25	0.21	0.16		中世	
SP064	SB11	148・156		楕円形	0.20	0.23	0.20		川世	
SP065	SB11	148・156		楕円形	0.22	0.20	0.18		中世	
SP066	SB11	148・156		不整形	0.41	0.40	0.10		川世	
SP067	SB11	148・156		楕円形	0.55	0.48	0.30		川世	
SP068	SB11	148・156		楕円形	0.25	0.23	0.20		川世	
SP069	SB11	148・156		楕円形	0.40	0.38	0.20		川世	
SP070	SB11	148・156		楕円形	0.29	0.22	0.20		中世	
SP071	SB11	148・156		不整形	0.24	0.21	0.15		中世	
SP072	SB11	148・156		楕円形	0.22	0.20	0.20	土師器	中世	
SP073	SB12	148・156		円形	0.26	0.21	0.12		中世	
SP074	SB12	148・156		楕円形	(0.35)	0.29	0.12		中世	
SP075	SB12・16	148・149・156・157		楕円形	0.31	0.21	0.10		中世	
SP076	SB12・17	148・149・156・157		楕円形	0.46	0.33	0.30		川世	
SP077	SB12	148・156		楕円形	0.40	(0.20)	0.12		川世	
SP078	SB12	148・156		楕円形	0.23	0.21	0.15	土師器、土製品	川世	
SP079	SB12	148・156		楕円形	0.26	0.24	0.20		中世	
SP080	SB13	148・156		楕円形	0.30	0.20	0.08		中世	
SP081	SB13	148・156		楕円形	0.29	0.22	0.19		中世	
SP082	SB13	148・156		楕円形	0.40	0.30	0.15		中世	
SP083	SB13	148・156		楕円形	0.40	0.34	0.25		中世	
SP084	SB13	148・156		楕円形	0.28	0.26	0.20		川世	
SP085	SB14	149・157		円形	0.32	0.20	0.23		中世	
SP086	SB14	149・157		楕円形	0.30	0.28	0.25		中世	
SP087	SB14	149・157		楕円形	0.33	0.23	0.18		川世	
SP088	SB14・21	149・157		楕円形	0.29	0.25	0.15		中世	
SP089	SB14	149・157		楕円形	0.30	0.27	0.20	木桶	中世	
SP090	SB14	149・157		楕円形	0.31	0.27	0.15		中世	
SP091	SB14	149・157		不整形	(0.30)	0.20	0.22		中世	
SP092	SB14	149・157		楕円形	0.35	0.22	0.25		中世	
SP093	SB14	149・157		楕円形	0.35	0.21	0.20		中世	
SP094	SB15	149・157		不整形	0.29	0.26	0.20		中世	
SP095	SB15	149・157		楕円形	(0.25)	0.27	0.10		中世	
SP096	SB15	149・157		楕円形	0.26	0.20	0.20		中世	
SP097	SB15	149・157		楕円形	0.22	0.22	0.22		中世	
SP098	SB15	149・157		円形	0.35	0.34	0.18		中世	
SP099	SB15	149・157		楕円形	0.50	0.28	0.20		川世	
SP100	SB15	149・157		楕円形	0.20	0.17	0.15		中世	
SP101	SB16	149・157		楕円形	0.37	0.27	0.18		中世	
SP102	SB16	149・157		楕円形	0.48	0.28	0.15		中世	
SP103	SB16	149・157		円形	0.34	0.23	0.10		中世	
SP104	SB17	150・157		楕円形	0.9	0.54	0.17	土師器	中世	
SP105	SB17	150・157		楕円形	0.44	0.38	0.08	土師器	川世	
SP106	SB17	150・157		楕円形	0.28	0.22	0.17	中世土師器	中世	
SP107	SB17	150・157		楕円形	0.40	0.40	0.20		中世	
SP108	SB17	150・157		楕円形	0.32	0.25	0.05		川世	
SP109	SB17・19	150・157		楕円形	0.38	0.30	0.18		中世	
SP110	SB18	150・157		楕円形	0.30	0.28	0.20		中世	
SP111	SB18	150・157		楕円形	0.24	0.24	0.12		中世	
SP112	SB18	150・157		円形	0.24	0.19	0.10		中世	
SP113	SB18	150・157		楕円形	0.40	0.26	0.20	土師器	中世	
SP114	SB18	150・157		円形	0.30	0.27	0.20		川世	
SP115	SB18	150・157		円形	0.34	0.32	0.18	土師器	中世	
SP116	SB19	150・157		楕円形	0.26	0.26	0.20		中世	
SP117	SB19	150・157		楕円形	0.25	0.20	0.20		川世	
SP118	SB19	150・157		不整形	0.25	0.20	0.10		中世	

中名V・V遺跡
柱穴一覽(8)

地区	遺跡番号	建立年	仮面番号	写真番号	平面形	長さ(直径)・m	幅(幅深)・m	高さ・m	出土遺物	備考
A地区	SP109	SB20	150・157		楕円形	0.30	0.24	0.13		中世
	SP120	SB20	150・157		楕円形	0.31	0.18	0.17		中世
	SP121	SB20	150・157		楕円形	0.30	0.23	0.18		中世
	SP122	SB20	150・157		楕円形	0.30	0.19	0.12		中世
	SP123	SB20	150・157		楕円形	0.36	0.27	0.30		中世
	SP124	SB21	151・158		楕円形	0.41	0.29	0.25		中世
	SP125	SB21	151・158		楕円形	0.30	0.30	0.33		中世
	SP126	SB21	151・158		楕円形	0.34	0.29	0.10		中世
	SP127	SB22	151・158		楕円形	0.29	0.27	0.18		中世
	SP128	SB22・27	151・158・159		楕円形	0.37	0.30	0.33	加工木	中世
	SP129	SB22・27・28	151・153・158・159		楕円形	0.37	0.36	0.30		中世
	SP130	SB22	151・158・172	051-1	不整形	1.00	0.89	0.25	土師器	中世
	SP131	SB22	151・158		楕円形	0.30	0.27	0.28		中世
	SP132	SB22	151・158		不整形	0.88	0.47	0.10		中世
	SP133	SB23	151・158		楕円形	0.56	0.50	0.27	須磨器	中世
	SP134	SB23	151・158		楕円形	0.49	0.43	0.28	須磨器	中世
	SP135	SB23・25	151・152・158		楕円形	0.58	0.39	0.20		中世
	SP136	SB23	151・158		楕円形	0.50	0.65	0.26		中世
	SP137	SB24・28	152・158・159		楕円形	0.58	0.52	0.15		中世
	SP138	SB24	152・158		不整形	0.47	0.40	0.39		中世
	SP139	SB24	152・158		不整形	0.64	0.42	0.23		中世
	SP140	SB24・27	152・158		不整形	0.27	0.25	0.13		中世
	SP141	SB24・28	152・158・159		楕円形	0.57	0.62	0.15	柱礎	中世
	SP142	SB24	152・158		楕円形	0.25	0.22	0.05		中世
	SP143	SB25	152・158		楕円形	0.52	0.46	0.25		中世
	SP144	SB25	152・158		楕円形	0.30	0.19	0.15		中世
	SP145	SB25・26	152・158		楕円形	0.38	0.25	0.12		中世
	SP146	SB25	152・158		楕円形	0.45	0.45	0.15		中世
	SP147	SB25	152・158		楕円形	0.55	0.42	0.26		中世
	SP148	SB26	152・158		楕円形	0.37	0.18	0.18		中世
	SP149	SB26	152・158		楕円形	0.40	0.30	0.20		中世
	SP150	SB26	152・158		楕円形	0.38	0.30	0.08		中世
	SP151	SB27	153・158		楕円形	0.38	0.28	0.20		中世
	SP152	SB27	153・158		楕円形	0.42	0.40	0.22	須磨器	中世
	SP153	SB27	153・158		楕円形	0.31	0.23	0.17		中世
	SP154	SB27	153・158		楕円形	0.38	0.28	0.14		中世
	SP155	SB28	153・159		楕円形	0.39	0.35	0.12		中世
	SP156	SB28	153・159		楕円形	0.52	0.40	0.20		中世
	SP157	SB28	153・159		楕円形	0.35	0.22	0.28		中世
	SP158	SB28	153・159		楕円形	0.47	0.42	0.33		中世
	SP159	SB28	153・159		楕円形	0.35	0.31	0.12		中世
	SP160	SB29	153・159		楕円形	0.51	0.41	0.07		中世
	SP161	SB29・31	153・159		楕円形	0.51	0.45	0.28	須磨器、土師器	中世
	SP162	SB29	153・159		楕円形	0.30	0.30	0.13		中世
	SP163	SB29	153・159		不整形	0.58	0.51	0.13	柱礎	中世
SP164	SB29	153・159		楕円形	0.30	0.25	0.15		中世	
SP165	SB30	153・159		楕円形	0.30	0.20	0.20		中世	
SP166	SB30	153・159		楕円形	0.30	0.27	0.25		中世	
SP167	SB30	153・159		円形	0.32	0.25	0.25		中世	
SP168	SB30	153・159		円形	0.22	0.17	0.20		中世	
SP169	SB30	153・159		円形	0.18	0.17	0.07		中世	
SP170	SB30	153・159		楕円形	0.38	0.23	0.23		中世	
SP171	SB30	153・159		楕円形	0.33	0.22	0.09		中世	
SP172	SB31	154・159		楕円形	0.31	0.28	0.08		中世	
SP173	SB31	154・159		楕円形	0.29	0.23	0.22		中世	
SP174	SB31	154・159		円形	0.25	0.25	0.15	須磨器、土師器	中世	
SP175	SB31	154・159		楕円形	0.30	0.20	0.20	須磨器	中世	
SP176	SB31	154・159		楕円形	0.37	0.23	0.30		中世	
SP177	SB31	154・159		円形	0.23	0.23	0.20		中世	
SP178	SB32	154・159		不整形	0.22	0.20	0.13	柱礎	中世	
SP179	SB32	154・159		楕円形	0.29	0.26	0.05		中世	
SP180	SB32	154・159		円形	0.33	0.32	0.20		中世	
SP181	SB32	154・159		楕円形	0.49	0.41	0.19		中世	
SP182	SB32	154・159		楕円形	0.30	0.19	0.20		中世	
SP183	SB32	154・159		楕円形	0.45	0.30	0.20	須磨器	中世	
SP184	SB33	154・159		不整形	0.39	0.27	0.23		中世	
SP185	SB33	154・159		楕円形	0.33	0.29	0.28		中世	
SP186	SB34	154・159		楕円形	0.43	0.40	0.04		中世	
SP187	SB34	154・159		楕円形	0.24	0.41	0.15		中世	
SP188	SB34	154・159		楕円形	0.41	0.29	0.04		中世	
SP189	SB34	154・159		楕円形	0.54	0.40	0.20		中世	
SP190	SB34	154・159		楕円形	0.35	0.28	0.08		中世	
SP191	SB35	154・159		楕円形	0.35	0.24	0.22		中世	
SP192	SB35	154・159		楕円形	0.32	0.29	0.15		中世	
SP193	SB35	154・159		楕円形	0.35	0.20	0.14		中世	
SP194	SB35	154・159		楕円形	0.39	0.29	0.22		中世	
SP195	SB35	154・159		楕円形	0.28	0.28	0.12		中世	
SP196	175			楕円形	0.30	0.21	0.12		中世	
SP197	175			楕円形	0.22	0.18	0.17	板瓦木製品	中世	
SP198	175			円形	0.29	0.28	0.11	柱礎	中世	
SP199	175			楕円形	0.28	0.26	0.18	板瓦	中世	
SP200	175			楕円形	0.35	0.19	0.22		中世	
SP201	175			円形	0.43	0.30	0.32	柱礎	中世	
SP202	175			円形	0.23	0.26	0.26	柱礎	中世	
SP203	175			楕円形	0.72	0.63	0.27	須磨器、土師器、柱礎	中世	
SP204	175			楕円形	0.53	0.44	0.66	陶材	中世	
SP205	175			不整形	0.45	0.42	0.28	須磨器、土師器、柱礎	中世	
SP206	175			楕円形	0.70	0.53	0.11		中世	

中名V・VI遺跡
柱穴一覽(6)

地区	遺跡番号	柱立地	向面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期	
A地区	SP207		115		楕円形	0.75	0.55	0.27		中世	
	SP208	SB20	121・158		楕円長方形	0.57	0.24	0.13		中世	
B・C地区	SP01	SB04・05	205・208		円形	0.35	0.30	0.23	中世土師器	中世	
	SP02	SB05	206・207		円形	0.25		0.18	中世土師器	中世	
	SP03	SB06	204・207		円形	0.15		0.05		中世	
	SP04	SB05	206・207		円形	0.71	(0.34)	0.34	中世土師器	中世	
	SP05	SB06	206・207		楕円形	0.27	0.18	0.11		中世	
	SP06	SB05	206・207	101-2		円形	(0.32)	(0.20)	0.14	柱礎	中世
	SP07	SB06	206・207		円形	0.20	0.19	0.03	中世土師器	中世	
	SP08	SB06	206・207		円形	0.25		0.21		中世	
	SP09	SB06	206・207		円形	0.47	0.33	0.24	土師器、中世土師器	中世	
	SP10	SB06	206・207		円形	(0.34)	0.26	0.29		中世	
	SP11	SA01	206・207		円形	0.73	0.65	0.37	土師器、中世土師器	中世	
	SP12	SA01	206・207		円形	0.21		0.14		中世	
	SP13	SA01	206・207		楕円形	0.44	(0.22)	0.53		中世	
	SP14	SA01	206・207		円形	0.34	0.11		土師器	中世	
	SP15	SA01	206・207		楕円形	0.47	0.26	0.19	土師器、中世土師器	中世	
	SP16	SB07	206・207		楕円形	0.21	0.16	0.25		中世	
	SP17	SB07	206・207		円形	0.21	0.19	0.30		中世	
	SP18	SB07	206・207		円形	0.27	0.23	0.18	土師器	中世	
	SP19	SB07	206・207		楕円形	(0.33)	0.28	0.49	土師器、中世土師器、鉄片	中世	
	SP20	SB07	206・207		不整形	(0.25)	0.24	0.24	土師器	中世	
	SP21	SB07	206・207		楕円形	(0.68)	0.48	0.58	中世土師器	中世	
	SP22	SB07	206・207		円形	0.39	0.38	0.30		中世	
	SP23	SB07	206・207		円形	0.19		0.15	中世土師器	中世	
	SP24	SB08	206・207		円形	0.29		0.32	加工片	中世	
	SP25	SB08	206・207		円形	0.31	0.30	0.30	土師器、鉄片	中世	
	SP26	SB08	206・207		円形	0.29		0.26		中世	
	SP27	SB07	206・207		円形	0.21	(0.10)	0.08	土師器、中世土師器	中世	
	SP28	SB08	206・207		楕円形	0.45	(0.17)	0.19		中世	
	SP29	SA02	206・207		楕円方形	(0.80)	(0.35)	0.43	楕円加工木	中世	
	SP30	SA02	206・207		円形	0.24	0.23	0.30		中世	
	SP31	SA02	206・207		不整形	0.44	(0.12)	0.12	中世土師器	中世	
	SP32	SA02	206・207		円形	0.30	(0.18)	0.07		中世	
	SP33	SA02	206・207・212		楕円形	0.31	0.25	0.15		中世	
SP34	SB01	204・208		円形	0.35	0.32	0.21	土師器	中世		
SP35	SB01	204・208		円形	0.36	0.29	0.30		中世		
SP36	SB01・02	204・208		円形	0.43		0.20		中世		
SP37	SB01	204・208		円形	0.35	0.30	0.13	土師器	中世		
SP38	SB01	204・208		円形	0.42	0.33	0.23		中世		
SP39	SB01	204・208		楕円形	0.35		0.08		中世		
SP40	SB01	204・208		円形	(0.36)	(0.22)	0.28		中世		
SP41	SB01	204・208		円形	0.30	0.25	(0.19)		中世		
SP42	SB01	204・208		円形	(0.29)	(0.14)	0.08		中世		
SP43	SB02	204・208		楕円形	0.48	0.32	0.25		中世		
SP44	SB02	204・208		円形	0.31	0.30	0.21		中世		
SP45	SB02	204・208		円形	0.38	0.30	(0.11)		中世		
SP46	SB02	204・208		楕円形	0.33	0.25	0.12		中世		
SP47	SB02	204・208		円形	0.35	0.33	0.20		中世		
SP48	SB02	204・208		楕円形	0.41	0.28	0.20		中世		
SP49	SB02	204・208		円形	0.54	0.31	0.17	土師器	中世		
SP50	SB03	205・208		円形	0.35	0.31	0.13	土師器	中世		
SP51	SB03	205・208		楕円形	0.28	0.20	0.10		中世		
SP52	SB03	205・208		円形	0.43	0.38	0.30		中世		
SP53	SB03	205・208		円形	0.49	0.42	0.24	中世土師器	中世		
SP54	SB03	205・208		円形	0.33	0.30	0.27		中世		
SP55	SB03	205・208		円形	0.21	0.20	0.06		中世		
SP56	SB03	205・208	101-3		円形	0.35	0.32	0.10	柱礎	中世	
SP57	SB03	205・208		円形	0.40	0.39	0.09		中世		
SP58	SB03	205・208		円形	0.30	0.28	0.18	柱礎	中世		
SP59	SB03	205・208		円形	0.35	0.33	0.20		中世		
SP60	SB04	205・208		円形	0.36	0.26	0.17	土師器、中世土師器	中世		
SP61	SB01	205・208		円形	0.32	0.28	0.19		中世		
SP62	SB01	205・208		円形	0.34	(0.14)	0.13		中世		
SP63	SB04	205・208		円形	0.41	0.35	0.11		中世		
SP64	SB04	205・208		楕円方形	0.40	0.28	0.14		中世		

中名V・VI遺跡
群一版(1)

地区	遺跡番号	国史番号	与国番号	平面形状	断面形状	長さ・m	幅・m	高さ・m	出土品	時期
A1地区	SD01	006-012		不整形	U字形	48.0	0.50	0.97	銅製器、土師器、中世土師器、磁器	中～近世
	SD02	006-012		不整形	U字形	26.3	0.70	0.43	指輪、土師器、褐色土師器、鉄刀、八咫、山師土師器、白磁、青磁、漆器、胡山山山、胡山山山、胡山山山、胡山山山、約子型木漆器、漆器、加工木、漆器	中～近世
	SD03	006-012		竪形	溝形	8.15	2.25	0.27	漆器類、土師器、磁器、八咫、胡中磁器、磁石、漆器木製品、漆器、漆器木製品、漆器	中～近世
	SD04	006-012		不整形	V字形	17.3	2.25	0.24	土師器、漆器類、胡中磁器、近世陶磁器	中～近世
	SD05	006-012		不整形	U字形	12.00	2.25	0.27	土師器、中世土師器	中～近世
	SD06	006-012		不整形	U字形	0.70	0.77	0.19	土師器	中～近世
	SD07	006-012		竪形	V字形	16.5	0.55	0.26	土師器、漆器類、漆器、胡中磁器、近世陶磁器、漆器類、漆器	中～近世
	SD08	006-012		竪形	溝形	6.50	1.25	0.13	土師器、漆器類、中世土師器、漆器	中～近世
	SD09	006-012		竪形	U字形	4.15	1.21	0.15	土師器、中世土師器	中～近世
	SD10	006-013		竪形	U字形	1.10	2.56	0.20	土師器赤土、漆器類、近世陶磁器	中～近世
	SD11	006-013		竪形	溝形	2.55	0.45	0.11	土師器、中世土師器	中～近世
	SD12	006-013		不整形	U字形	15.0	3.78	1.07	漆器類、土師器、中世土師器、八咫、漆器、青磁、白磁、加工木、板状木製品	中～近世
	SD13	006-013		不整形	U字形	11.0	0.69	0.26	漆器類、土師器、中世土師器	中～近世
	SD14	006-013		不整形	U字形	7.50	3.76	0.41	土師器、中世土師器、漆器、八咫、白磁、青磁、漆器木製品、伊万里、土師器、板状木製品、漆器、漆器木製品	中～近世
	SD15	006-014		竪形	溝形	3.40	0.66	0.09	土師器	中～近世
	SD16	006-014		竪形	U字形	0.90	0.28	0.17	土師器	中～近世
	SD17	006-014		U字形	U字形	15.5	2.44	0.42	土師器、漆器類、漆器、漆器、漆器、漆器、漆器、漆器	中～近世
	SD18	006-014		不整形	U字形	18.31	2.03	0.39	漆器類、土師器、青磁、漆器、板状加工木、漆器類	中～近世
	SD19	006-014		不整形	U字形	19.50	2.40	0.43	漆器類、土師器、中世土師器、漆器、八咫、青磁、近世陶磁器、加工木、板状木製品	中～近世
SD20	006-014		竪形	U字形	0.90	0.38	0.44	土師器	中～近世	
SD21	006-014		竪形	U字形	0.25	1.00	0.23	土師器、中世土師器	中～近世	
SD22	006-014		竪形	U字形	18.0	1.23	0.33	漆器類	中～近世	
SD23	006-014		竪形	U字形	3.70	0.53	0.31	土師器、漆器類	中～近世	
SD24	006-014		竪形	U字形	9.30	0.86	0.23	土師器、漆器類、漆器、漆器、漆器、漆器、漆器、漆器	中～近世	
SD25	006-014		竪形	U字形	3.86	1.20	0.12	土師器、中世土師器	中～近世	
SD26	006-014		不整形	U字形	12.50	0.70	0.29	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、白磁	中～近世	
B5地区	SD01	015-017		溝形	U字形	6.9	0.60	0.16	漆器	中～近世
	SD02	015-017	007-5	溝形	溝形	20.1	2.1	0.46	中世土師器、胡山山山、木漆、漆器、漆器	中～近世
	SD03	015-017	007-5	溝形	U字形	14.0	0.9	0.19	漆器	中～近世
T1・2・4地区	SD04	015-017		不整形	U字形	9.1	0.1	0.35	土師器	中～近世
	SD01	022-029	029-3	不整形	溝形	22.0	36.00	0.20	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、漆器類	中～近世
	SD02	022-029	029-3	不整形	溝形	4.92	0.51	0.04	漆器類	古代
	SD03	022-029		不整形	不整形	0.70	0.80	0.16	土師器	古代
	SD04	022-029		不整形	溝形	0.22	0.26	0.07	土師器	古代
	SD05	022-029		不整形	U字形	0.25	0.40	0.21	土師器	古代
	SD06	022-029		不整形	U字形	19.20	0.22	1.06	土師器、漆器類、漆器	古代
	SD07	022-029		不整形	U字形	49.7	10.3	0.94	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、青磁、白磁、加工木、漆器類、漆器、漆器、漆器	古代～中世
	SD08	022-046	022-3	不整形	U字形	19.15	1.10	0.30	土師器、漆器類、漆器類、漆器類、漆器類	中世
	SD09	022-046		不整形	U字形	11.90	0.90	0.19	中世土師器、漆器	中世
	SD10	022-046		溝形	溝形	15.30	0.70	0.09	中世土師器	中世
	SD11	022-046		不整形	U字形	12.1	1.80	0.22	中世土師器	中世
	SD12	022-046		溝形	U字形	2.30	0.26	0.08	中世土師器	中世
	SD13	022-046		溝形	U字形	11.0	0.60	0.06	中世土師器	中世
	SD14	022-046		溝形	U字形	6.00	0.70	0.06	中世土師器、中世土師器、瓦葺土師器	中世
	SD15	022-046		溝形	U字形	17.5	0.30	0.62	中世土師器、漆器、八咫、漆器	中世
	SD16	022-046		溝形	U字形	20.0	0.45	0.48	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、磁器、青磁、漆器、漆器、漆器、漆器、漆器	中世
	SD17	022-047		溝形	U字形	08.0	08.50	0.70	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、青磁、白磁、土師器、漆器、漆器、漆器、漆器	中世
	SD18	022-047		溝形	U字形	09.0	05.00	0.62	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器	中世
SD19	022-047		不整形	U字形	13.9	8.00	1.05	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器、漆器	中世	
SD20	022-029	029-3	不整形	溝形	07.9	07.30	0.15	土師器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器、漆器	中世	
SD21	022-047		溝形	溝形	19.0	0.60	0.32	中世土師器	中世	
SD22	022-048		不整形	溝形	03.0	0.1	0.11	中世土師器、内蔵	中世	
SD23	022-048		不整形	U字形	01.4	0.70	0.18	中世土師器	中世	
SD24	022-048		不整形	U字形	0.94	0.62	0.29	漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器類	中世	
SD25	022-048	019-2	溝形	溝形	08.5	1.50	0.19	中世土師器、漆器	中世	
SD26	022-048		溝形	溝形	7.66	1.1	0.14	漆器類	中世	
SD27	022-048		不整形	U字形	1.90	0.32	0.08	山師土師器	中世	
SD28	022-048		溝形	U字形	2.67	0.21	0.10	中世土師器	中世	
SD29	022-048		溝形	U字形	1.07	0.18	0.07	中世土師器	中世	
SD30	022-048		溝形	U字形	1.4	0.18	0.06	中世土師器	中世	
SD31	022-048		溝形	U字形	1.36	0.14	0.03	中世土師器	中世	
SD32	022-048		不整形	溝形	17.5	4.20	0.08	土師器、中世土師器、漆器、八咫、漆器類、漆器類	近世	
D3地区	SD01	062-063		不整形	不整形	66.30	0.90		漆器	古代
	SD02	062-063		不整形	不整形	01.00	0.90	1.45	土師器、漆器類	古代
	SD03	062-063	001-7	溝形	U字形	05.0	1.30	0.15	中世土師器、漆器類、漆器類、漆器類、漆器類、漆器類、漆器類、漆器類	中世
	SD04	062-066		不整形	不整形	05.10	0.20	0.90	漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器類	中世
	SD05	062-066	017-1・017-2・017-3・4	溝形	不整形	03.00	2.50	0.80	漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器類、漆器類、加工木	中世
	SD06	062-066		不整形	溝形	4.50	5.00	0.35	漆器、八咫、漆器	中世
	SD07	062-066		不整形	不整形	0.90	0.30	0.35	漆器	中世
	SD08	062-066		不整形	U字形	0.30	0.50	0.07	漆器	中世
	SD09	062-069		溝形	U字形	4.50	3.50	0.25	中世土師器	中世
	SD10	062-069		溝形	U字形	4.50	1.00	0.25	中世土師器	中世
	SD11	062-069		溝形	溝形	4.50	2.40	0.83	漆器	中世
	SD12	062-069		不整形	溝形	1.30	0.40	0.10	中世土師器	中世
	SD13	062-069		溝形	U字形	0.40	0.30	0.15	土師器	中世
SD14	062-069		不整形	溝形	03.30	1.40	0.35	漆器、漆器類、中世土師器、漆器、八咫、漆器	中世	
SD15	062-069		溝形	溝形	0.60	4.40	0.70	土師器、漆器	中世	
SD16	062-069		溝形	U字形	0.40	1.20	0.24	漆器類、中世土師器、漆器、漆器、漆器	中世	
SD17	062-069	011-6	溝形	U字形	0.50	1.20	0.21	漆器類、中世土師器、漆器	中世	

中名 V · VI 遺跡

第一編 (3)

地区	遺構番号	範囲番号	写真番号	平面形状	断面形状	長さ・m	幅・m	深さ・m	出土遺物	時期	
PI地区	ND13	104・111		不整形	逆舟形	(2.30)	(0.50)	0.19	中世土師器	中~近世	
	SD14	107・111		不整形	U字形	(2.00)	(0.50)	0.90	中世土師器、八咫、青磁	中~近世	
	ND15	106・111		不整形	逆舟形	(2.70)	(0.70)	0.17	中世土師器	中~近世	
	SD16	105・111	855-5	不整形	U字形	(1.90)	(0.50)	0.50	中世土師器	中~近世	
	SD17	106・111		不整形	逆舟形	(2.70)	(1.30)	0.18	加賀焼、珠洲	中~近世	
	SD18	104・111		不整形	U字形	(1.65)	(0.80)	0.41	土師器	中~近世	
	SD19	104・111		不整形	U字形	(2.10)	(1.40)	0.11		中~近世	
	SD20	104・111		不整形	U字形	(4.15)	(1.40)	0.40	作乐土師器	中~近世	
	SD21	112・132		楕圓	L字形	3.60	0.65	0.19	中世土師器	中~近世	
	SD22	112・132		円弧	L字形	2.70	1.00	0.23	中世土師器、瓦片、八咫、越中陶片、近世陶磁器	中~近世	
SD23	112・132		楕圓	L字形	(2.80)	0.50	0.26		中~近世		
ED24	112・132		楕圓	L字形	30.0	2.70	0.60	中世土師器、珠洲	中~近世		
SD26	112・132		不整形	不整形	33.3	5.7	0.30	中世土師器、陶、瓦器、珠洲、越中陶片、伊万里、白磁、近世陶磁器	中~近世		
AME区	SD31	135・142		長楕	L字形	11.00	2.6	0.25	土師器	古代	
	ND32	136・139・141		不整形	不整形	(80.00)	14.5	1.20	灰青磁、土師器、中世土師器、青磁、白磁、珠洲、漆器、瓦、伊万里	古代	
	SD33	139・144・176		円形	不整形	(21.00)	0.00	0.59	中世土師器、青磁、珠洲、越中陶片、加工土、瓦	中世	
	SD34	137・176		円形	不整形	2.60	0.42	0.10	灰青磁	中世	
	SD35	137・176		楕圓	U字形	2.80	0.36	0.12	土師器	中世	
	SD36	137・176		楕圓	U字形	10.30	0.43	0.07	須恵器	中世	
	SD37	137・176		楕圓	L字形	5.80	0.42	0.10	須恵器、土師器	中世	
	SD38	137・176		楕圓	逆舟形	8.20	2.40	0.08	須恵器、土師器	中世	
	SD39	137・176		楕圓	逆舟形	5.25	0.60	0.09	土師器	中世	
	SD40	137・176		楕圓	逆舟形	16.80	2.00	0.17	土師器	中世	
	SD41	137・176		不整形	U字形	10.50	1.70	0.11		中世	
	ND42	136・176	881-7	楕圓・円形	U字形	26.00	3.40	0.72	須恵器、中世土師器、扇・陶器、珠洲、瓦片	中世	
	SD43	136・176		楕圓・円形	U字形	7.50	0.65	0.30	土師器、中世土師器	中世	
	SD44	136・176		楕圓	不整形	(8.30)	0.50	0.16	土師器、中世土師器	中世	
	SD45	136・176		不整形	U字形	(11.5)	0.10	0.16		中世	
	SD46	136・176		円形	U字形	(10.8)	1.45	0.31	須恵器、土師器、珠洲	中世	
	SD47	136・176		不整形	U字形	4.40	0.90	0.16	須恵器、中世土師器、白磁、伊万里	中世	
	SD48	136・176		円形	L字形	(22.00)	2.20	0.30	須恵器、土師器	中世	
	SD49	136・176		円形	L字形	8.30	1.40	0.08	須恵器、土師器、中世土師器	中世	
	SD50	136・176		楕圓	逆舟形	10.25	0.73	0.09	中世土師器	中世	
	ND51	136・176		円形	L字形	9.00	0.93	0.11		中世	
	ND52	136・176		楕圓	逆舟形	7.50	0.63	0.13	須恵器、土師器、越木製土器	中世	
	SD53	136・176		楕圓	逆舟形	6.05	0.25	0.08	竹器	中世	
	SD54	137・176		楕圓	逆舟形	11.00	0.68	0.36	中世土師器、珠洲	中世	
	D・D地区	SD61	180・201		不整形	不整形	11.00	1.72	0.08	須恵器、土師器、下駄	古代
		SD62	180・201		楕圓	U字形	8.50	0.70	0.08	須恵器	古代
		SD63	180・201		不整形	U字形	1.90	0.60	0.06		古代
		SD64	180・201		円形	U字形	3.00	0.40	0.07	土師器	古代
SD65		180・201		不整形	U字形	3.40	2.10	0.02	土師器	古代	
SD66		181・202		楕圓	U字形	4.70	1.20	0.21	土師器	古代	
SD67		184・185・202		楕圓	L字形	4.20	19.5	0.26	土師器、須恵器	古代	
SD68		184・203		楕圓	L字形	4.30	3.70	0.16	須恵器	古代	
SD69		183・203		多角	U字形	4.50	3.70	0.35	土師器	古代	
SD70		183・203		円形	不整形	3.60	19.00	1.00		古代	
SD71		186・217		楕圓	逆舟形	7.70	0.40	0.26	土師器、中世土師器、越中陶片	中世	
SD72		186・217		楕圓	U字形	20.0	0.30	0.23	土師器、須恵器、中世土師器、八咫、青磁、珠洲	中世	
SD43		188・189・190・217		不整形・楕圓形・瓦・逆舟形	不整形	(25.0)	4.30	0.29	土師器、須恵器、中世土師器、八咫、青磁、越中陶片、木製、灰土製土器、瓦、加工土、白磁	中世	
SD14		188・189・190・217		逆舟形	L字形	(96.5)	5.90	0.33	須恵器、珠洲	中世	
SD75		191・218		楕圓	L字形	(89.0)	4.00	0.33	須恵器、中世土師器、珠洲	中世	
SD16		190・218		楕圓	L字形	5.10	0.55	0.10	土師器	中世	
SD17		190・218		楕圓	逆舟形	12.40	0.45	0.13	土師器	中世	
SD18		190・218		不整形	U字形	7.30	1.50	0.13	土師器、須恵器、中世土師器	中世	
SD19		191・218		楕圓	U字形	26.50	1.70	0.20	土師器、中世土師器、八咫、青磁、五家土師器、珠洲、下駄、漆器	中世	
SD20		191・218		楕圓	U字形	4.30	1.30	0.26	土師器、中世土師器	中世	
SD21		191・218	101-4-5	楕圓	U字形	29.0	2.60	0.13	須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、八咫、青磁、加工土、白磁、越中陶片、木製、灰土製土器	中世	
SD22		191・218		楕圓	U字形	6.00	(15.0)	0.40		中世	
SD23		191・219		円形	U字形	9.50	2.50	0.38	須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁	中世	
SD24		191・219		円形	L字形	11.40	1.10	0.07	中世土師器	中世	
SD25		191・219		不整形	L字形	(151.60)	5.20	0.08	中世土師器	中世	
SD26		191・219		楕圓	L字形	128.00	1.60	0.37	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲	中世	
SD27		192・219		楕圓	L字形	5.00	6.40	0.33	土師器、須恵器、土師器	中世	
SD28		192・219		楕圓	L字形	6.60	1.50	0.27	中世土師器、珠洲、八咫	中世	
SD29	192・219		楕圓	L字形	4.10	1.00	1.00	珠洲	中世		
SD30	192・219		楕圓	L字形	(5.00)	1.80	0.22	須恵器、中世土師器、珠洲	中世		
SD31	192・219		楕圓	U字形	3.80	0.60	0.12	土師器	中世		
SD32	192・219		楕圓	L字形	(2.80)	0.60	0.12	土師器	中世		
SD33	190・219		楕圓	逆舟形	(2.80)	0.20	0.12	土師器、須恵器	中世		
SD34	192・219		楕圓	U字形	(2.80)	0.60	0.15	土師器、須恵器	中世		
SD35	192・219		楕圓	U字形	(9.30)	1.05	0.06	土師器、須恵器	中世		
SD36	193・219		不整形	U字形	(14.0)	3.00	0.16	土師器、須恵器、中世土師器、青磁、白磁	中世		
SD37	193・219		不整形	U字形	(6.0)	1.50	0.23	土師器	中世		
SD38	193・219		楕圓	U字形	2.00	4.80	0.17	須恵器、中世土師器、珠洲、土師器	中世		
SD39	187・188・220・223		円形	L字形			0.73	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、須恵器、越中陶片、木製、灰土製土器、土師器、須恵器、伊万里、白磁、瓦器	中世		
SD40	194・224		楕圓	L字形	11.9	1.30	0.47	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、白磁、越中陶片、白磁、近世陶磁器	中世		

中名 V・VI 遺跡
土記・陶器一覽 (8)

図号	遺跡名	所在地	年代	土記	陶器	出土品	備考
0001	100-1
0002	100-2
0003	100-3
0004	100-4
0005	100-5
0006	100-6
0007	100-7
0008	100-8
0009	100-9
0010	100-10
0011	100-11
0012	100-12
0013	100-13
0014	100-14
0015	100-15
0016	100-16
0017	100-17
0018	100-18
0019	100-19
0020	100-20
0021	100-21
0022	100-22
0023	100-23
0024	100-24
0025	100-25
0026	100-26
0027	100-27
0028	100-28
0029	100-29
0030	100-30
0031	100-31
0032	100-32
0033	100-33
0034	100-34
0035	100-35
0036	100-36
0037	100-37
0038	100-38
0039	100-39
0040	100-40
0041	100-41
0042	100-42
0043	100-43
0044	100-44
0045	100-45
0046	100-46
0047	100-47
0048	100-48
0049	100-49
0050	100-50
0051	100-51
0052	100-52
0053	100-53
0054	100-54
0055	100-55
0056	100-56
0057	100-57
0058	100-58
0059	100-59
0060	100-60
0061	100-61
0062	100-62
0063	100-63
0064	100-64
0065	100-65
0066	100-66
0067	100-67
0068	100-68
0069	100-69
0070	100-70
0071	100-71
0072	100-72
0073	100-73
0074	100-74
0075	100-75
0076	100-76
0077	100-77
0078	100-78
0079	100-79
0080	100-80
0081	100-81
0082	100-82
0083	100-83
0084	100-84
0085	100-85
0086	100-86
0087	100-87
0088	100-88
0089	100-89
0090	100-90
0091	100-91
0092	100-92
0093	100-93
0094	100-94
0095	100-95
0096	100-96
0097	100-97
0098	100-98
0099	100-99
0100	100-100

中名V・V10 選手
土器・陶磁器一覽 (18)

種別	選手番号	選手名	種別	品名	品番	口径	高さ	底径	容積	器種	用途	材料	仕立	備考
FV・3連	1301	201	伊万吉	伊万吉	175		6.0			1月1日	近世	漆器	漆器	漆器
	1302	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.5	4.1	0.4	1.1	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1303	201	伊万吉	伊万吉	1045	3.5	4.6	0.4	0.7	2/5	近世	漆器	漆器	漆器
	1304	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.1	4.2		1.2	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1305	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.1	4.2	0.8	0.9	2/5	近世	漆器	漆器	漆器
	1306	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	3.4	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1307	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1308	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1309	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1310	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
A種	1401	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1402	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1403	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1404	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1405	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1406	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1407	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1408	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1409	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器
	1410	201	伊万吉	伊万吉	1045	4.6	3.8	0.8	0.8	1/2	近世	漆器	漆器	漆器

中名V・VI遺跡
土器・陶磁器一覧 (2/3)

地区	遺跡番号	遺跡名	調査年度	調査者	調査種別	出土品	出土品名	出土品数	出土品年代	出土品特徴	出土品画像	出土品説明
中名V	2000	204	213-2	遺跡	調査	10.0	0.5	0.2	0.1	小片白磁器	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.4	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	10.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2002	204	213-1	遺跡	調査	31.8	0.5	0.3	0.2	片	片	不明
	2000	204	213-1	遺跡	調査	19.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2001	204	213-1	遺跡	調査	11.6	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-1	遺跡	調査	0.5	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2001	204	213-1	遺跡	調査	0.8	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2001	204	213-1	遺跡	調査	1.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2001	204	213-1	遺跡	調査	14.7	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
中名VI	2000	204	213-2	遺跡	調査	16.1	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	15.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2002	204	213-2	遺跡	調査	15.3	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-1	遺跡	調査	18.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-1	遺跡	調査	13.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-1	遺跡	調査	12.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2001	204	213-1	遺跡	調査	11.6	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2002	204	213-1	遺跡	調査	11.9	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	12.3	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	12.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
中名VII	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.4	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	12.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.4	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明
	2000	204	213-2	遺跡	調査	11.0	0.5	0.2	0.1	片	片	不明

中名V・VI遺跡
本製品一覧(7)

品名	規格	材質	寸法	重量	備考
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200

中名V・VI遺跡
本製品一覧(8)

品名	規格	材質	寸法	重量	備考
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300

品名	規格	数量	単位	備考	品名	数量	単位	備考
ALUMINUM	100g	100	g	100g	ALUMINUM	100	g	100g
ALUMINUM	200g	200	g	200g	ALUMINUM	200	g	200g
ALUMINUM	300g	300	g	300g	ALUMINUM	300	g	300g
ALUMINUM	400g	400	g	400g	ALUMINUM	400	g	400g
ALUMINUM	500g	500	g	500g	ALUMINUM	500	g	500g
ALUMINUM	600g	600	g	600g	ALUMINUM	600	g	600g
ALUMINUM	700g	700	g	700g	ALUMINUM	700	g	700g
ALUMINUM	800g	800	g	800g	ALUMINUM	800	g	800g
ALUMINUM	900g	900	g	900g	ALUMINUM	900	g	900g
ALUMINUM	1000g	1000	g	1000g	ALUMINUM	1000	g	1000g
ALUMINUM	1200g	1200	g	1200g	ALUMINUM	1200	g	1200g
ALUMINUM	1500g	1500	g	1500g	ALUMINUM	1500	g	1500g
ALUMINUM	2000g	2000	g	2000g	ALUMINUM	2000	g	2000g
ALUMINUM	2500g	2500	g	2500g	ALUMINUM	2500	g	2500g
ALUMINUM	3000g	3000	g	3000g	ALUMINUM	3000	g	3000g
ALUMINUM	4000g	4000	g	4000g	ALUMINUM	4000	g	4000g
ALUMINUM	5000g	5000	g	5000g	ALUMINUM	5000	g	5000g
ALUMINUM	6000g	6000	g	6000g	ALUMINUM	6000	g	6000g
ALUMINUM	7000g	7000	g	7000g	ALUMINUM	7000	g	7000g
ALUMINUM	8000g	8000	g	8000g	ALUMINUM	8000	g	8000g
ALUMINUM	9000g	9000	g	9000g	ALUMINUM	9000	g	9000g
ALUMINUM	10000g	10000	g	10000g	ALUMINUM	10000	g	10000g

全編製品一覧 (1)

品名	規格	数量	単位	備考	品名	数量	単位	備考
ALUMINUM	100g	100	g	100g	ALUMINUM	100	g	100g
ALUMINUM	200g	200	g	200g	ALUMINUM	200	g	200g
ALUMINUM	300g	300	g	300g	ALUMINUM	300	g	300g
ALUMINUM	400g	400	g	400g	ALUMINUM	400	g	400g
ALUMINUM	500g	500	g	500g	ALUMINUM	500	g	500g
ALUMINUM	600g	600	g	600g	ALUMINUM	600	g	600g
ALUMINUM	700g	700	g	700g	ALUMINUM	700	g	700g
ALUMINUM	800g	800	g	800g	ALUMINUM	800	g	800g
ALUMINUM	900g	900	g	900g	ALUMINUM	900	g	900g
ALUMINUM	1000g	1000	g	1000g	ALUMINUM	1000	g	1000g
ALUMINUM	1200g	1200	g	1200g	ALUMINUM	1200	g	1200g
ALUMINUM	1500g	1500	g	1500g	ALUMINUM	1500	g	1500g
ALUMINUM	2000g	2000	g	2000g	ALUMINUM	2000	g	2000g
ALUMINUM	2500g	2500	g	2500g	ALUMINUM	2500	g	2500g
ALUMINUM	3000g	3000	g	3000g	ALUMINUM	3000	g	3000g
ALUMINUM	4000g	4000	g	4000g	ALUMINUM	4000	g	4000g
ALUMINUM	5000g	5000	g	5000g	ALUMINUM	5000	g	5000g
ALUMINUM	6000g	6000	g	6000g	ALUMINUM	6000	g	6000g
ALUMINUM	7000g	7000	g	7000g	ALUMINUM	7000	g	7000g
ALUMINUM	8000g	8000	g	8000g	ALUMINUM	8000	g	8000g
ALUMINUM	9000g	9000	g	9000g	ALUMINUM	9000	g	9000g
ALUMINUM	10000g	10000	g	10000g	ALUMINUM	10000	g	10000g

品名	規格	数量	単位	備考	品名	数量	単位	備考
ALUMINUM	100g	100	g	100g	ALUMINUM	100	g	100g
ALUMINUM	200g	200	g	200g	ALUMINUM	200	g	200g
ALUMINUM	300g	300	g	300g	ALUMINUM	300	g	300g
ALUMINUM	400g	400	g	400g	ALUMINUM	400	g	400g
ALUMINUM	500g	500	g	500g	ALUMINUM	500	g	500g
ALUMINUM	600g	600	g	600g	ALUMINUM	600	g	600g
ALUMINUM	700g	700	g	700g	ALUMINUM	700	g	700g
ALUMINUM	800g	800	g	800g	ALUMINUM	800	g	800g
ALUMINUM	900g	900	g	900g	ALUMINUM	900	g	900g
ALUMINUM	1000g	1000	g	1000g	ALUMINUM	1000	g	1000g
ALUMINUM	1200g	1200	g	1200g	ALUMINUM	1200	g	1200g
ALUMINUM	1500g	1500	g	1500g	ALUMINUM	1500	g	1500g
ALUMINUM	2000g	2000	g	2000g	ALUMINUM	2000	g	2000g
ALUMINUM	2500g	2500	g	2500g	ALUMINUM	2500	g	2500g
ALUMINUM	3000g	3000	g	3000g	ALUMINUM	3000	g	3000g
ALUMINUM	4000g	4000	g	4000g	ALUMINUM	4000	g	4000g
ALUMINUM	5000g	5000	g	5000g	ALUMINUM	5000	g	5000g
ALUMINUM	6000g	6000	g	6000g	ALUMINUM	6000	g	6000g
ALUMINUM	7000g	7000	g	7000g	ALUMINUM	7000	g	7000g
ALUMINUM	8000g	8000	g	8000g	ALUMINUM	8000	g	8000g
ALUMINUM	9000g	9000	g	9000g	ALUMINUM	9000	g	9000g
ALUMINUM	10000g	10000	g	10000g	ALUMINUM	10000	g	10000g

砂子田 I 遺跡
墓穴住居一覧

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(図面)・m	幅(図面)・m	深さ・m	出土遺物	時期	特記事項
B地区	SI01	228・233	106-1・107-5				1.98		土師器、須恵器	古代
	SI02	228・233	106-2・107-1~4	いびつな方形	3.64	2.42	0.25	黒色土器、土師器、須恵器、磨石	古墳	戦国層から高杯が出土。
B地区	SI03	231・242	109-1.2	—	3.20	(1.20)	0.25	須恵器、土師器、黒色土器	古代	SK01・SD14に切られる。

土坑一覧(1)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(図面)・m	幅(図面)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A地区	SK01	232		円形	0.32	0.27	0.18	土師器、須恵器	古代
	SK02	232		小菱形	0.66	0.4	0.17	土師器、須恵器	古代
	SK03	232		楕円形	0.8	0.6	0.25	土師器、須恵器	古代
	SK04	232		不整形	(1.07)	0.68	0.15	土師器、須恵器	古代
	SK05	232		不整形	0.77	(0.6)	0.29	土師器、須恵器	古代
	SK06	232		小菱形	0.79	(0.27)	0.2	土師器	古代
	SK07	232		不整形	0.28	(0.42)	0.2	土師器	古代
	SK08	232		不整形	(0.32)	(0.25)	0.27	土師器、須恵器	古代
	SK09	232		楕円形	0.38	0.25	0.07	土師器	古代
	SK10	232		長楕円形	0.65	0.4	0.15	土師器、須恵器	古代
	SK11	232		不整形	(0.25)	(0.42)	0.25	土師器、須恵器	古代
	SK12	232		不整形	0.48	(0.3)	0.23	土師器	古代
	SK13	232		小菱形	(0.43)	0.35	0.08	土師器、須恵器	古代
	SK14	232		楕円形	0.58	0.4	0.27	土師器	古代
	SK15	232		楕円形	0.23	0.23	0.09	土師器	古代
	SK16	232		不整形	(0.2)	(0.15)	0.08	土師器	古代
	SK17	232		小菱形	0.53	(0.1)	0.12	土師器	古代
	SK18	232		楕円形	(0.45)	0.28	0.12	土師器	古代
	SK19	232		不整形	(1.26)	0.3	0.1	土師器	古代
	SK20	232		不整形	(1.12)	0.3	0.08	土師器	古代
	SK21	232		不整形	(0.6)	0.42	0.62	土師器、須恵器	古代
B地区	SK22	233		楕円形	0.36	0.20	0.12	土師器	古代
	SK23	233		楕円形	0.31	0.24	0.15	土師器	古代
	SK24	233		楕円形	0.48	0.38	0.11	土師器	古代
	SK25	234		不整形	2.34	2.25	0.12	土師器、須恵器	古代
	SK26	234		不整形	0.44	0.48	0.18	土師器	古代
	SK27	234		小菱形	0.6	(0.49)	0.07	須恵器	古代
	SK28	234		間欠方形	0.91	0.91	0.04	土師器	古代
	SK29	234		楕円形	0.59	0.54	0.05	土師器	古代
	SK30	234		楕円形	0.7	0.41	0.09	土師器	古代
	SK31	234		楕円形	1.15	0.69	0.17	土師器	古代
	SK32	234		不整形	2.5	1.93	0.12	土師器	古代
	SK33	234		長楕円形	3.98	1.19	0.11	土師器、須恵器	古代
	SK34	235		円形	0.77	0.70	0.16	土師器	古代
	SK35	235		楕円形	0.74	0.98	0.27	土師器	古代
	SK36	235		不整形	0.98	(0.82)	0.2	須恵器	古代
	SK37	235		円形	0.6	0.33	0.26	土師器	古代
	SK38	235		楕円形	1.84	0.87	0.16	土師器	古代
	SK39	235		楕円形	(1.27)	1.02	0.22	土師器	古代
	SK40	235		小菱形	0.83	0.75	0.17	須恵器	古代
	SK41	235		楕円形	(0.65)	0.52	0.1	土師器	古代
	SK42	235		楕円形	0.39	0.64	0.14	土師器	古代
	SK43	235		楕円形	(0.41)	0.51	0.09	土師器	古代
	SK44	235		円形	0.33	0.32	0.12	土師器	古代
	SK45	235		楕円形	0.47	0.36	0.14	土師器	古代
	SK46	235		楕円形	0.52	0.53	0.14	土師器、須恵器	古代
	SK47	235	107-6	楕円形	(0.54)	0.34	0.1	須恵器	古代
	SK49	235		楕円形	1.44	0.92	0.09	土師器	古代
	SK50	235		楕円形	1.07	0.72	0.09	土師器	古代
	SK51	235		不整形	(0.77)	1.17	0.21	土師器、須恵器	古代
	SK52	236		不整形	(0.34)	1.71	0.07	土師器、須恵器	古代
	SK53	236		楕円形	0.42	0.38	0.09	土師器、須恵器	古代
	SK54	236		楕円形	0.35	0.29	0.06	土師器、須恵器	古代
	SK55	236		楕円形	0.50	0.42	0.07	土師器	古代
	SK56	236		楕円形	0.51	0.36	0.08	土師器	古代
	SK57	236		円形	0.43	0.32	0.12	須恵器	古代
	SK58	236		楕円形	0.47	0.29	0.10	土師器	古代
	SK59	236		不整形	1.31	1.06	0.09	須恵器	古代
	SK60	236		不整形	1.2	0.89	0.11	土師器、須恵器	古代
	SK61	236		楕円形	0.88	0.72	0.10	土師器、須恵器	古代
	SK62	236		円形	0.28	0.25	0.10	土師器	古代
	SK63	236		楕円形	1.16	1.26	0.21	土師器、須恵器	古代
	SK64	236		楕円形	2.31	1.63	0.07	土師器	古代
	SK65	237		楕円形	0.90	0.33	0.04	土師器	古代
	SK66	237		楕円形	0.46	0.32	0.09	土師器	古代
	SK67	237		楕円形	0.33	0.25	0.06	須恵器	古代
	SK68	237	107-8	楕円形	1.09	0.90	0.08	土師器、須恵器	古代
	SK69	237		不整形	0.75	0.71	0.16	土師器	古代
SK68	235		楕円形	0.71	0.58	0.07	土師器	古代	
SK70	237		不整形	(1.73)	1.26	0.30	土師器、須恵器	古代	
SK71	237		円形	0.30	0.27	0.23	土師器	古代	
SK72	237		円形	0.24	0.51	0.20	土師器、須恵器	古代	
SK73	237		不整形	1.15	1.13	0.40	土師器、須恵器	古代	
SK74	237		小菱形	1.62	1.02	0.08	土師器	古代	

砂子田I遺跡

土器・陶器類一覧(1)

地域	発掘調査年度	調査番号	遺物	種類	数量	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎体 (厚さ/単位)	胎体 (底径)	形状	特徴	年代	出所	出土地	調査	出土	
A地区	001	079	209-1	土師器	黒	3507	12.4		0.7		1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
	002	079	209-2	土師器	黒	3507	12.4	4.1	0.6	0.8	0.7	0.7	古代	奈良県(大和)・近畿地方	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	003	079	209-3	土師器	黒	3507	14.0		0.7		1/2	古代		318/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
	004	079	209-4	土師器	黒	3507		0.0	0.5	0.8	1/2(胎体)	古代	内務省大分事務所	2,077/2	灰褐色	不詳	砂子田I遺跡	
	005	079	209-5	土師器	黒	3507	11.6	3.3	7.8	0.6	0.6	3/4	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	006	079	209-6	土師器	黒	3506					1/2(胎体)	片断(口縁部)	古代		318/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	007	079	209-7	土師器	黒	3506	14.1	3.3	2.4	0.4	0.5	1/4	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	008	079	209-8	土師器	黒	14.5					0.7		古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	009	079	209-9	土師器	黒	18.0	3.1			0.7		1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	010	079	209-10	土師器	黒	18.0				0.6		1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	011	079	209-11	土師器	黒	18.0				0.6		1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	012	079	209-12	土師器	黒	11.7				0.5		1/2	古代	内務省大分事務所	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	013	079	209-13	土師器	黒	12.6	3.9			0.5		1/2	古代	内務省大分事務所	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	014	079	209-14	土師器	黒	12.6				0.7		1/2	古代	内務省大分事務所	307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	015	079	209-15	土師器	黒	14.8				0.5	0.8	1/4	古代	内務省大分事務所	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	016	079	209-16	土師器	黒	14.8				0.4	0.7	1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	017	079	209-17	土師器	黒	13.7				0.5	0.6	1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	018	079	209-18	土師器	黒	13.0	3.9			0.5	0.5	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	019	079	209-19	土師器	黒	11.3	3.0			0.4	0.6	1/2	古代	熊本県(熊本)・近畿地方	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	020	079	209-20	土師器	黒	13.85	4.2	9.7	0.4	0.6	1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
	021	079	209-21	土師器	黒	10.9	4.3	6.3	0.3	0.7	0.5	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	022	079	209-22	土師器	黒	10.5				0.6		1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	023	079	209-23	土師器	黒	10.5				0.9	0.5	1/2	古代		307/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	024	079	209-24	土師器	黒	11.4				0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
	025	079	209-25	土師器	黒	11.4				0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
	026	079	209-26	土師器	黒	11.6				0.4	0.6	1/2	古代	熊本県(熊本)・近畿地方	317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	027	079	209-27	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	028	079	209-28	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	029	079	209-29	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	030	079	209-30	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	031	079	209-31	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	032	079	209-32	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	033	079	209-33	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	034	079	209-34	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	035	079	209-35	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	036	079	209-36	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	037	079	209-37	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	038	079	209-38	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	039	079	209-39	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	040	079	209-40	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	041	079	209-41	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	042	079	209-42	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	043	079	209-43	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	044	079	209-44	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
	045	079	209-45	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡
046	079	209-46	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
047	079	209-47	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
048	079	209-48	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
049	079	209-49	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
050	079	209-50	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
051	079	209-51	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
052	079	209-52	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
053	079	209-53	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
054	079	209-54	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
055	079	209-55	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
056	079	209-56	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
057	079	209-57	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
058	079	209-58	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
059	079	209-59	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
060	079	209-60	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
061	079	209-61	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
062	079	209-62	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
063	079	209-63	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
064	079	209-64	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
065	079	209-65	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
066	079	209-66	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
067	079	209-67	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
068	079	209-68	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
069	079	209-69	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
070	079	209-70	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
071	079	209-71	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
072	079	209-72	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
073	079	209-73	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
074	079	209-74	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
075	079	209-75	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
076	079	209-76	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	
077	079	209-77	土師器	黒	11.1				0.4	0.6	1/2	古代		317/1	灰褐色	片	砂子田I遺跡	

砂子田1遺跡

上巻・陶器編・電(3)

時代	調査年度	調査区画	発掘面積	調査者	調査期間	調査日	調査時間	調査場所	調査内容	調査結果	調査者	調査機関	
縄文時代	151	151-1	151-1	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	152	151-2	151-2	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	153	151-3	151-3	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	154	151-4	151-4	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	155	151-5	151-5	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	156	151-6	151-6	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	157	151-7	151-7	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	158	151-8	151-8	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	159	151-9	151-9	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	160	151-10	151-10	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	161	151-11	151-11	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	162	151-12	151-12	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	163	151-13	151-13	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	164	151-14	151-14	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	165	151-15	151-15	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
縄文時代	166	151-16	151-16	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	167	151-17	151-17	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	168	151-18	151-18	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	169	151-19	151-19	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	170	151-20	151-20	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	171	151-21	151-21	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	172	151-22	151-22	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	173	151-23	151-23	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	174	151-24	151-24	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	175	151-25	151-25	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	176	151-26	151-26	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	177	151-27	151-27	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	178	151-28	151-28	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	179	151-29	151-29	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	180	151-30	151-30	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
縄文時代	181	151-31	151-31	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	182	151-32	151-32	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	183	151-33	151-33	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	184	151-34	151-34	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	185	151-35	151-35	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	186	151-36	151-36	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	187	151-37	151-37	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	188	151-38	151-38	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	189	151-39	151-39	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	190	151-40	151-40	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	191	151-41	151-41	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	192	151-42	151-42	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	193	151-43	151-43	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	194	151-44	151-44	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	195	151-45	151-45	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
縄文時代	196	151-46	151-46	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	197	151-47	151-47	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	198	151-48	151-48	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	199	151-49	151-49	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	200	151-50	151-50	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	201	151-51	151-51	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	202	151-52	151-52	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	203	151-53	151-53	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	204	151-54	151-54	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	205	151-55	151-55	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	206	151-56	151-56	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	207	151-57	151-57	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	208	151-58	151-58	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	209	151-59	151-59	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	210	151-60	151-60	縄文時代	1988	7.1	5.0	0.6	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0

砂子田 I 遺跡
木製品一覧

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cm	厚さ・cm	備考
B地区	01	387	276	SD08	漆器	ブナ属				外面黒漆 内面朱漆 孔1の径 6.4 厚・体部0.5底部0.7
	02	387		SD08	漆器	ブナ属				黒漆 一部朱漆残存 朱筆文様があったと思われる 底径-5.2 厚・体部0.4底部0.4
	03	387		SD08	漆器	ブナ属				外面黒漆 内面朱漆 底径-6.9 厚・体部0.9
	04	387	276	SD08	下皿	ヒノキ	22.2	11.2	6.00	漆器 台厚-1.5
	05	387	276	SD08	円形板	スギ	12.7		1.20	
	06	387	277	SD08	折敷	スギ	24.9	6.7	0.80	
	07	387	277	SD08	板状木製品	スギ	76.0	9.6	2.80	
	08	387		SD00	漆器	トナリ	13.0	8.3	0.80	外面一部黒漆(もしくは下地か) 残存 変形 幅1径 口径-10.9 底径-5.5 筒高-2.2 厚・体部0.9底部1.4
	09	387	277	SD00	漆器	ケヤキ	11.0	7.0	0.70	内外黒漆に朱漆 底径-7.6 厚・体部1.1 底部0.9
	10	387	276	SD00	円形板	スギ	14.1 (径)		0.40	
	11	387	276	SD00	筒内	スギ	5.8 (径)		0.80	表面黒漆
	12	387	276	SD00	円形板	スギ	14.7 (径)		1.50	
	13	387	276	SD00	円形板	サクラ	11.8 (径)		1.10	未釘残存
	14	388	276	SD00	筒	ナシ類科 (7.0)		3.8	1.00	
	15	388	277	SD00	折敷	スギ	16.2	9.3	0.80	
	16	388	277	SD00	折敷	スギ	24.7	7.7	0.90	
	17	388	277	SD00	簡形板	スギ	21.3	4.0	0.80	捺印有り
	18	388	277	SD00	板状木製品	スギ	22.6	10.1	1.10	
	19	388	277	SD00	下皿	ケヤキ	22.0	9.8	3.30	漆器
	20	388	276	SD09	漆器	ブナ属	11.0	10.0		内面一部朱漆残存 底面にコロロの爪痕あり 口径-11.3 底径-5.6 筒高-7.5 厚・体部0.6 底部1.7
	21	388		SD09	漆器	ブナ属	8.0	5.0	1.40	内外面黒漆 口径-(15.0-) 厚・体部1.4
	22	388		SD09	下皿	スギ	17.0	8.6	2.40	筒1 内厚-1.0
	23	388	277		木栓	スギ	3.0 (最大径)	5.5 (高)		
	24	388	277		木栓	スギ	3.1 (最大径)	6.3 (高)		
	25	388	277		漆器(指物?)	ヒノキ	7.4	3.0	0.50	内外面黒漆

金属製品一覧

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	現勢・長さ cm	幅	厚	重 g	備考	
B地区	01	389	286	SD25	鉄滓	3.3	5.5	2.0	39.2		
	03	389	286	SX04	鉄滓	5.1	6.5	4.1	122.2		
	04	389	286	SD29	鉄滓	5.4	9.5	2.5	131.9		
	05	389	286	SD25	鉄滓	3.8	5.9	2.6	28.2		
	06	389	286	SD20	鉄滓	5.2	10.0	3.2	80.8		
	07	389	286		鉄滓	4.7	5.5	1.9	33.8		
	09	389	286		鉄滓	4.0	6.3	2.0	34.1		
	10	389	286		鉄滓	3.5	4.4	1.8	24.3		
	12	389	286		鉄滓	7.1	8.3	2.9	187.1		
	I地区	02	389	286	SX03	鉄滓	5.7	5.7	2.1	31.5	
	C地区	08	389	286		鉄滓	4.7	6.3	3.4	87.5	
		11	389	286		鉄滓	4.4	6.5	2.0	34.2	

石製品一覧

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cm	厚さ・cm	重さ・g
B地区	01	389	286	SX04	磨石	花崗閃緑岩	13.0	3.6	6.1	1060
	02	389	286		磨状石製品	砂岩	13.0	6.0	4.0	460.0
	05	389	286		砥石	砂質泥岩	6.5	6.3	1.9	96.0
	03	389	286	SD00	砥石	凝灰岩	4.4	2.5	2.3	23.0
I地区	03	389	286	SX08	磨状石製品	凝灰岩	15.2	6.1	6.1	762.0
	04	389	286	SX08	砥石	泥炭岩	10.4	3.4	1.7	81.1
	07	389	286		砥石	凝灰岩	1.7	2.8	1.6	16.2
	06	389	286		砥石	凝灰岩	6.3	4.3	2.7	73.4

付 論

1. 姉中町域における古代集落の変遷内田亜紀子
2. 中世の河川構築遺構について武田健次郎
3. 中名V・VI遺跡出土の中世土器・陶磁器組成について森 隆
4. 中名V・VI遺跡出土の中世土器・陶磁器資料森 隆
5. 中名遺跡群における古環境復元中村 亮仁

1. 婦負における古代集落の様相

内田並紀子

1. はじめに

中名Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ遺跡が位置する婦負郡は、高山県の中央部に延びる呉羽・射水(羽根山)丘陵と、この東に広がる神通川、井田川、山田川の3河川が形成した複合扇状地から構成される。丘陵地には墳丘墓や古墳が数多く造営され、眼下の平野部には基盤集落が形成されるなど、婦負西部は古くから開発の進んだ地域である。一方東側に広がる扇状地は神通川の流路変遷が著しく、特に井田川間との一帯は現在も旧河道の蛇行跡が残る氾濫原であるため、遺跡の形成は稀であると考えられてきた。しかし近年の開発工事に伴う調査において、中名遺跡群をはじめとする古代以降の遺跡が相次いで発見されている。ここではまず中名遺跡群の古代建物を総括し、集落の変遷についてまとめる。次に婦負郡に位置する遺跡を概観し、特に集落の立地する地形に焦点を当て、中名遺跡群の集落形成に至る背景について考えてみたい。

2. 中名遺跡群について

(1) 調査区と時期設定

中名Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ遺跡(中名遺跡群と仮称する。以下同様)は南北に繋がる一連の遺跡であり、一般地方道館本郷・添島線がほぼ中央部を横切り南北に二分する。地方道以南の調査区については既に報告がなされている⁽⁹⁾。本書で扱っている地方道以北における調査区は合計14地区にわたるが、このうち古代の遺構が検出されているのは中名Ⅴ遺跡A1・D1・D2・D3・D4地区、中名Ⅵ遺跡A・B地区の計7地区である。ここでは地方道以北の7地区を検討対象として扱い、基本的な時期設定については地方道以南の既報告における考察⁽¹⁰⁾を踏襲することとする。なおこの調査区内から、既報告における古代Ⅰ期(8世紀前半)を遡る7世紀前半・8世紀初頭の遺構が検出されているが、混乱を避けるため敢えて新番号をつけず、「7世紀前半段階」「古代Ⅰ期直前段階」とした。

(2) 古代建物の変遷

7世紀前半段階 [竪穴建物A-SI01・02・03・04・06]

遺跡北部のA地区で竪穴建物が5棟構築される。全て方形を呈し、造り付けカマドを有する。カマドの残存状態は比較的良好で、SI01・06には構築部材や袖石が残存する。A地区にみられる5棟のうち3棟(SI01・04・06)には壁溝が巡る。

古代Ⅰ期直前段階 [竪穴建物A-SI05・B-SI04・05] 8世紀初頭

A地区に加えて更に北側のB地区にも竪穴建物が構築される。幅細の調査区のため建物規模は不明であるが、2棟確認できる。SI04はカマドを北壁にもつ。SI05はカマドが壊されており、南壁に焼土と炭化物の広がる範囲が確認されている。周溝をもつものはない。

古代Ⅰ・Ⅱ期 [竪穴建物B-SI01・02・03・06] 8世紀前半～中葉

集落の中心が南下し、B地区南部に集中する。竪穴建物4棟が切り合って確認でき、2段階の変遷が考えられる。出土遺物をみると須石器坏蓋の頂部調整に回転ヘラ削り調整がされないなど、地方道以南B4地区の竪穴建物群よりは若干後出のものが含まれるため、Ⅱ期のものが主体であると考えられる。

古代Ⅲ・Ⅳ期 [竪穴建物D4-SI02・03・04、掘立柱建物D4-SB01・02・03、掘立柱建物付随施設A-SK001・002] 8世紀後半～9世紀前半

竪穴建物に加えて掘立柱建物が現れる段階である。集落の中心はD4地区及び地方道以南のB4地

7世紀前半段階

古代Ⅰ期直前段階
古代Ⅰ・Ⅱ期

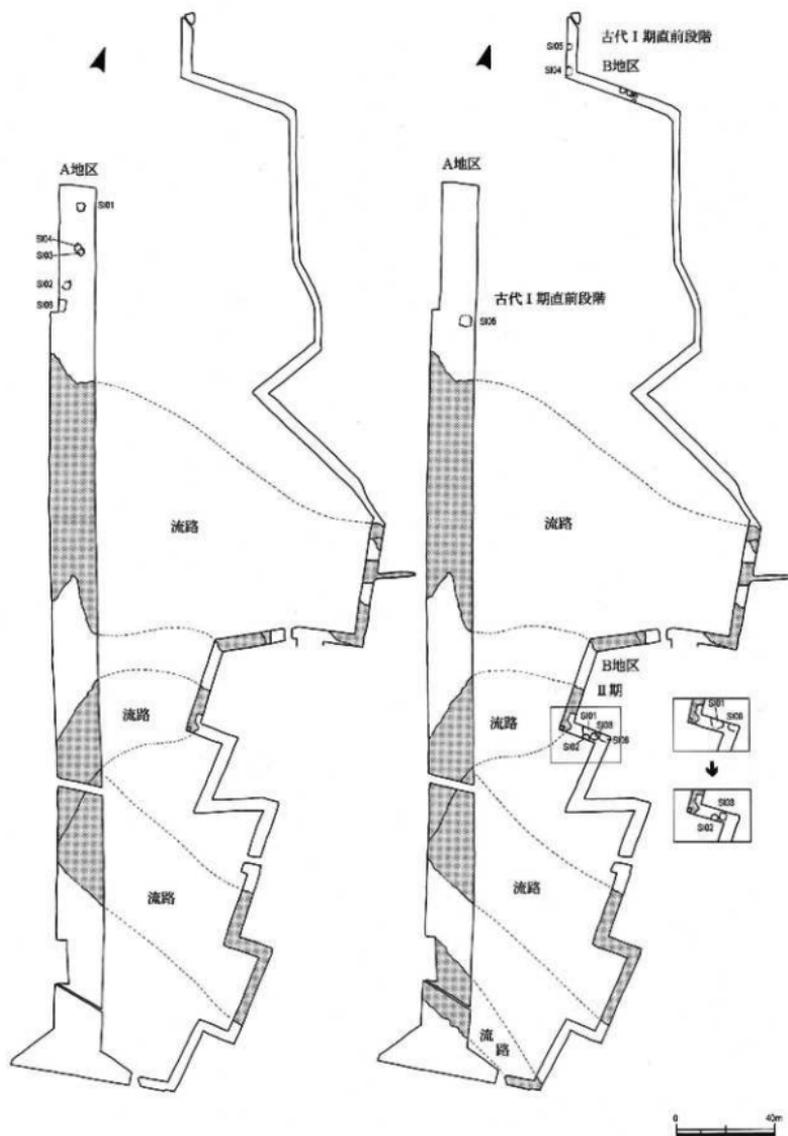


图1 中名V・VI遺跡古代遺構變遷圖(1) (1:2,000)

古代Ⅲ・Ⅳ期

古代Ⅴ期以降

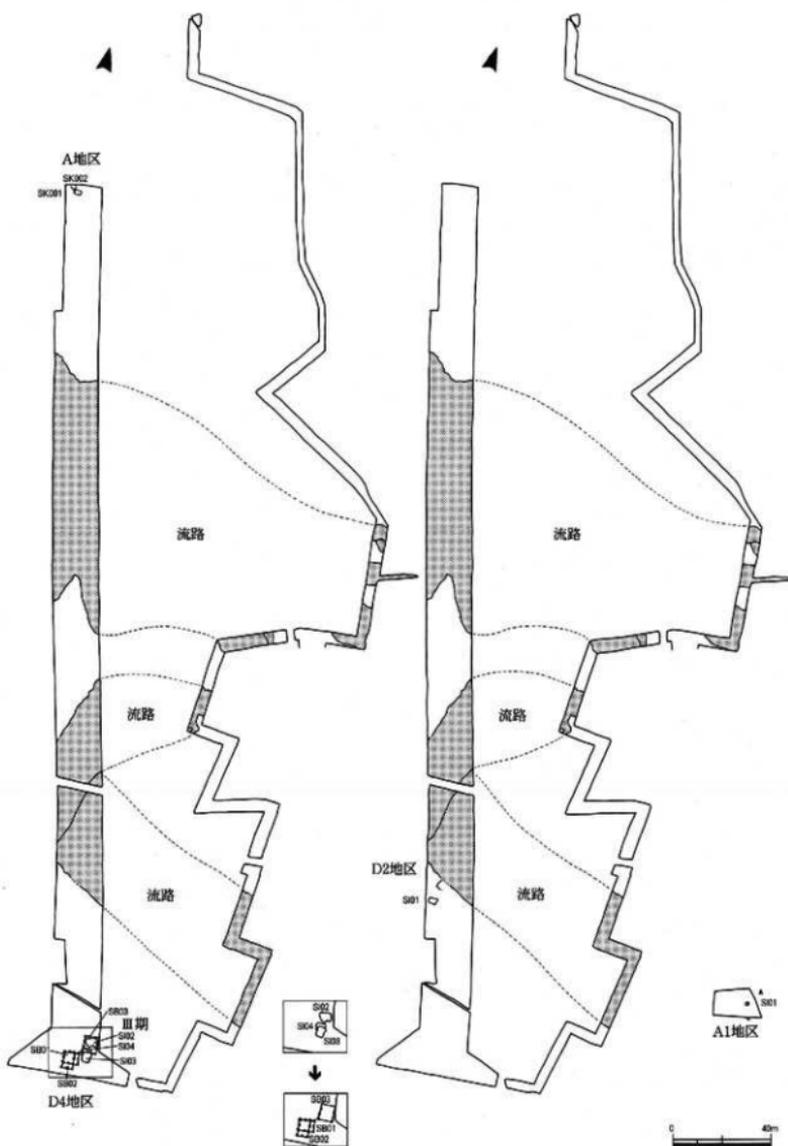


图2 中名Ⅴ・Ⅵ遺跡古代遺構変遷圖(2) (1:2,000)

区にあると考えられる。D4地区では竪穴建物から掘立柱建物へ建物構造が変化する。出土遺物の年代から9世紀初頭には掘立柱建物が成立していたと考えられる。遺跡北部のA地区では火処の施設と考えられる土坑SK001・002が確認できることから、調査区外における掘立柱建物等の存在が想定される。

古代V期以降 [竪穴建物D2-SI01・A1-SI01] 9世紀後半以降

南部を中心に分散する。前期でみられた掘立柱建物は確認できず、小規模の竪穴建物が散在する。

(3) 小結

調査区の中央部を旧河道が数回流れを変えて通るため、建物は旧河道間の微高地上に形成される。旧河道は埋没後、低湿地となっていたと考えられ、この上に集落は形成されない。古代I期以前は遺跡北側に建物が集中して形成されており、北に約300m離れて立地する砂子田I遺跡との関連が考えられる。古代I・II期には集落は竪穴建物のみで構成され、遺跡北側から中央部へ移動する。古代III・IV期以降には竪穴建物に加えて掘立柱建物が建てられ、集落の中心が南端に移動する。同様に地方道以南のB4地区においても古代III・IV期に掘立柱建物と竪穴建物が共存する集落構造が考えられている。なお遺跡北側では掘立柱建物は検出されていないが、付随施設と考えられる土坑が検出されており、古代III期以降にも北側調査区外に集落の広がる可能性が考えられる。古代V期以降は建物構成にまとまりがみられず、南部を中心に散在する。

3. 周辺地域の古代集落遺跡

次に、婦負地域に形成された集落遺跡について検討する。対象時期は弥生時代終末期から古代までとする。検討に先立って、当該地域を河川や農業用水路の水系からみてA～Cの3地域に分けた。各地域の有する地形的特徴によって遺跡形成にどのような変化が生じるのか考えてみたい。

(1) 地域A

井田川と熊野川に挟まれる地域で、複数河川が形成した複合扇状地からなる。現在は中央を流れる神通川により東西に分断されているが、流路変化以前は一帯の地域であり、院政期の文献資料に現れる徳人寺家宮河荘の範囲に概ね合致すると考えられる。但し該当地域が広範囲にわたるため、ここでは中名遺跡群が立地する神通川左岸を中心に扱うこととする。

地域Aに立地する遺跡は複合扇状地上の微高地を選んで形成されているが、神通川の度重なる氾濫により遺跡が削平されている可能性もあり、遺跡数は少ない傾向にある。弥生時代に遡る遺跡はみられず、遺構の形成が確認できるのは古墳時代後期以降の砂子田I遺跡、中名VI遺跡である。

砂子田I遺跡は古墳時代後半から古代・中世に至る集落遺跡である。古墳時代の遺構として平成12年度調査のB地区において竪穴建物が1棟検出されており、建物内から6世紀中葉～後葉の黒色土器碗、土師器高坏が出土している。この他にも6・7世紀に遡る遺物がみられるが、出土量は少なく、中心を8～9世紀にもつ遺跡であると考えられている⁽²³⁾。

この他、神通川左岸の古代の遺跡としては、袋遺跡、板倉II遺跡、鶴坂I遺跡が確認されている。

(2) 地域B

山田川と井田川に挟まれる地域で、井田川水系に属する。井田川左岸の扇状地と西側に広がる富崎丘陵から構成される。弥生時代後期後半(法仏式期)には、富崎丘陵上に高地性集落として富崎赤坂遺跡、難山砦遺跡が形成される。弥生時代終末期(月形式期)に入ると集落の立地は平野に移り、丘陵縁辺の平野部に富崎遺跡、井田川扇状地上に南部I遺跡が形成される。富崎丘陵には県内最古の四隅突出型埴土墓である富崎3号墓のほか、前方後方墳、円墳、方墳が密集して築造される。